

王寺町
男女共同参画、
女性の活躍推進に関する意識調査
調査結果報告書

令和4年3月

王 寺 町

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
1	回答者属性	2
2	仕事と生活のバランスについて	19
3	「仕事」に関する考えについて	41
4	男女の地域や家庭における役割等について	81
5	地域活動について	102
6	今後必要な施策等について	106

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、家庭、地域、社会生活における男女共同参画、女性の活躍推進に関する意識等を把握し、男女が共にいきいきと活躍するための施策を検討する基礎資料を得ることを目的に実施したものです。

2 調査対象

王寺町在住の満 20 歳以上の人のうちから無作為抽出

3 調査期間

令和 4 年 1 月 21 日～令和 4 年 2 月 7 日


4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配 布 数	有効回答数	有効回答率
2,000 通	928 通	46.4%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

II 調査結果

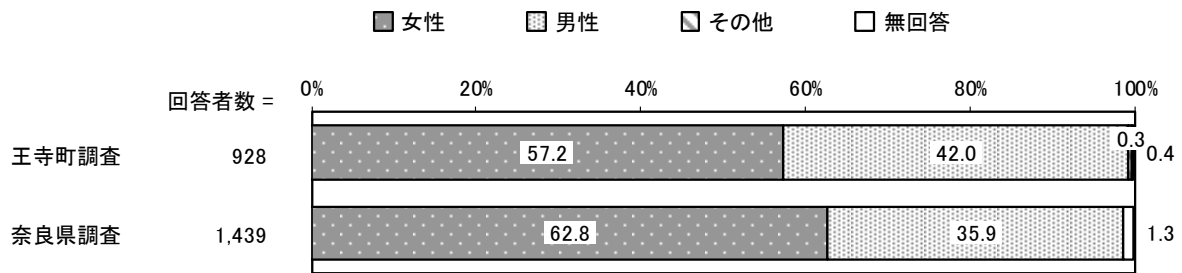
1 回答者属性

問 1-1 あなたの性別は ※あなたが認識しているご自分の性別を選んでください

「女性」の割合が57.2%、「男性」の割合が42.0%となっています。

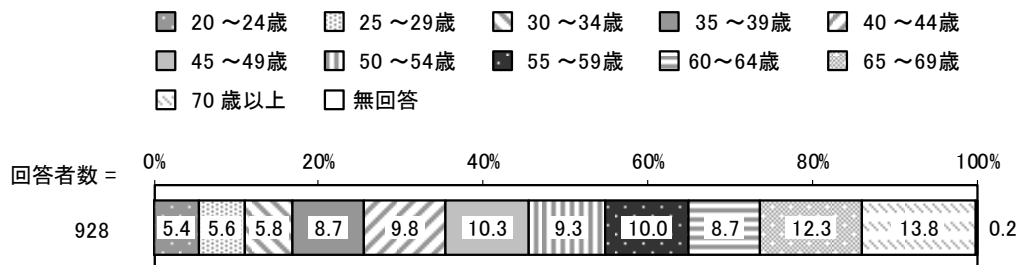
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、「女性」が5.6ポイント低く、「男性」が6.1ポイント高くなっています。



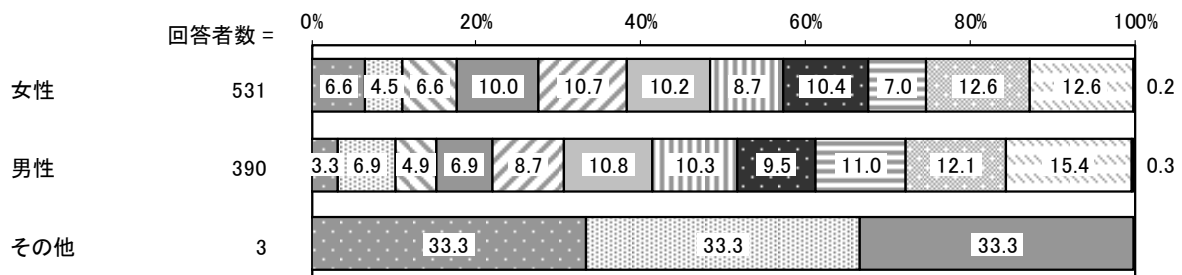
問 1-2 あなたの年齢はおいくつですか

「70歳以上」の割合が13.8%と最も高く、次いで「65～69歳」の割合が12.3%、「45～49歳」の割合が10.3%となっています。



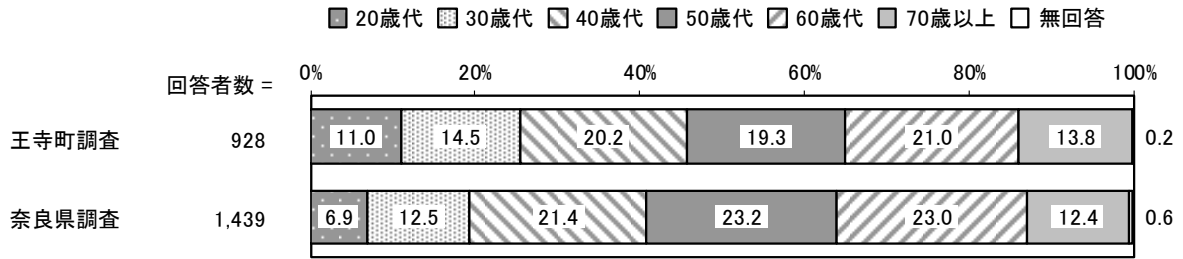
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

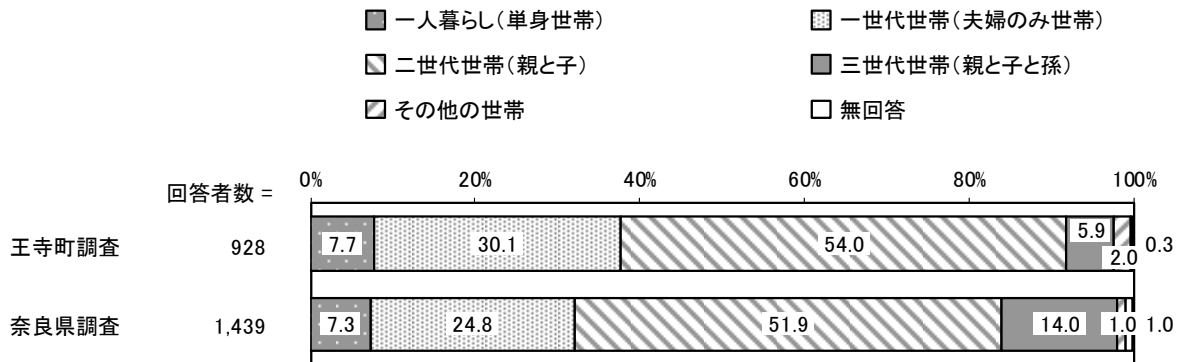


問 1-3 あなたのご家庭の世帯構成は次のうちどれですか

「二世世代世帯（親と子）」の割合が 54.0%と最も高く、次いで「一世代世帯（夫婦のみ世帯）」の割合が 30.1%となっています。

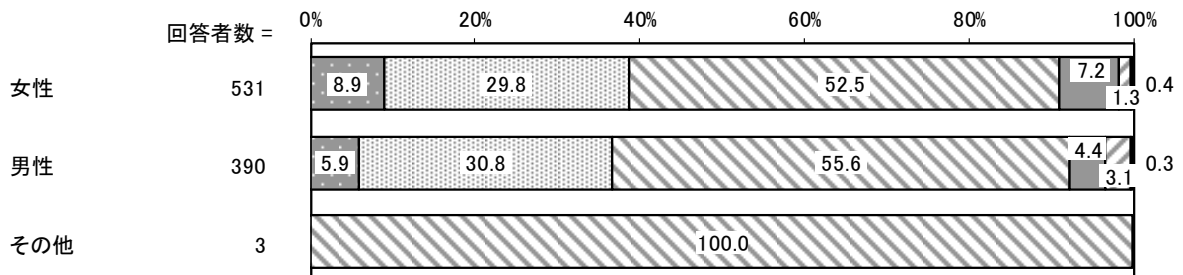
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、「一世代世帯（夫婦のみ世帯）」が 5.3 ポイント高く、「三世世代世帯（親と子と孫）」が 8.1 ポイント低くなっています。



【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

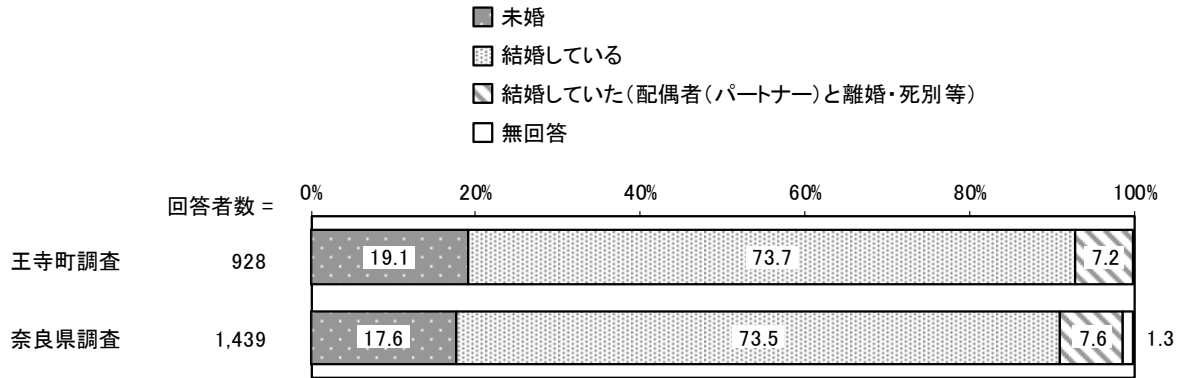


問 1-4 あなたは、結婚（婚姻の届出のない事実婚を含む）されていますか

「結婚している」の割合が 73.7%と最も高く、次いで「未婚」の割合が 19.1%となっています。

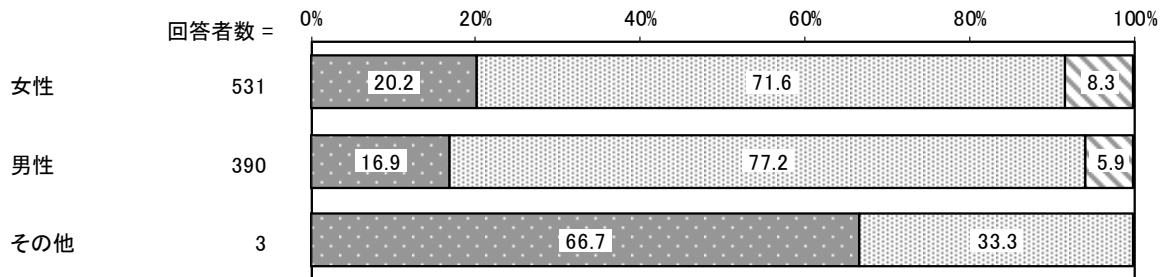
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「結婚している」の割合が高く、約8割となっています。

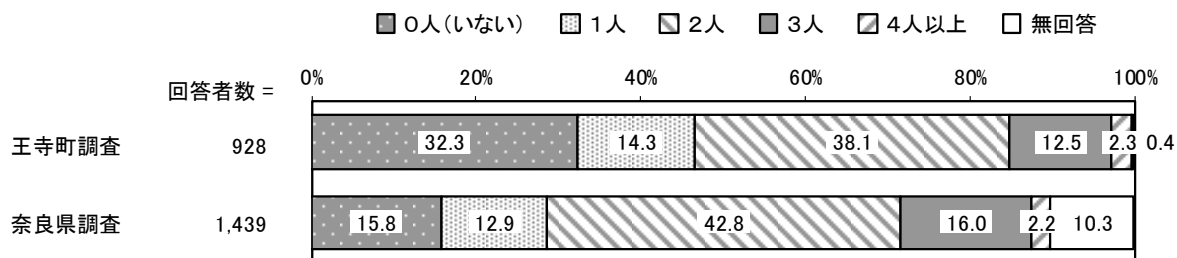


問1-5 ①あなたは、お子さんが何人おられますか（別居を含む）

「2人」の割合が38.1%と最も高く、次いで「0人（いない）」の割合が32.3%、「1人」の割合が14.3%となっています。

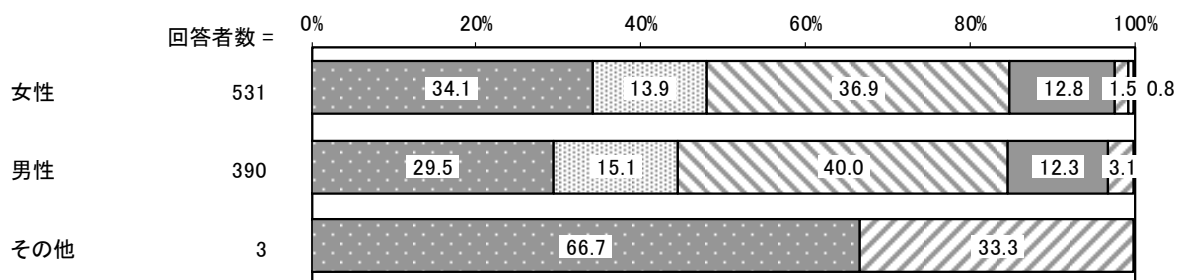
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、「0人（いない）」が16.5ポイント高くなっています。



【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

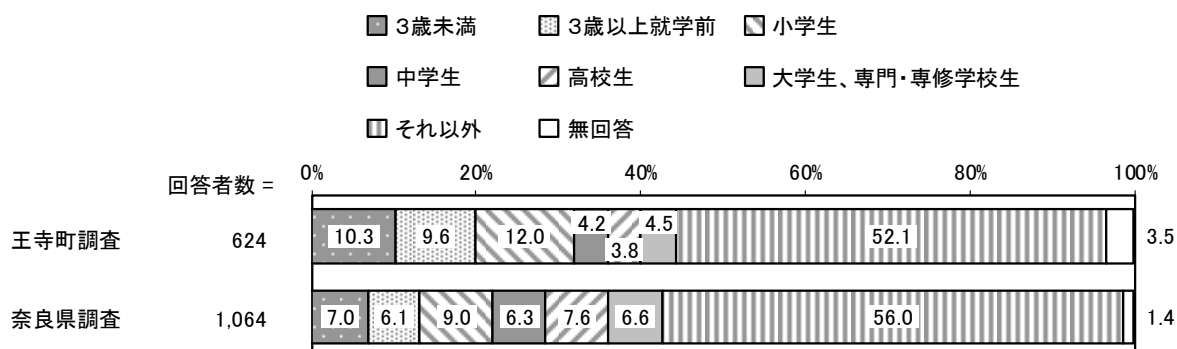


問② お子さんがおられる場合、一番下のお子さんは、次のうちどれにあてはまりますか

「それ以外」の割合が52.1%と最も高く、次いで「小学生」の割合が12.0%となっています。

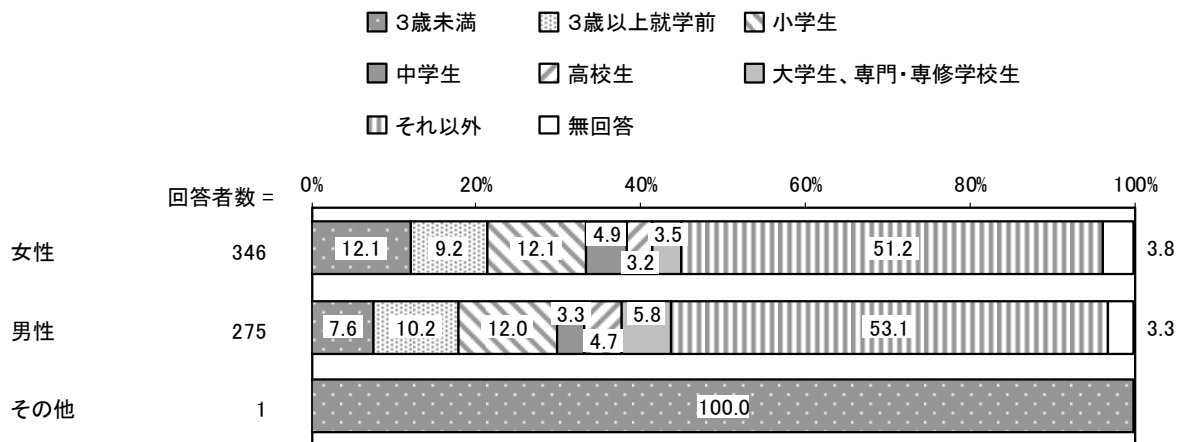
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



問2 あなたの就業状況についてうかがいます。

配偶者（パートナー）がいらっしゃる場合、分かる範囲であなたの配偶者（パートナー）についてもお答えください。（○はそれぞれ1つずつ）

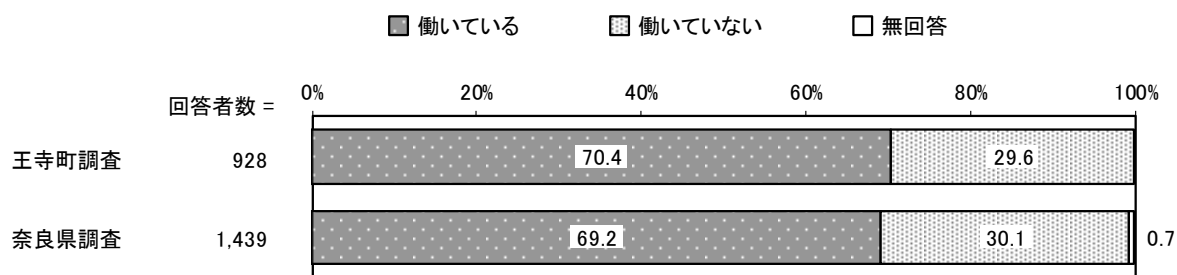
1. 就労状況

(1) 回答者自身

「働いている」の割合が70.4%、「働いていない」の割合が29.6%となっています。

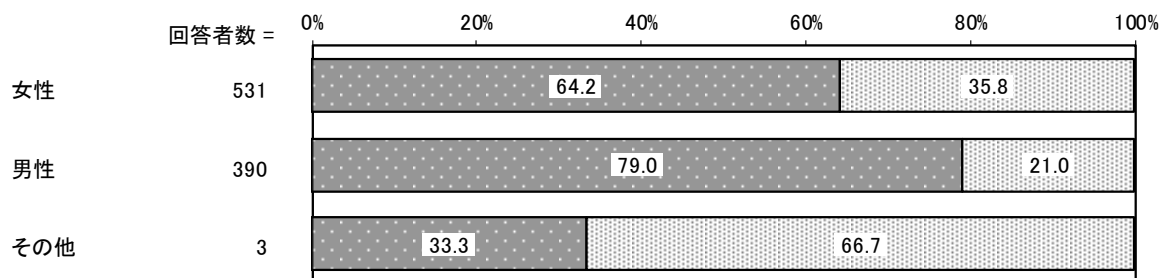
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、大きな差異はみられません。



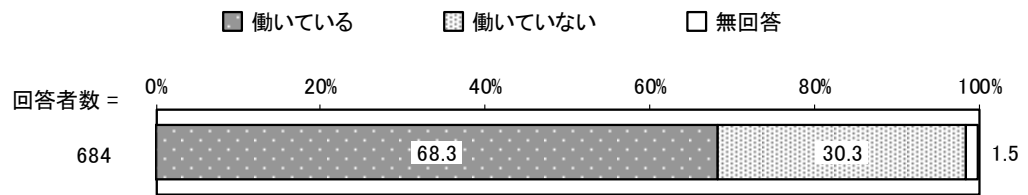
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「働いていない」の割合が高く、3割半ばとなっています。



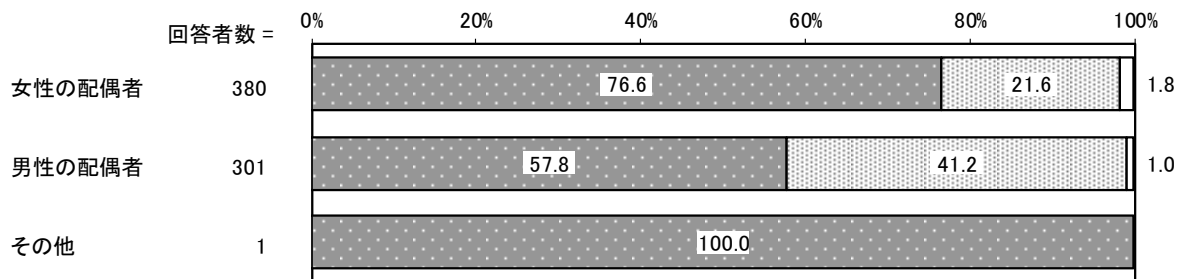
(2) 配偶者

「働いている」の割合が68.3%、「働いていない」の割合が30.3%となっています。



【性別】

性別で見ると、男性の配偶者に比べ、女性の配偶者で「働いている」の割合が高く、7割半ばとなっています。



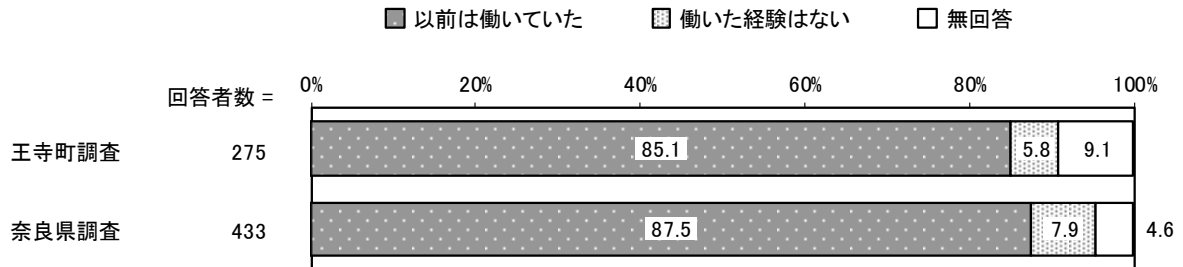
2. 以前の就労状況（「働いていない」と回答した人のみ）

（1）回答者自身

「以前は働いていた」の割合が85.1%、「働いた経験はない」の割合が5.8%となっています。

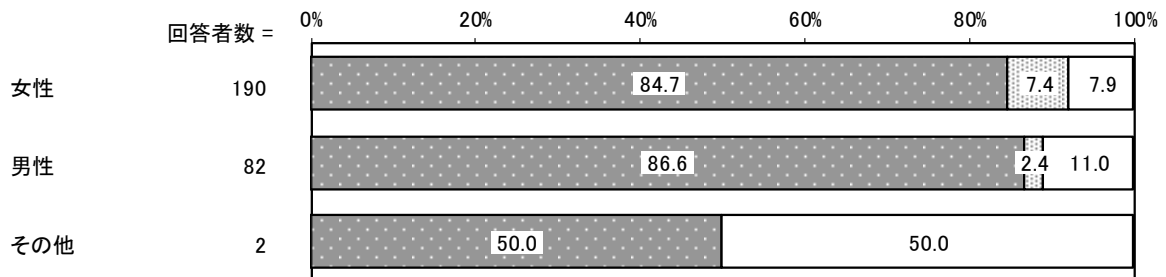
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、大きな差異はみられません。



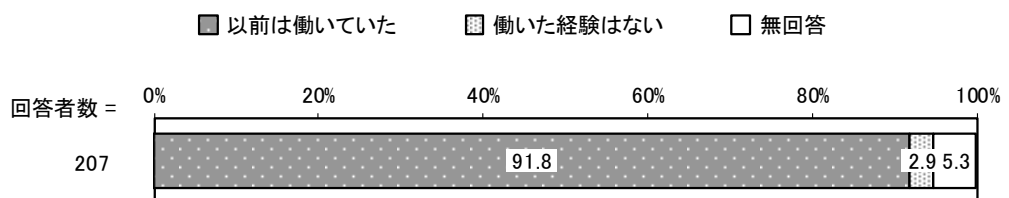
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「働いた経験はない」の割合が高くなっています。



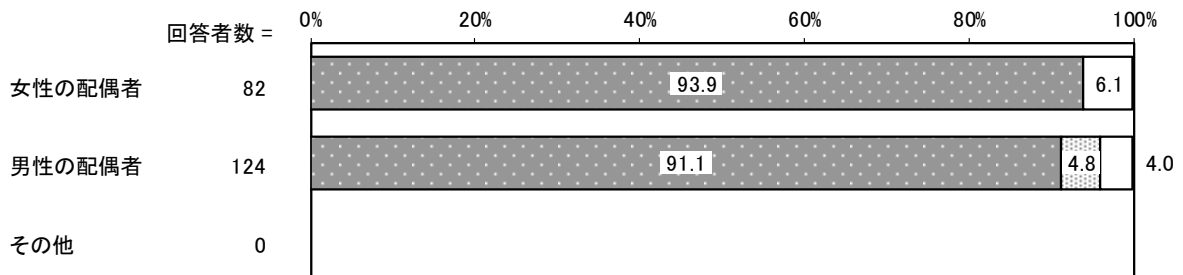
（2）配偶者

「以前は働いていた」の割合が91.8%、「働いた経験はない」の割合が2.9%となっています。



【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



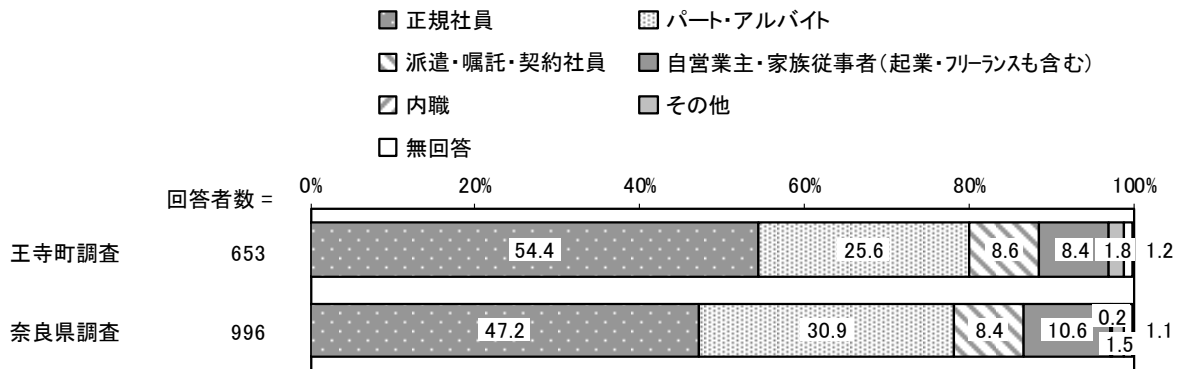
3. 就業形態

(1) 回答者自身

「正規社員」の割合が54.4%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」の割合が25.6%となっています。

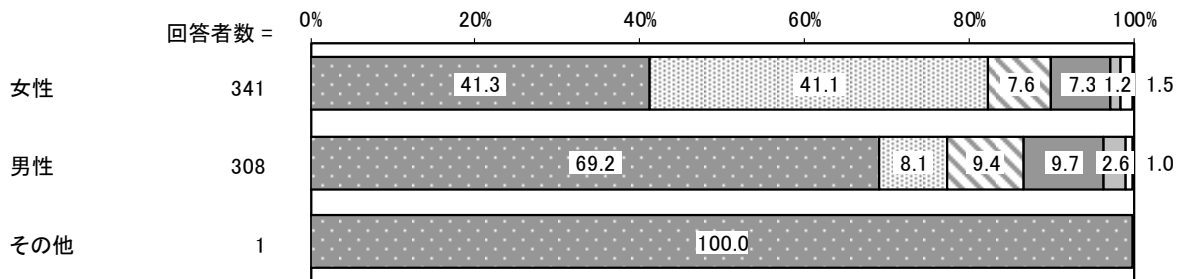
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、「正規社員」が7.2ポイント高く、「パート・アルバイト」が5.3ポイント低くなっています。



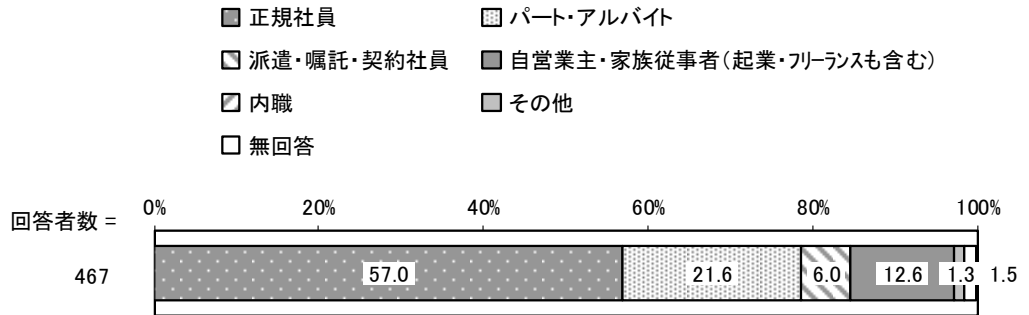
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「パート・アルバイト」の割合が高く、約4割となっています。また、女性に比べ、男性で「正規社員」の割合が高く、約7割となっています。



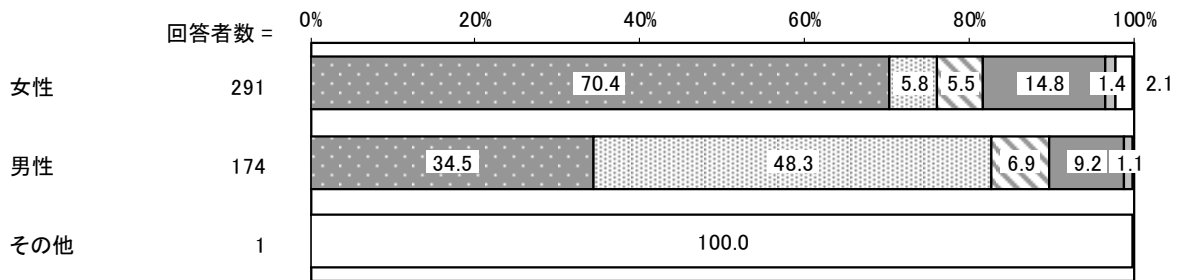
(2) 配偶者

「正規社員」の割合が 57.0%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」の割合が 21.6%、「自営業主・家族従事者（起業・フリーランスも含む）」の割合が 12.6%となっています。



【性別】

性別で見ると、男性の妻に比べ、女性の夫で「正規社員」「自営業主・家族従事者（起業・フリーランスも含む）」の割合が高くなっています。また、女性の夫に比べ、男性の妻で「パート・アルバイト」の割合が高く、約5割となっています。



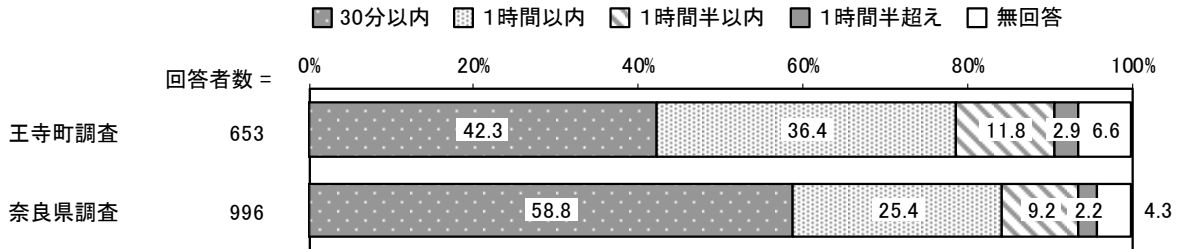
4. 通勤時間（片道）

（1）回答者自身

「30分以内」の割合が42.3%と最も高く、次いで「1時間以内」の割合が36.4%、「1時間半以内」の割合が11.8%となっています。

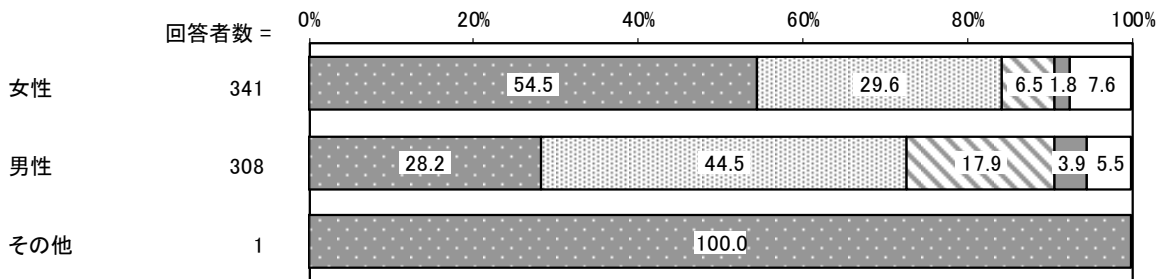
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、「30分以内」が16.5ポイント低く、「1時間以内」が11.0ポイント高くなっています。



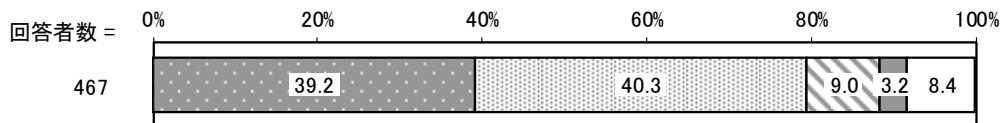
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「30分以内」の割合が高く、5割半ばとなっています。また、女性に比べ、男性で「1時間以内」「1時間半以内」の割合が高くなっています。



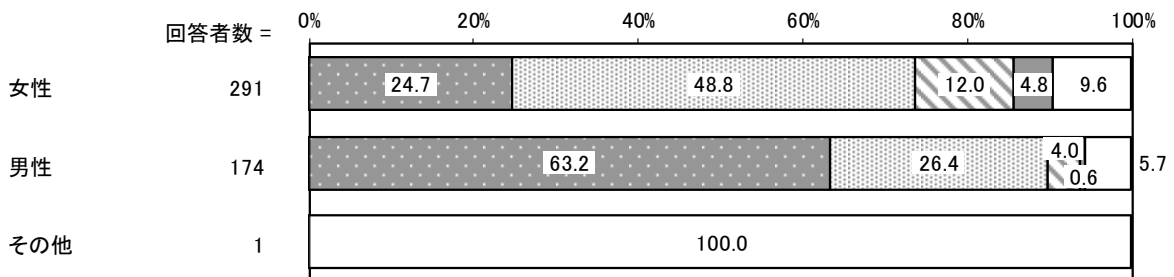
（2）配偶者

「1時間以内」の割合が40.3%と最も高く、次いで「30分以内」の割合が39.2%となっています。



【性別】

性別で見ると、男性の妻に比べ、女性の夫で「1時間以内」「1時間半以内」の割合が高くなっています。また、女性の夫に比べ、男性の妻で「30分以内」の割合が高く、約6割となっています。



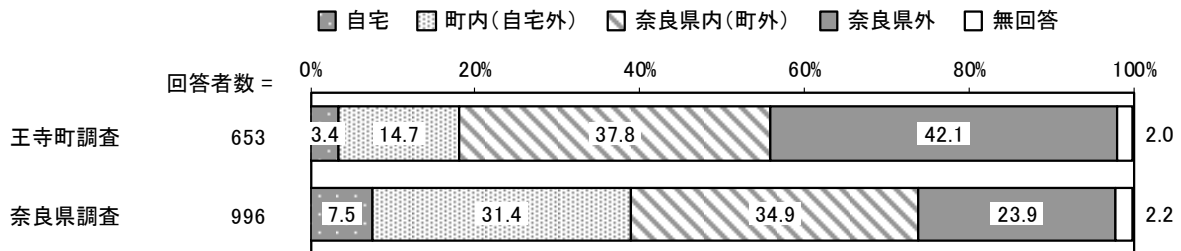
5. 勤務地

(1) 回答者自身

「奈良県外」の割合が42.1%と最も高く、次いで「奈良県内（町外）」の割合が37.8%、「町内（自宅外）」の割合が14.7%となっています。

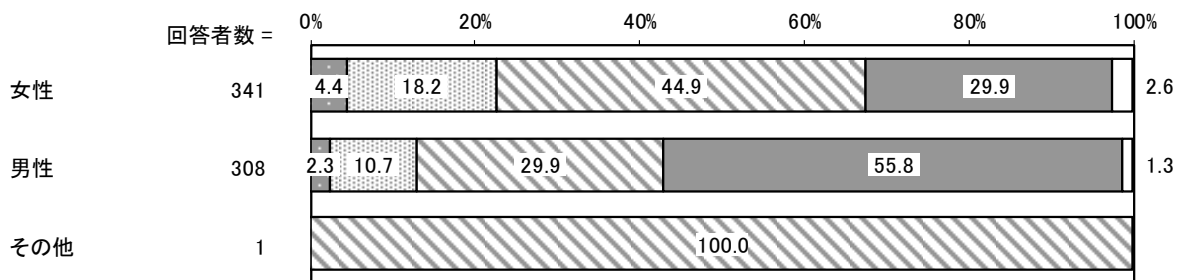
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、「町内（自宅外）」が16.7ポイント低く、「奈良県外」が18.2ポイント高くなっています。



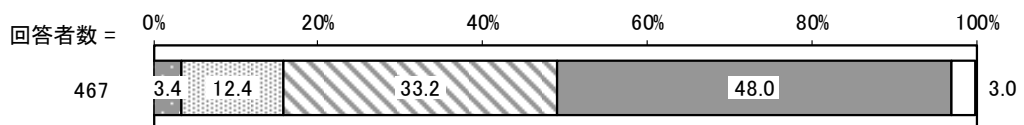
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「町内（自宅外）」「奈良県内（町外）」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「奈良県外」の割合が高く、5割半ばとなっています。



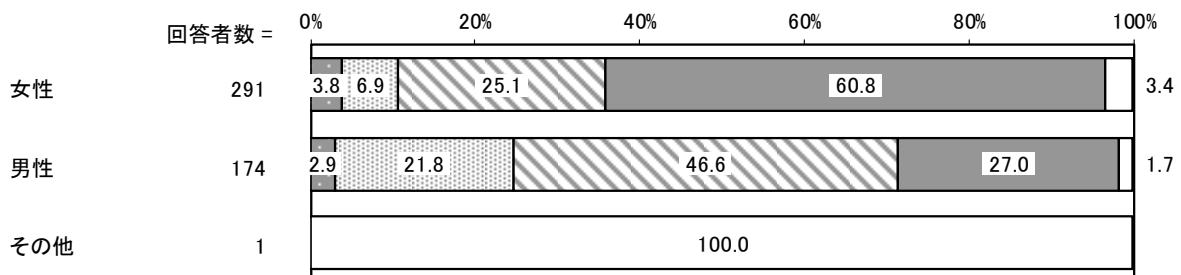
(2) 配偶者

「奈良県外」の割合が48.0%と最も高く、次いで「奈良県内（町外）」の割合が33.2%、「町内（自宅外）」の割合が12.4%となっています。



【性別】

性別でみると、男性の妻に比べ、女性の夫で「奈良県外」の割合が高く、約6割となっています。また、女性の夫に比べ、男性の妻で「町内（自宅外）」「奈良県内（町外）」の割合が高くなっています。



問3-1 あなたは、職業・進路について何から影響を受けましたか。それぞれの時期において影響を受けた人や物を3つまで教えてください。
(各時期につき〇は3つまで)

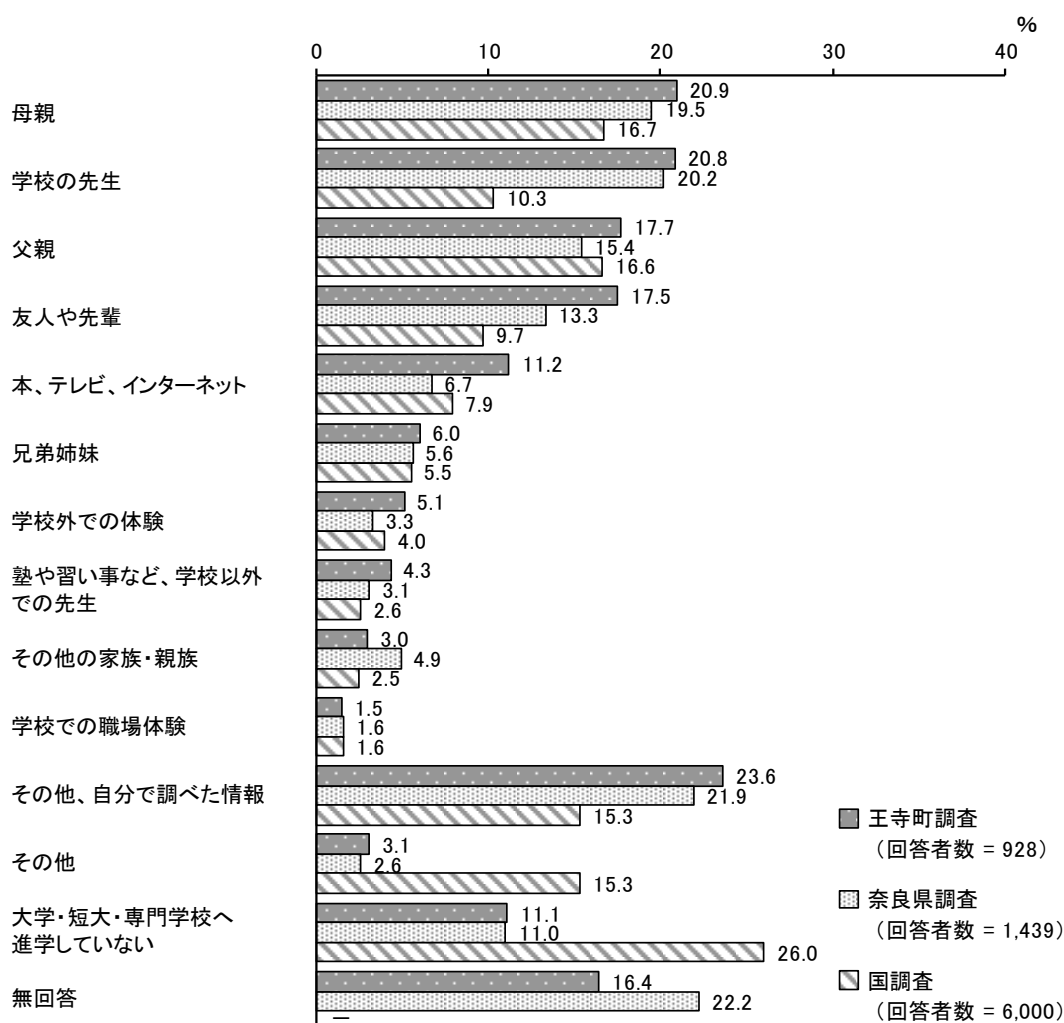
1. 大学・短大・専門学校への進学時

大学・短大・専門学校への進学時では、「その他、自分で調べた情報」の割合が23.6%と最も高く、次いで「母親」の割合が20.9%、「学校の先生」の割合が20.8%となっています。

【奈良県調査、国調査との比較】

奈良県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

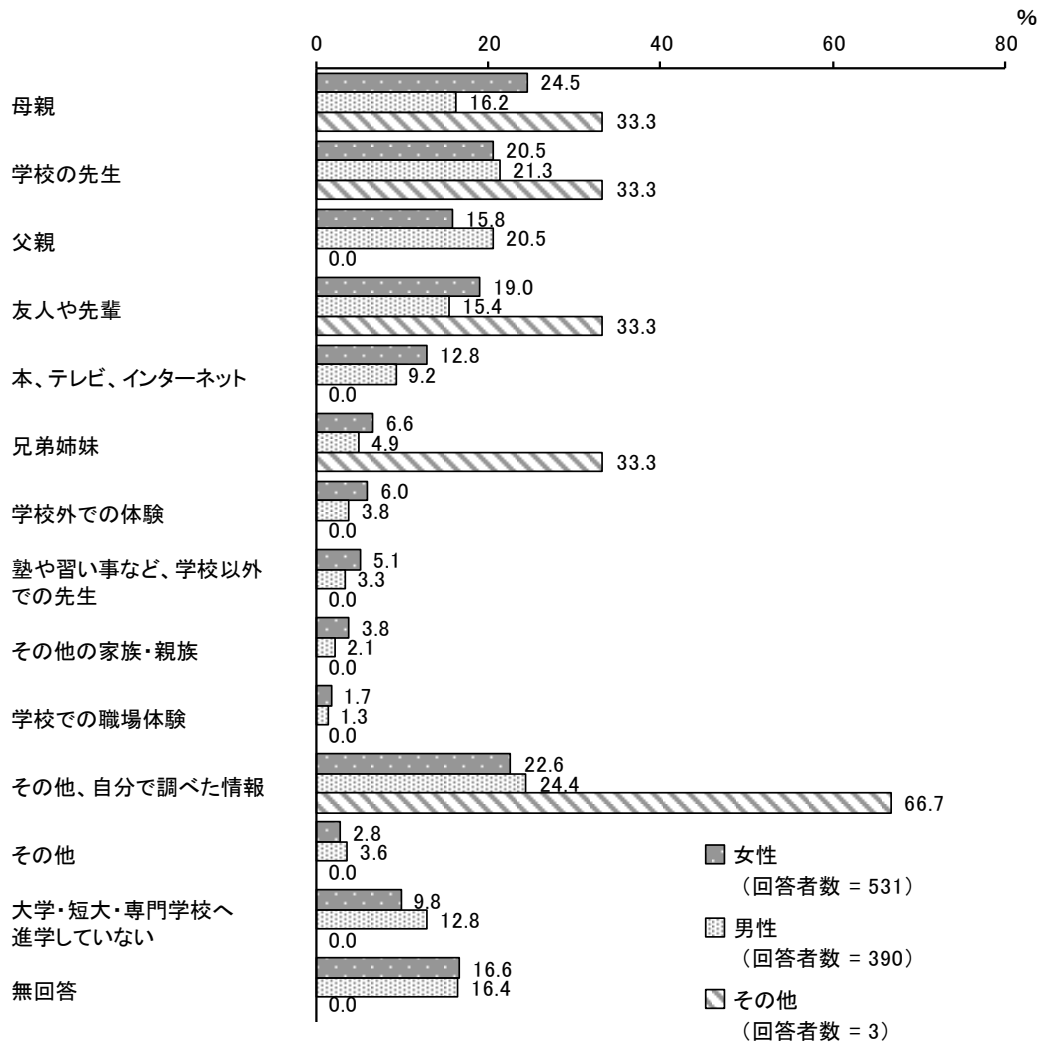
国調査と比較すると、「学校の先生」が10.5ポイント、「友人や先輩」が7.8ポイント、「その他、自分で調べた情報」が8.3ポイント高く、「大学・短大・専門学校へ進学していない」が14.9ポイント低くなっています。



(1) 大学・短大・専門学校への進学時

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「母親」の割合が高く、2割半ばとなっています。



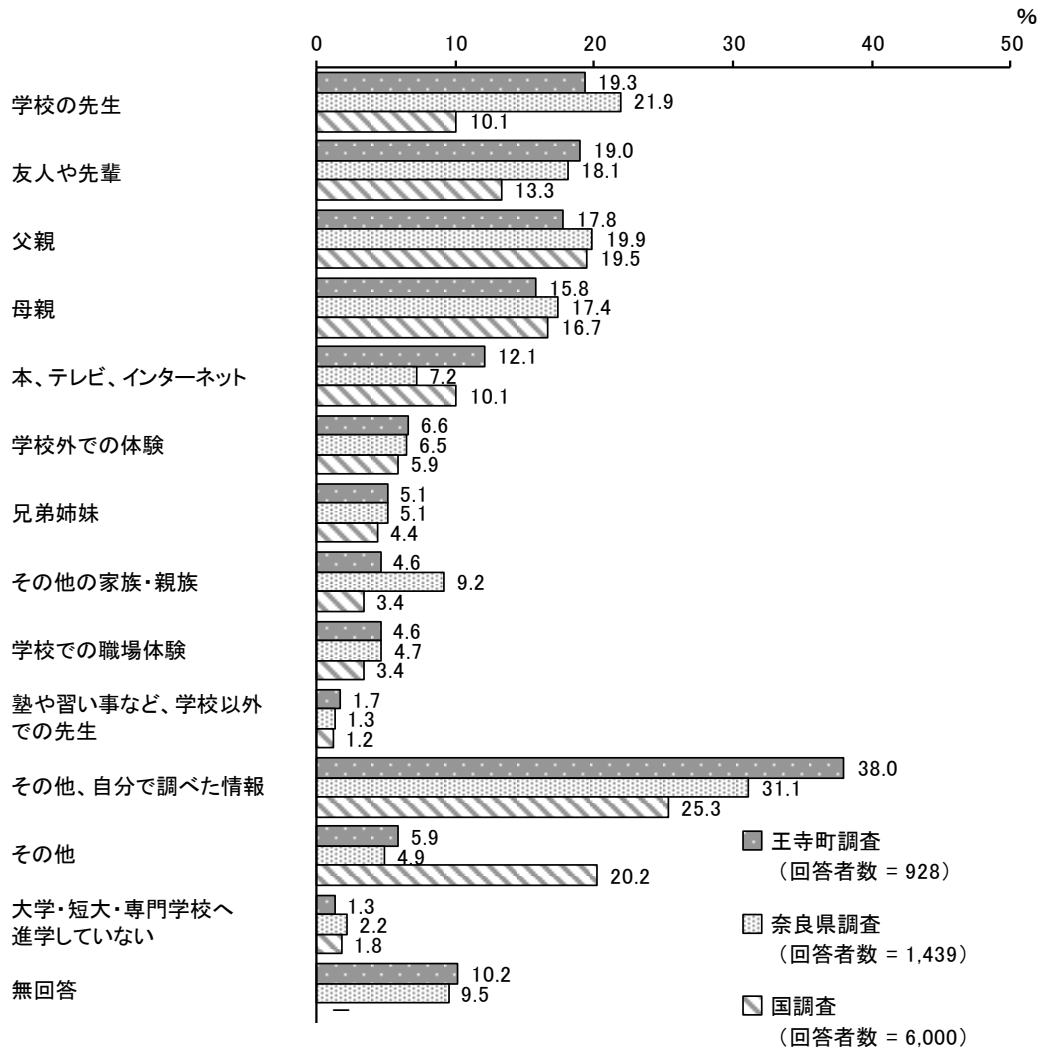
2. 就職時

就職時では、「その他、自分で調べた情報」の割合が 38.0%と最も高く、次いで「学校の先生」の割合が 19.3%、「友人や先輩」の割合が 19.0%となっています。

【奈良県調査、国調査との比較】

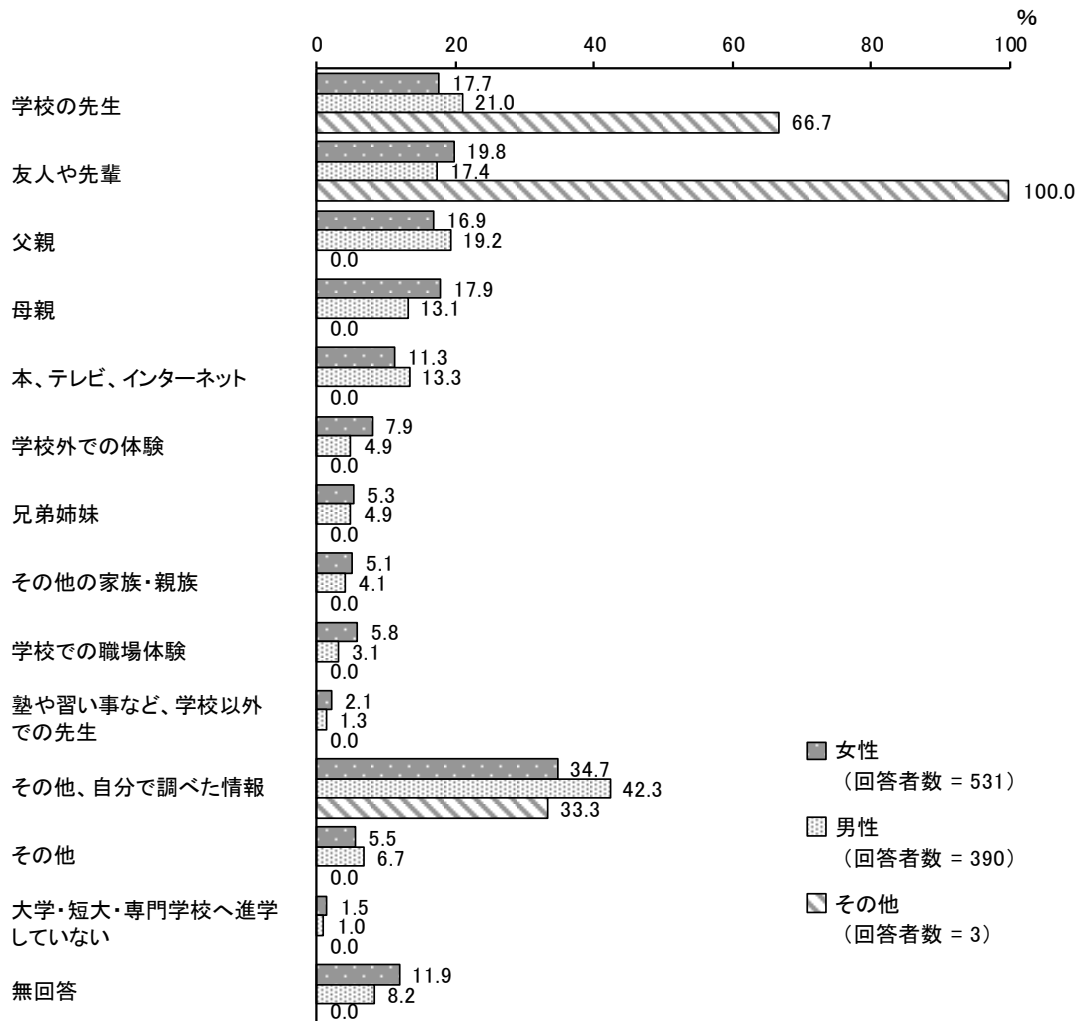
奈良県調査と比較すると、「その他、自分で調べた情報」が 6.9 ポイント高くなっています。

国調査と比較すると、「学校の先生」が 9.2 ポイント、「友人や先輩」が 5.7 ポイント、「その他、自分で調べた情報」が 12.7 ポイント高くなっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「その他、自分で調べた情報」の割合が高く、約4割となっています。



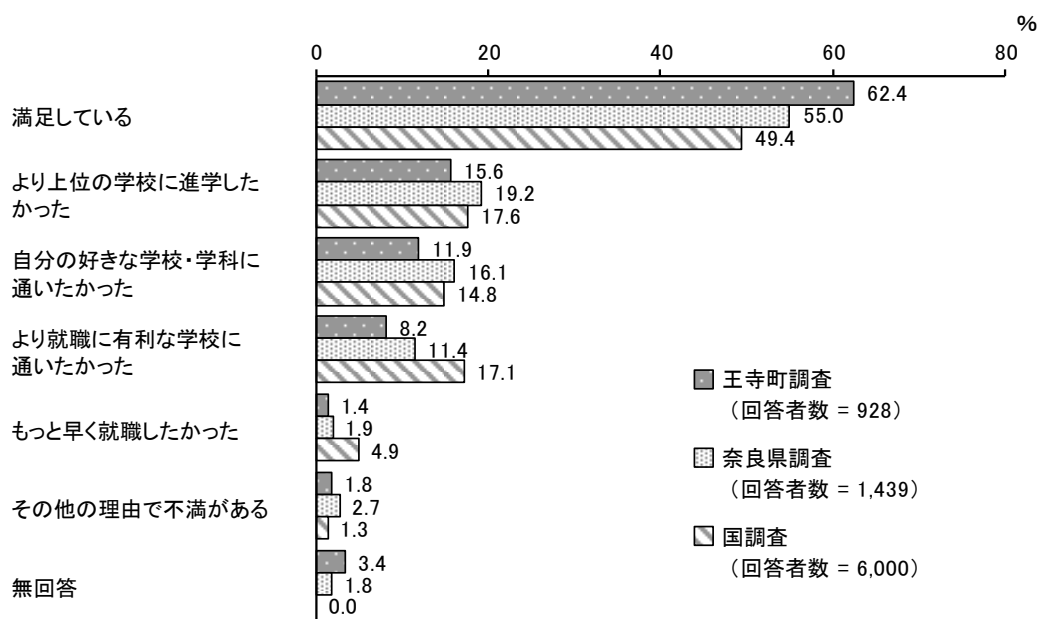
問3-2 あなたは、自分の最終学歴となる学校の選択について満足していますか。
(〇は3つまで)

「満足している」の割合が62.4%と最も高く、次いで「より上位の学校に進学したかった(例:最終学歴が高等学校なら大学、大学なら大学院などに進みたかったなど)」の割合が15.6%、「自分の好きな学校・学科に通いたかった」の割合が11.9%となっています。

【奈良県調査、国調査との比較】

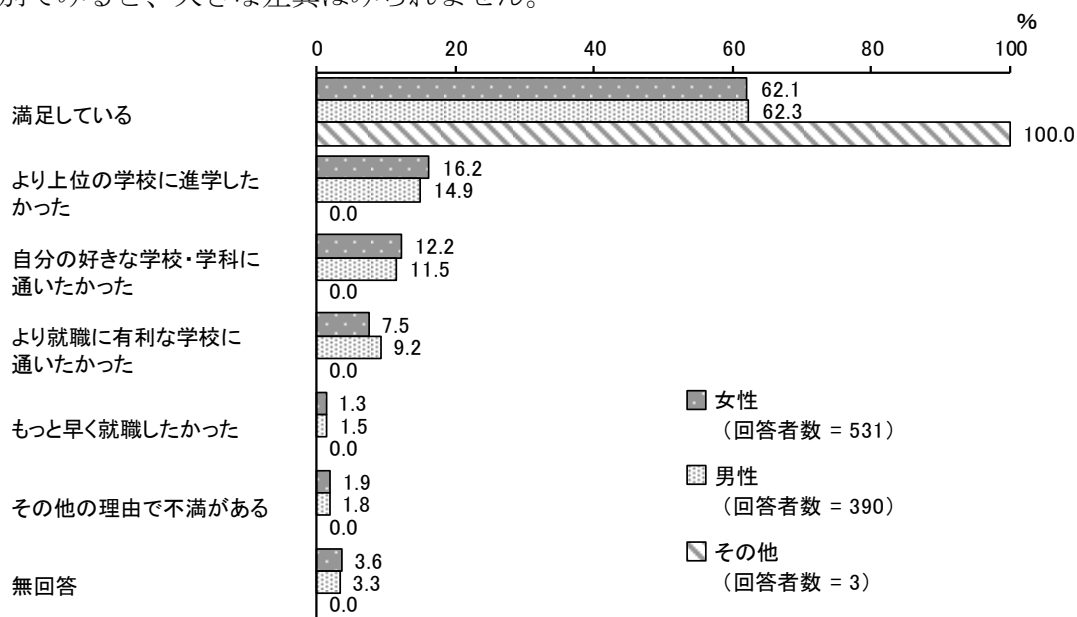
奈良県調査と比較すると、「満足している」が7.4ポイント高くなっています。

国調査と比較すると、「満足している」が13.0ポイント高く、「より就職に有利な学校に通いたかった」が8.9ポイント低くなっています。



【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



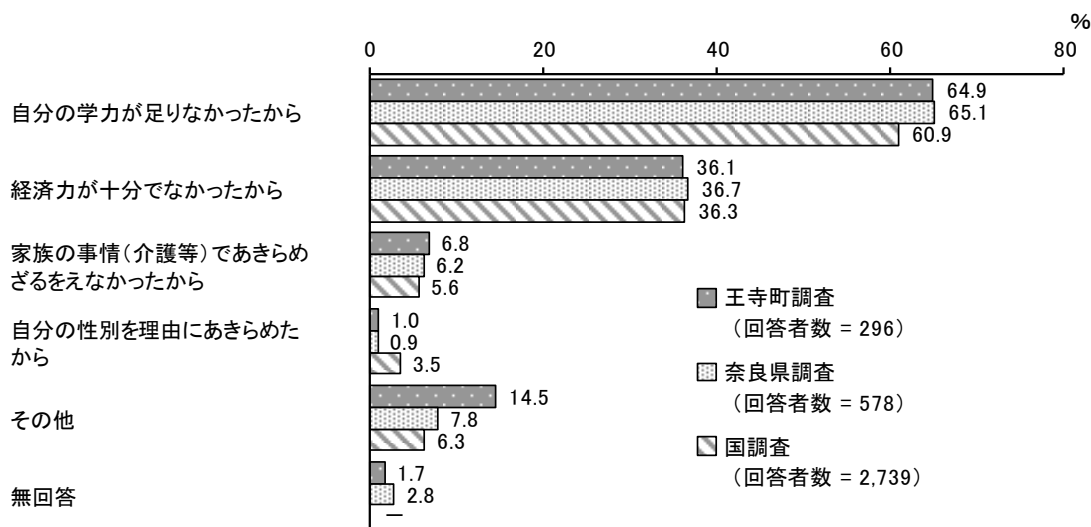
問3-2で「より就職に有利な学校に通いたかった」～「より上位の学校に進学したかった」を選んだ人にうかがいます。

問3-3 あなたが満足できる進路選択ができなかった理由は何ですか。主な理由を2つまで選択してください。（○は2つまで）

「自分の学力が足りなかったから」の割合が64.9%と最も高く、次いで「経済力が十分でなかったから」の割合が36.1%となっています。

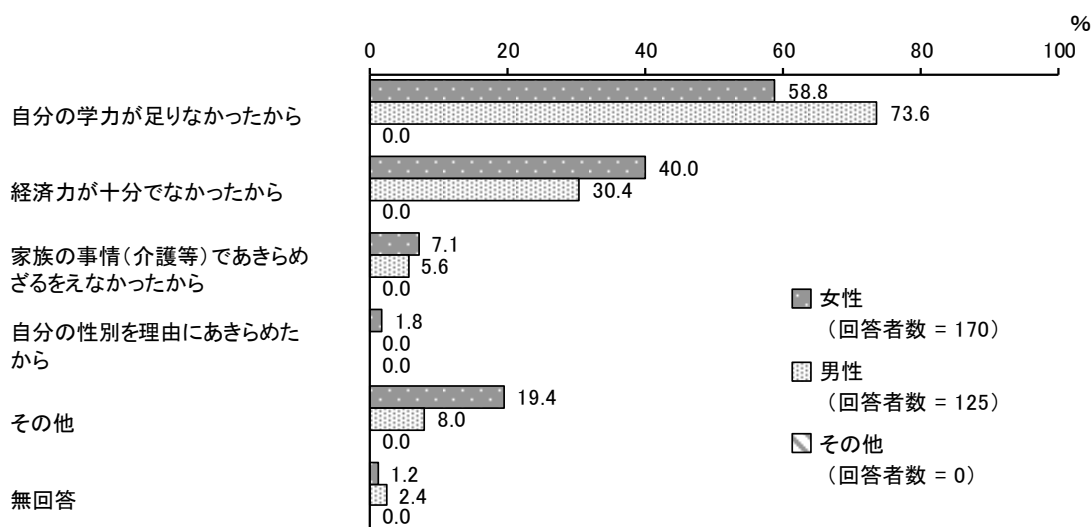
【奈良県調査、国調査との比較】

奈良県調査、国調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「経済力が十分でなかったから」の割合が高く、4割となっています。また、女性に比べ、男性で「自分の学力が足りなかったから」の割合が高く、約7割となっています。



2 仕事と生活のバランスについて

問2の①で「働いている」と回答した人にうかがいます。

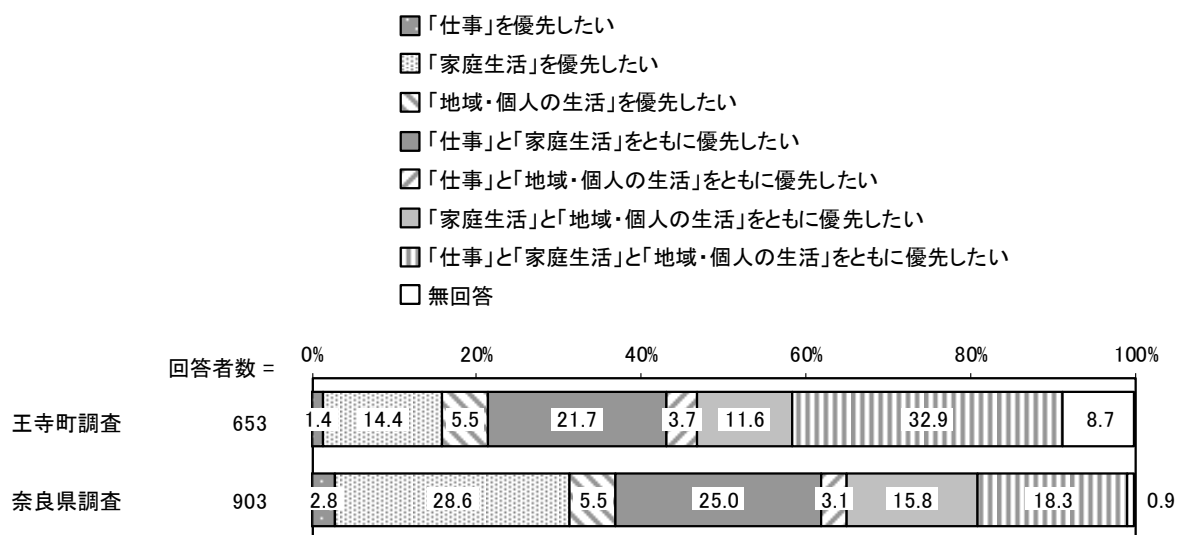
問4-1 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域の生活」・「個人の生活」の優先度について、あなたの理想に最も近いもの1つはどれですか。
また、あなたの現実（現状）に最も近いもの1つはどれですか。

1. 理想

理想では、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいの割合が32.9%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいの割合が21.7%、「家庭生活」を優先したいの割合が14.4%となっています。

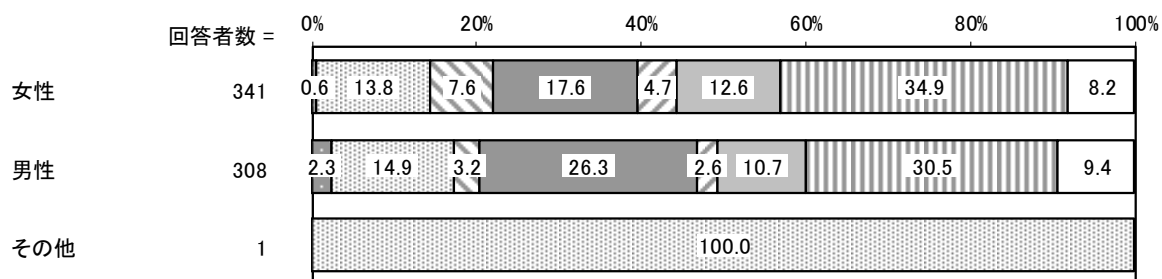
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、「家庭生活」を優先したいが14.2ポイント低く、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいが14.6ポイント高くなっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいの割合が高く、2割半ばとなっています。

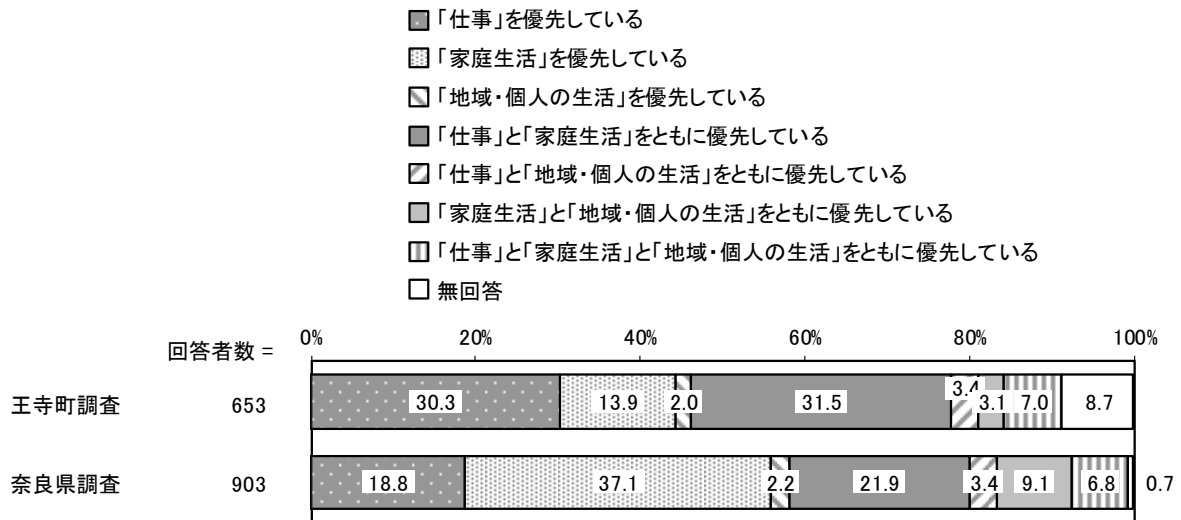


2. 現実（現状）

現実（現状）では、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が31.5%と最も高く、次いで「仕事」を優先している」の割合が30.3%、「家庭生活」を優先している」の割合が13.9%となっています。

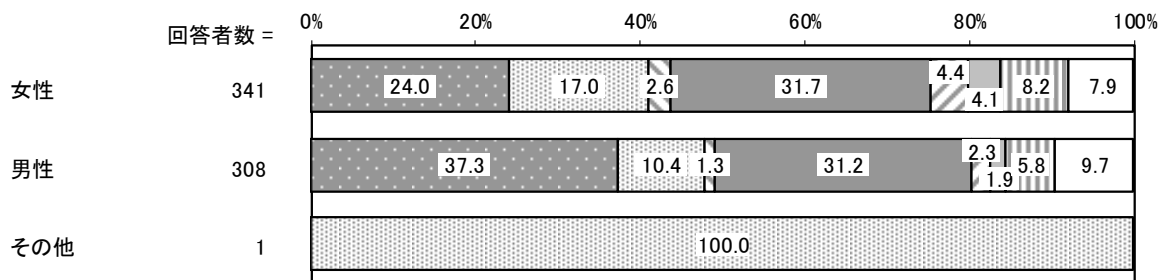
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、「仕事」を優先している」が11.5ポイント、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が9.6ポイント高く、「家庭生活」を優先している」が23.2ポイント、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」が6.0ポイント低くなっています。



【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「家庭生活」を優先している」の割合が高く、約2割となっています。また、女性に比べ、男性で「仕事」を優先している」の割合が高く、約4割となっています。

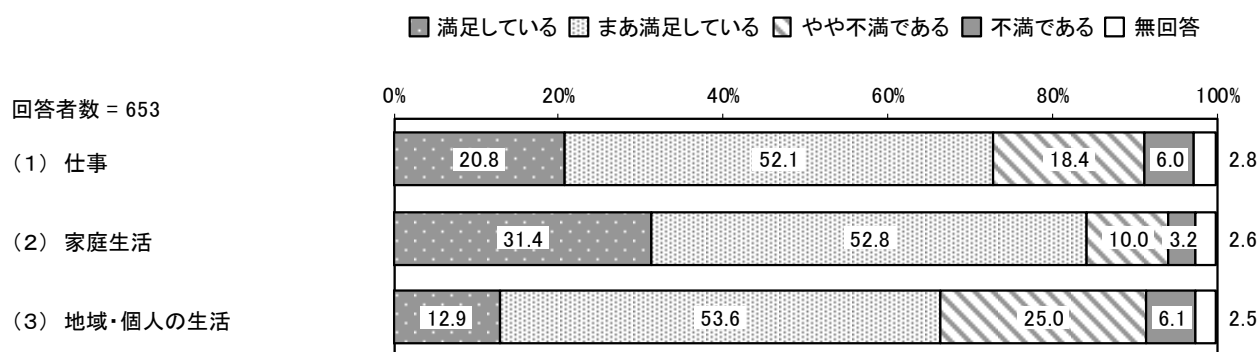


問4-2 あなたの「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のそれぞれの満足度を教えてください。(〇はそれぞれ1つずつ)

(1) 仕事では、「満足している」と「まあ満足している」をあわせた“満足している”の割合が72.9%、「やや不満である」と「不満である」をあわせた“不満である”の割合が24.4%となっています。

(2) 家庭生活では、“満足している”の割合が84.2%、“不満である”の割合が13.2%となっています。

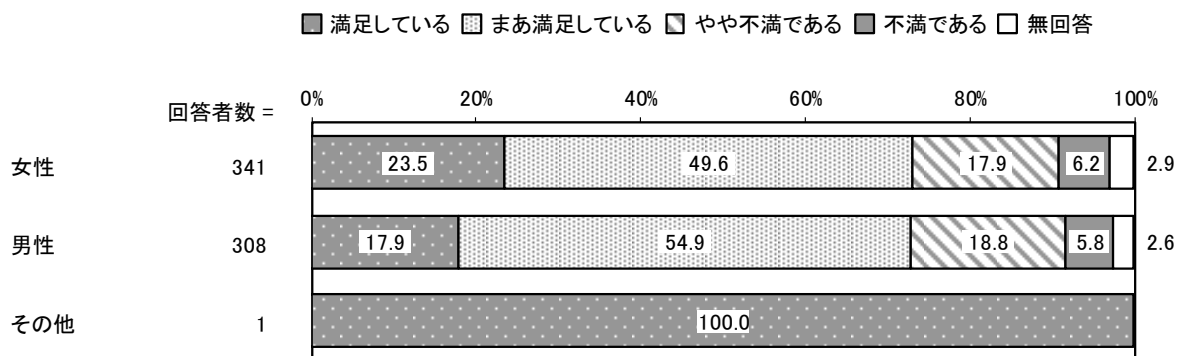
(3) 地域・個人の生活では、“満足している”の割合が66.5%、“不満である”の割合が31.1%となっています。



(1) 仕事

【性別】

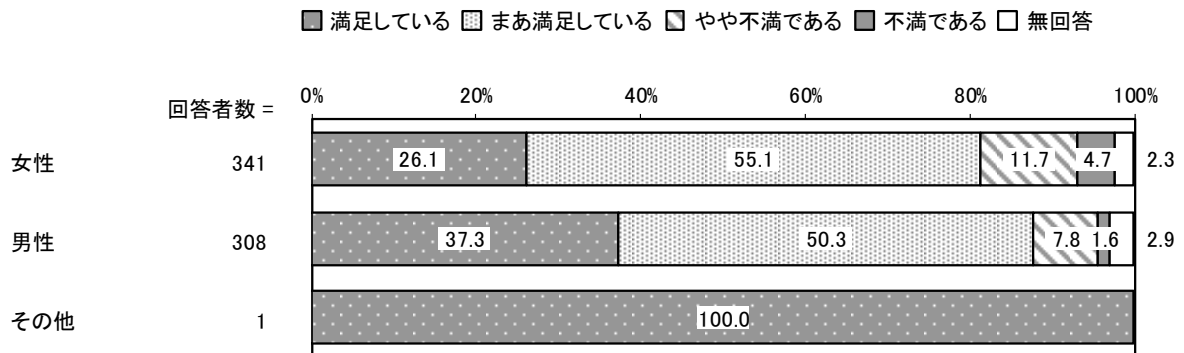
性別でみると、男性に比べ、女性で「満足している」の割合が高く、約2割となっています。



(2) 家庭生活

【性別】

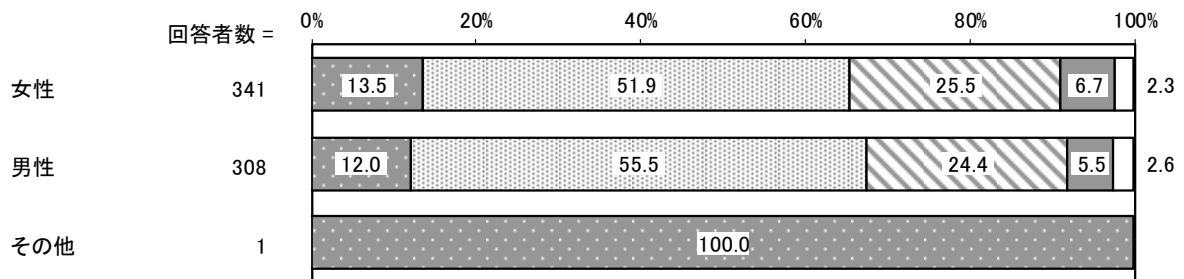
性別で見ると、女性に比べ、男性で“満足している”の割合が高く、約9割となっています。



(3) 地域・個人の生活

【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。

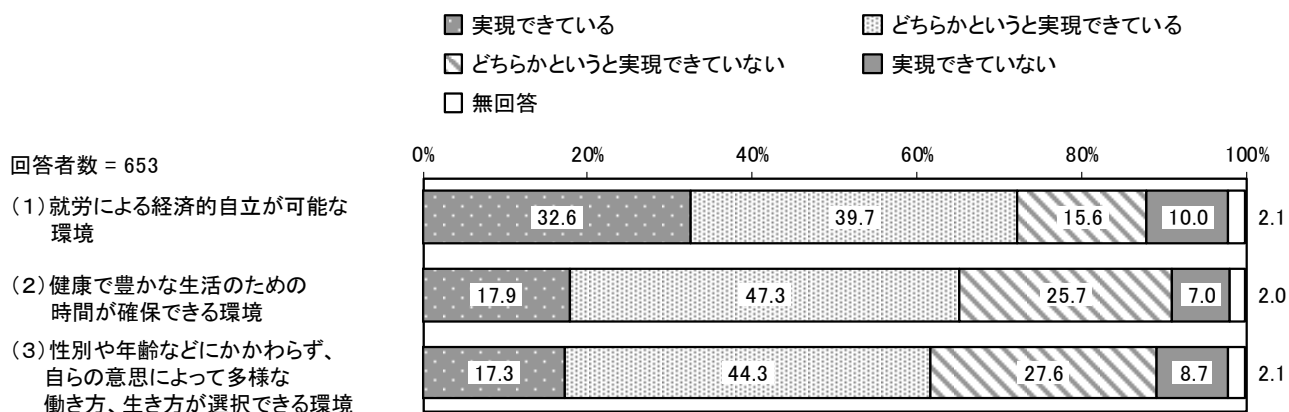


問5 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についてうかがいます。
 あなた自身の生活や環境から判断して、以下の（1）～（3）の項目は実現できていると思いますか。
 項目ごとに1つずつ○をつけてください。

（1）就労による経済的自立が可能な環境では、「実現できている」と「どちらかという実現できている」をあわせた“実現できている”の割合が72.3%、「どちらかという実現できていない」と「実現できていない」をあわせた“実現できていない”の割合が25.6%となっています。

（2）健康で豊かな生活のための時間が確保できる環境では、“実現できている”の割合が65.2%、“実現できていない”の割合が32.7%となっています。

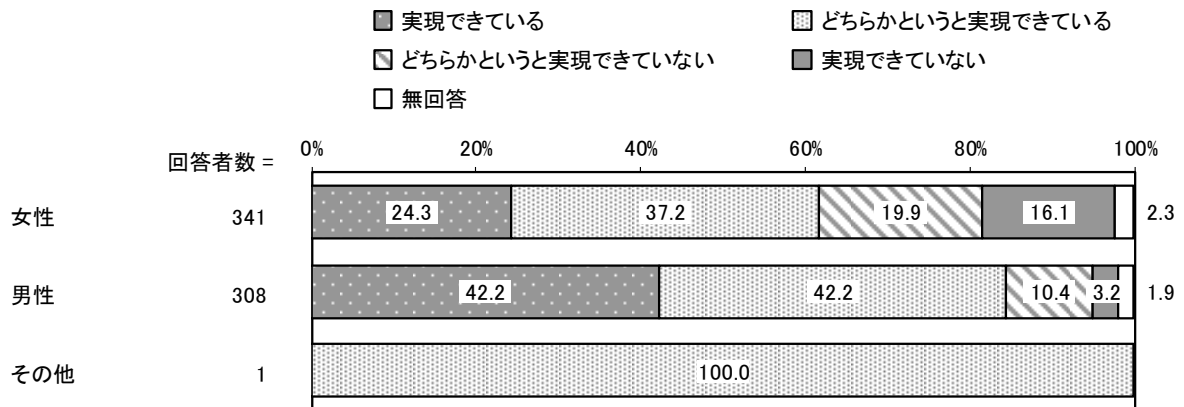
（3）性別や年齢などにかかわらず、自らの意思によって多様な働き方、生き方が選択できる環境では、“実現できている”の割合が61.6%、“実現できていない”の割合が36.3%となっています。



(1) 就労による経済的自立が可能な環境

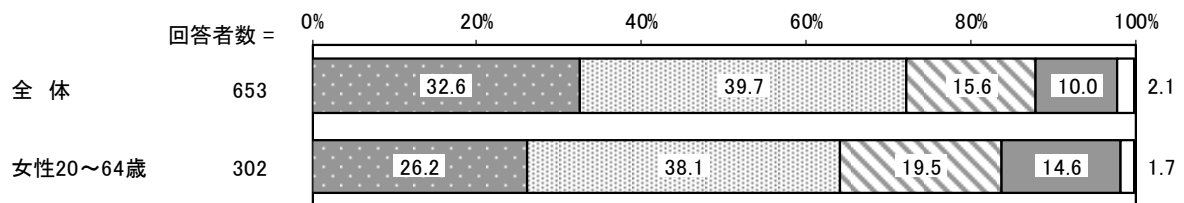
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で“実現できている”の割合が高く、8割半ばとなっています。



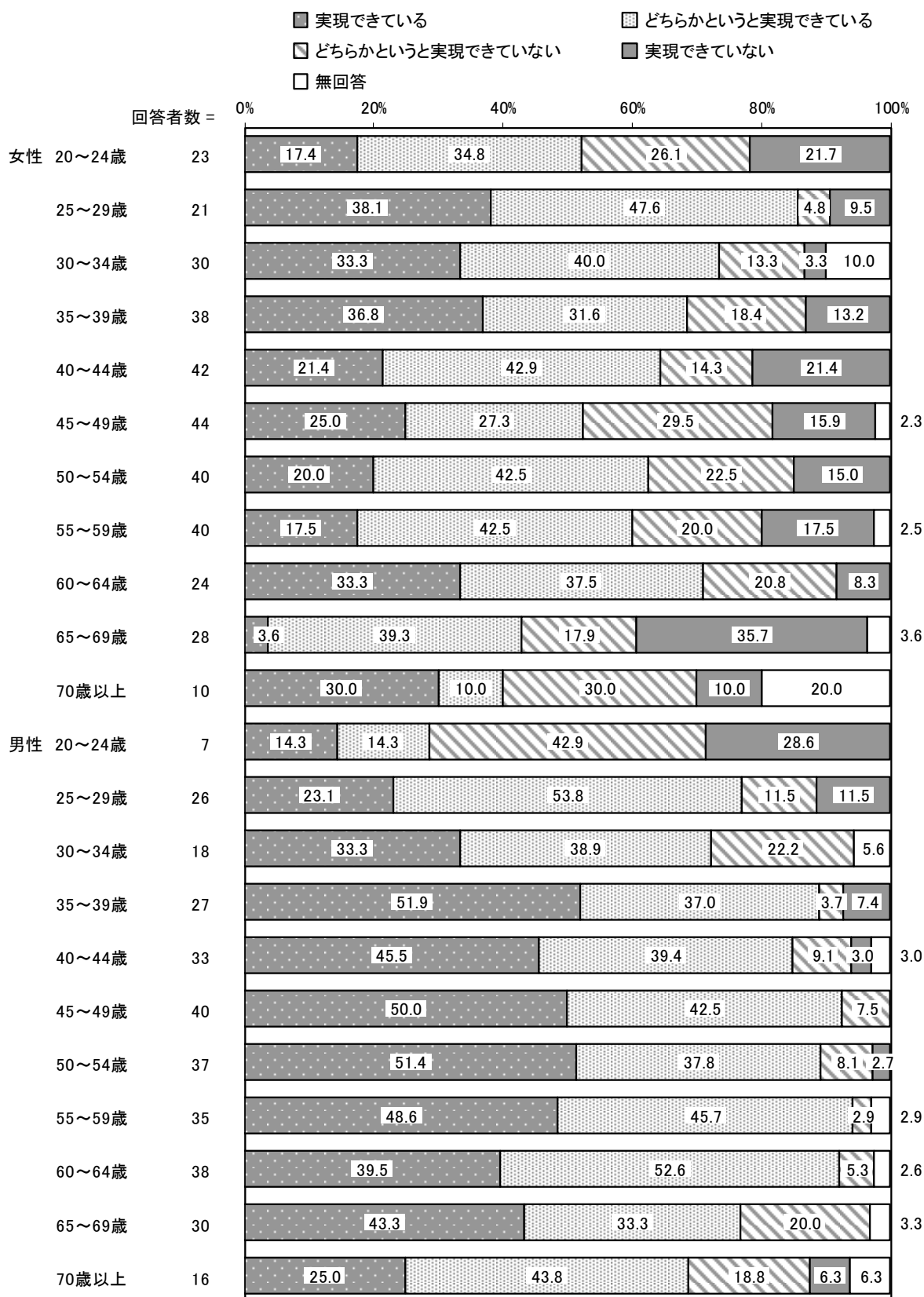
【20～64歳の女性】

20～64歳の女性で見ると、全体に比べ、“実現できている”の割合が8.0ポイント低くなっています。



【年代別】

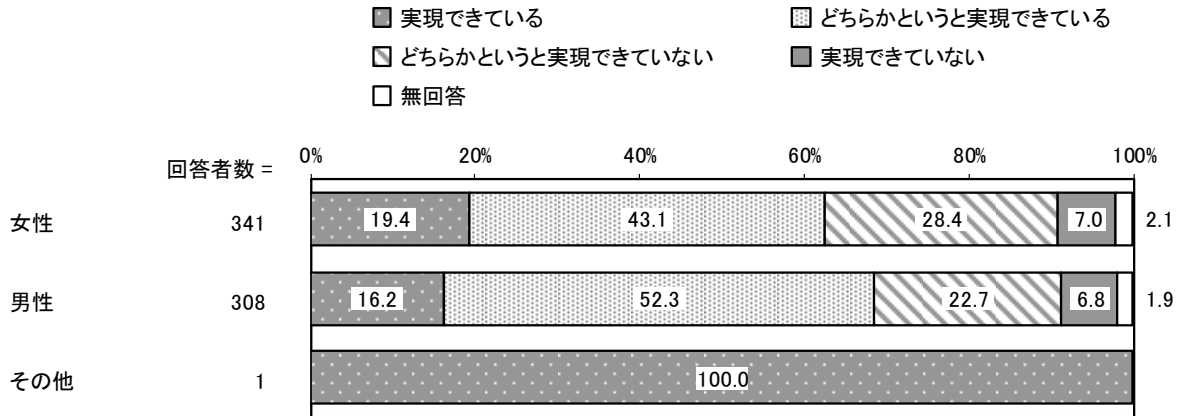
年代別でみると、男性の45～49歳、55～59歳、60～64歳で“実現できている”の割合が高く、9割を超えています。一方、女性の20～24歳、65～69歳で“実現できていない”の割合が高く、約5割となっています。



(2) 健康で豊かな生活のための時間が確保できる環境

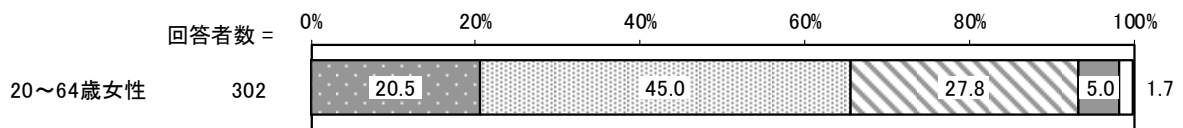
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で“実現できている”の割合が高く、約7割となっています。



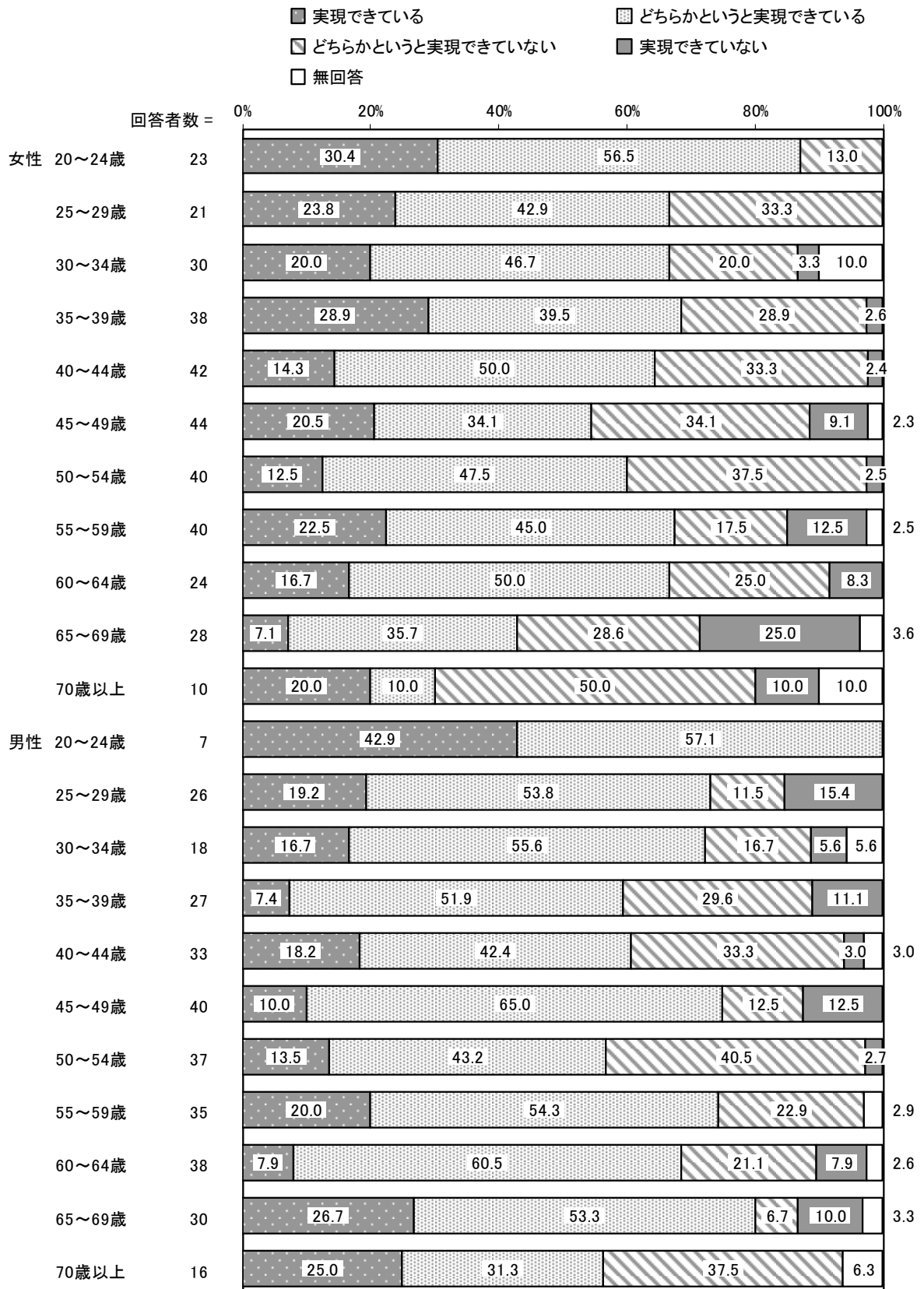
【20～64歳の女性】

20～64歳の女性で見ると、全体と大きな差異はみられません。



【年代別】

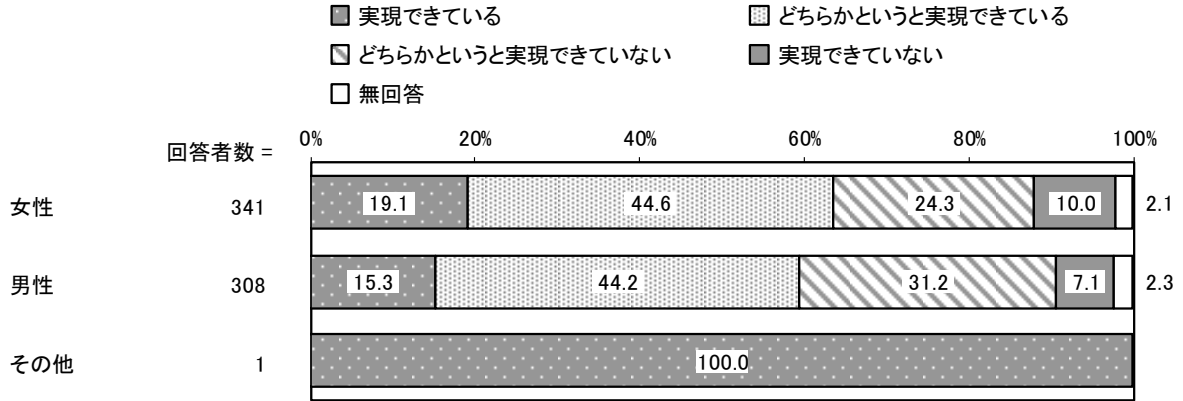
年代別でみると、他に比べ、女性の20～24歳、男性の65～69歳で“実現できている”の割合が高く、8割以上となっています。また、女性の70歳以上で“実現できていない”の割合が高く、6割となっています。



(3) 性別や年齢などにかかわらず、自らの意思によって多様な働き方、生き方が選択できる環境

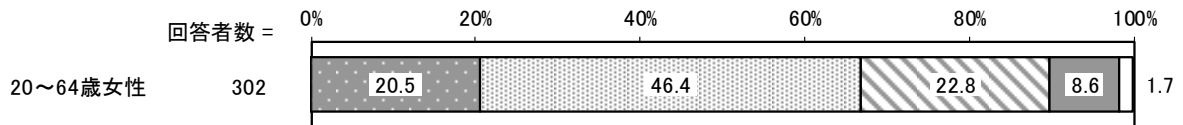
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「どちらかという実現できていない」の割合が高く、約3割となっています。



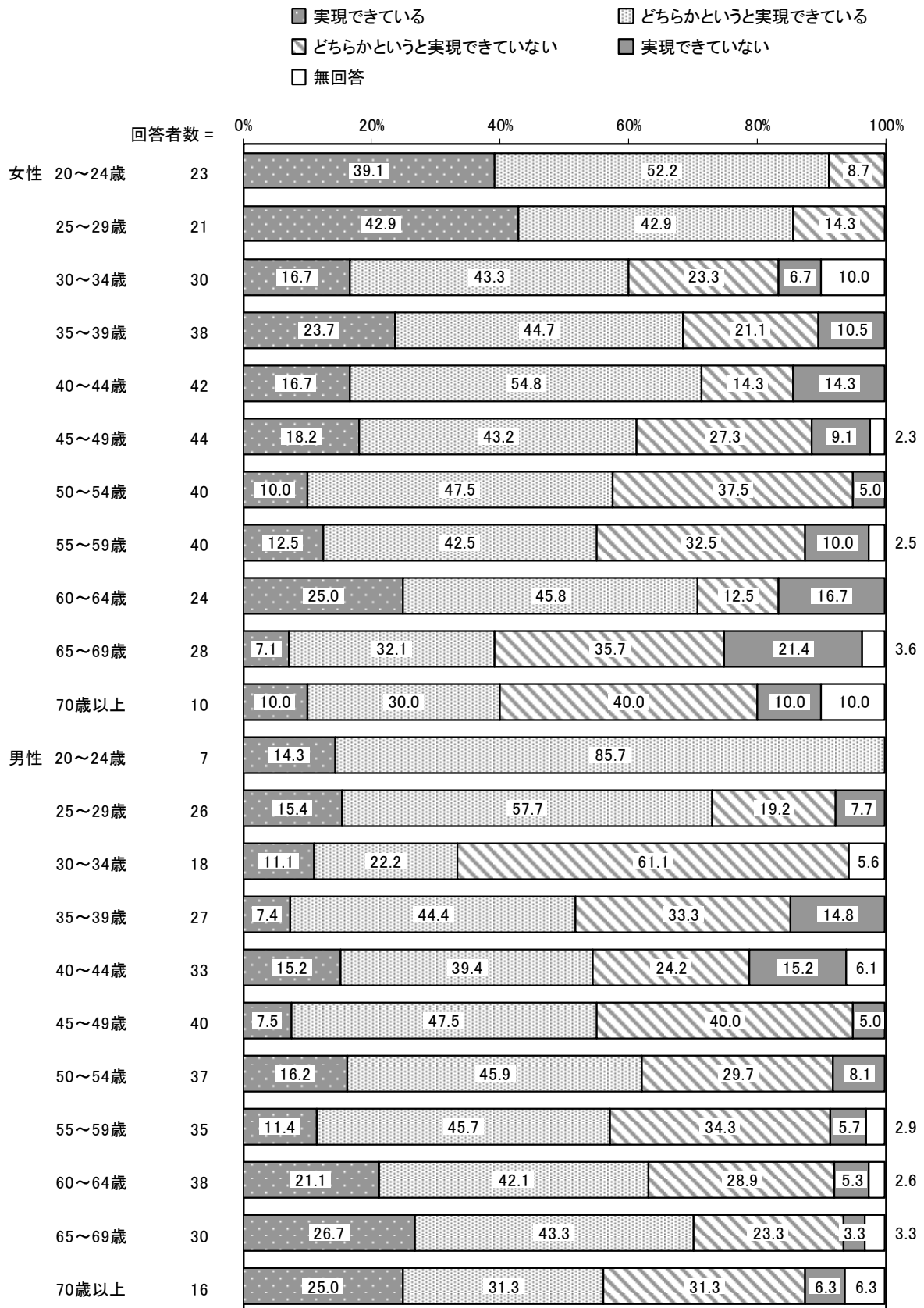
【20～64歳の女性】

20～64歳の女性で見ると、全体と大きな差異はみられません。



【年代別】

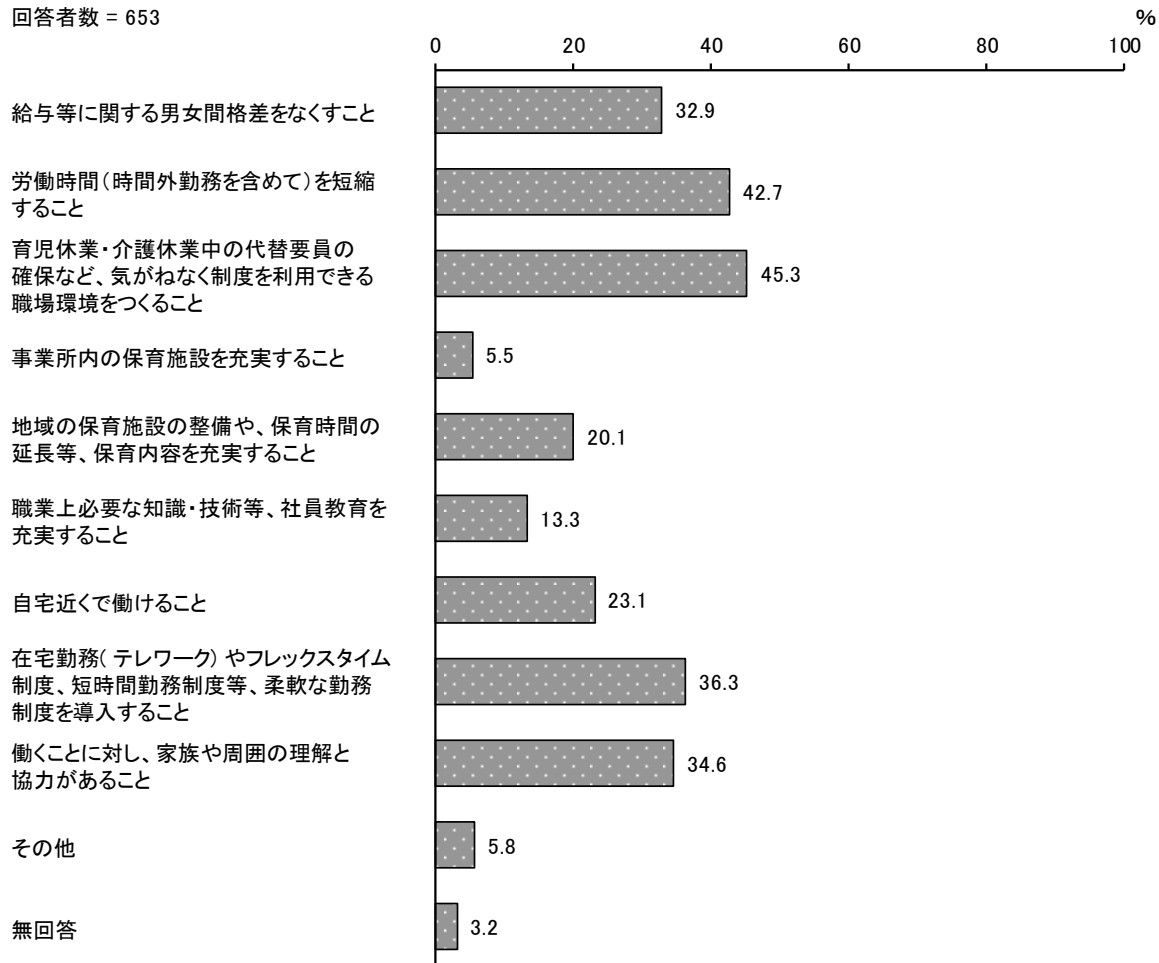
年代別でみると、他に比べ、女性の20～24歳で“実現できている”の割合が高く、約9割となっています。また、女性の65～69歳、男性の30～34歳で“実現できていない”の割合が高く、約6割となっています。



問6 すべての人が、仕事と家庭の両立を実現するためには、どのような条件が必要だと思いますか。（特に必要だと思うもの3つまでに○）

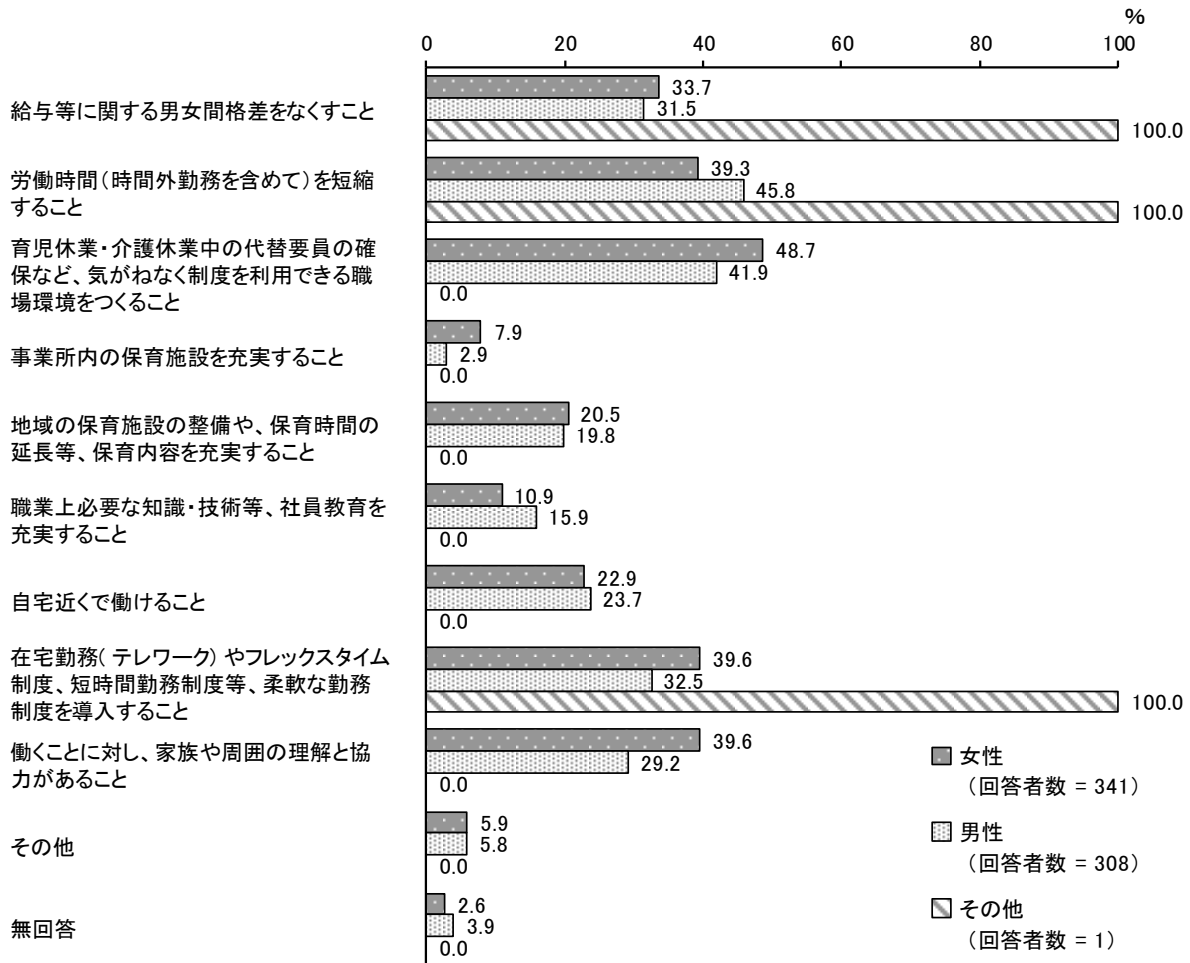
「育児休業・介護休業中の代替要員の確保など、気がねなく制度を利用できる職場環境をつくること」の割合が45.3%と最も高く、次いで「労働時間（時間外勤務を含めて）を短縮すること」の割合が42.7%、「在宅勤務（テレワーク）やフレックスタイム制度、短時間勤務制度等、柔軟な勤務制度を導入すること」の割合が36.3%となっています。

回答者数 = 653



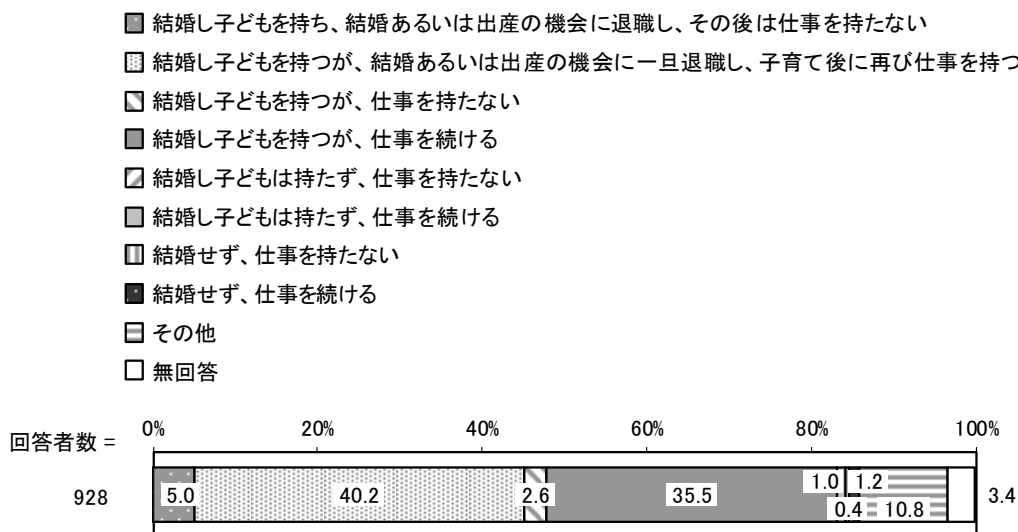
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「育児休業・介護休業中の代替要員の確保など、気がねなく制度を利用できる職場環境をつくること」「事業所内の保育施設を充実すること」「在宅勤務（テレワーク）やフレックスタイム制度、短時間勤務制度等、柔軟な勤務制度を導入すること」「働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「労働時間（時間外勤務を含めて）を短縮すること」「職業上必要な知識・技術等、社員教育を充実すること」の割合が高くなっています。



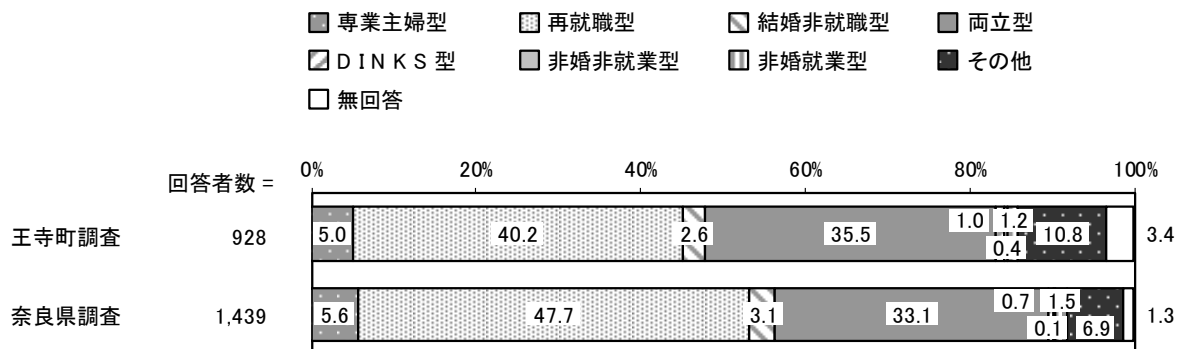
問 7-1 あなたの考える、最も望ましいと思われる女性の生き方は、どれに近いですか。
(〇は1つ)

「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会に一旦退職し、子育て後に再び仕事を持つ」の割合が40.2%と最も高く、次いで「結婚し子どもを持つが、仕事を続ける」の割合が35.5%となっています。



【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、「再就職型」が7.5ポイント低くなっています。

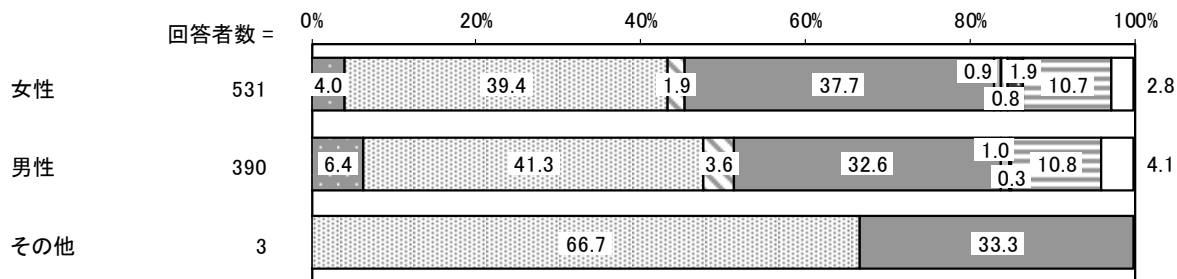


※専業主婦型：「結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない」
 再就職型：「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会に一旦退職し、子育て後に再び仕事を持つ」
 結婚非就職型：「結婚し子どもを持つが、仕事を持たない」と「結婚し子どもを持たず、仕事を持たない」
 両立型：「結婚し子どもを持つが、仕事を続ける」
 DINKS型：「結婚し子どもを持たず、仕事を続ける」
 非婚非就業型：「結婚せず、仕事を持たない」
 非婚就業型：「結婚せず、仕事を続ける」

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「結婚し子どもを持つが、仕事を続ける」の割合が高く、約4割となっています。

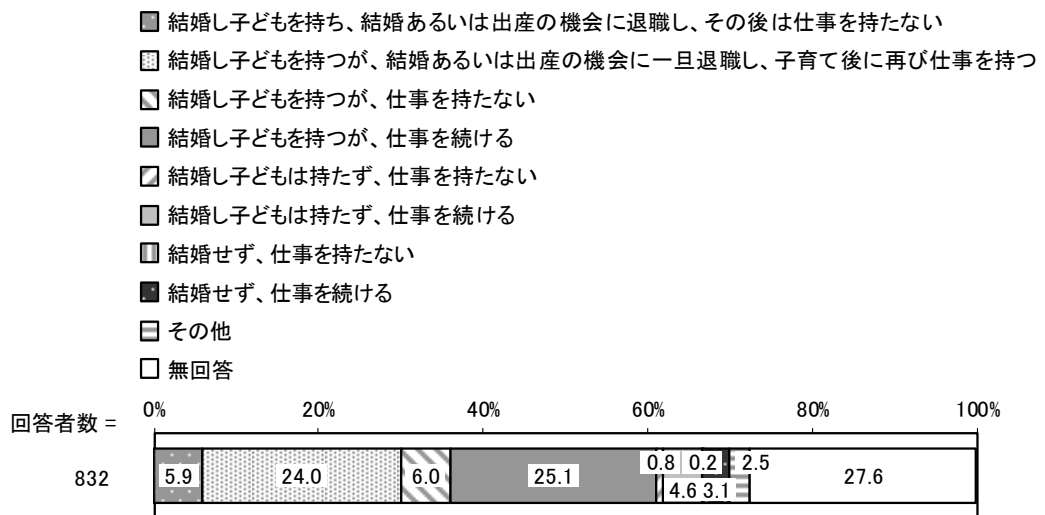
- 結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない
- ▨ 結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会に一旦退職し、子育て後に再び仕事を持つ
- ▩ 結婚し子どもを持つが、仕事を持たない
- 結婚し子どもを持つが、仕事を続ける
- ▨ 結婚し子どもを持たず、仕事を持たない
- ▩ 結婚し子どもを持たず、仕事を続ける
- 結婚せず、仕事を持たない
- 結婚せず、仕事を続ける
- ▨ その他
- 無回答



問7-1の項目について、女性、または配偶者（パートナー）のおられる男性に改めてうかがいます。

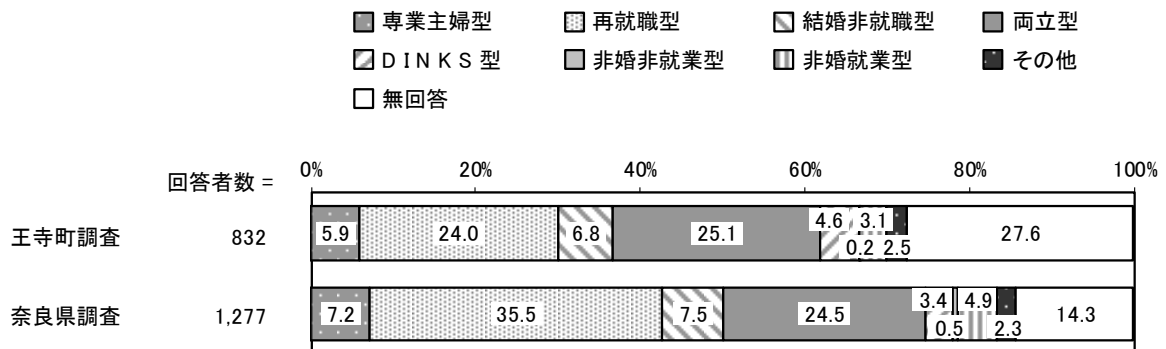
問7-2 現在及び今後見込まれると思われるあなた（あなたが男性の場合は配偶者（パートナー））の生き方は、どれに近いですか。

「結婚し子どもを持つが、仕事を続ける」の割合が25.1%と最も高く、次いで「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会に一旦退職し、子育て後に再び仕事を持つ」の割合が24.0%となっています。



【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、「再就職型」が11.5ポイント低くなっています。

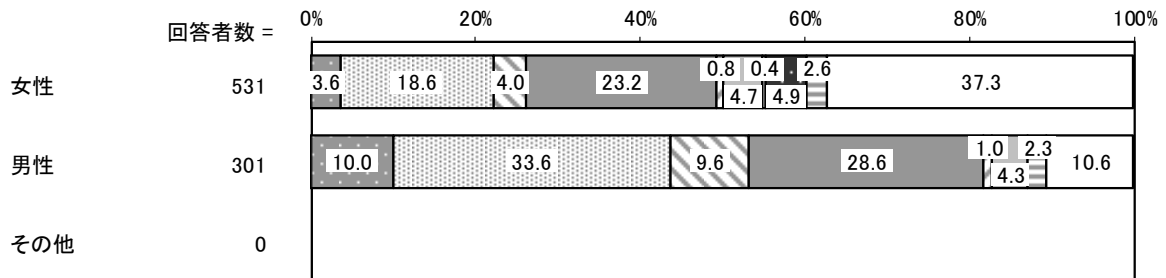


- ※専業主婦型：「結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない」
- 再就職型：「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会に一旦退職し、子育て後に再び仕事を持つ」
- 結婚非就職型：「結婚し子どもを持つが、仕事を持たない」と「結婚し子どもを持たず、仕事を持たない」
- 両立型：「結婚し子どもを持つが、仕事を続ける」
- DINKS型：「結婚し子どもを持たず、仕事を続ける」
- 非婚非就業型：「結婚せず、仕事を持たない」
- 非婚就業型：「結婚せず、仕事を続ける」

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない」「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会に一旦退職し、子育て後に再び仕事を持つ」「結婚し子どもを持つが、仕事を持たない」「結婚し子どもを持つが、仕事を続ける」の割合が高くなっています。

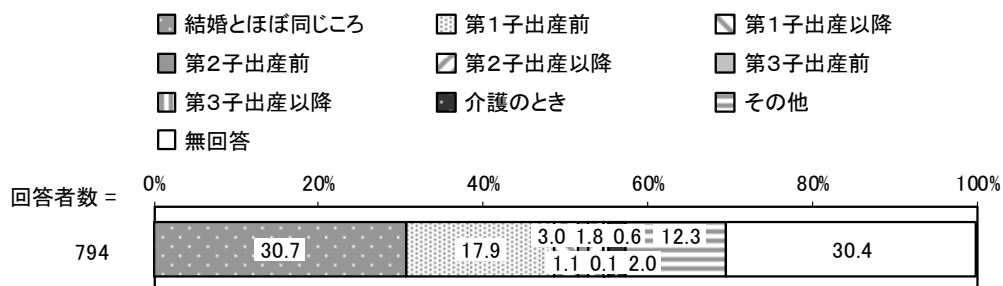
- 結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない
- ▨ 結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会に一旦退職し、子育て後に再び仕事を持つ
- ▩ 結婚し子どもを持つが、仕事を持たない
- 結婚し子どもを持つが、仕事を続ける
- ▨ 結婚し子どもを持たず、仕事を持たない
- ▩ 結婚し子どもを持たず、仕事を続ける
- 結婚せず、仕事を持たない
- 結婚せず、仕事を続ける
- ▨ その他
- 無回答



退職した経験がある女性、または配偶者（パートナー）が退職した経験のある人にうかがいます。女性はその状況、男性は配偶者（パートナー）の状況をご回答ください。

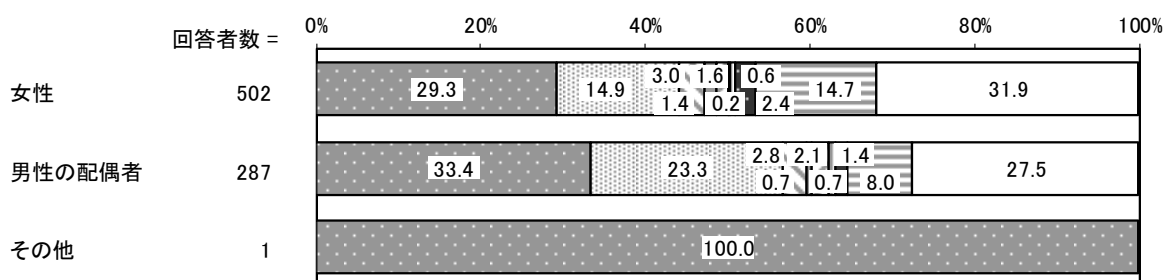
問 8-1 あなた（あなたの配偶者（パートナー））が仕事を辞めた時期はいつごろですか。複数回辞めている場合は、初めて辞めた時期に○をつけてください。（○は1つ）

「結婚とほぼ同じころ」の割合が30.7%と最も高く、次いで「第1子出産前」の割合が17.9%となっています。



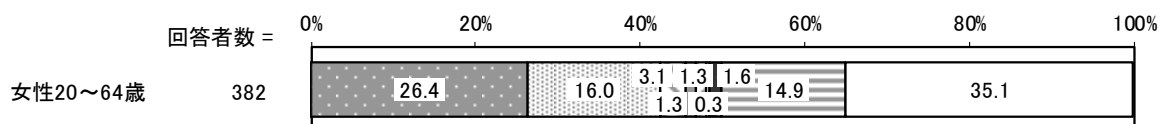
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性の配偶者で「第1子出産前」の割合が高く、約2割となっています。



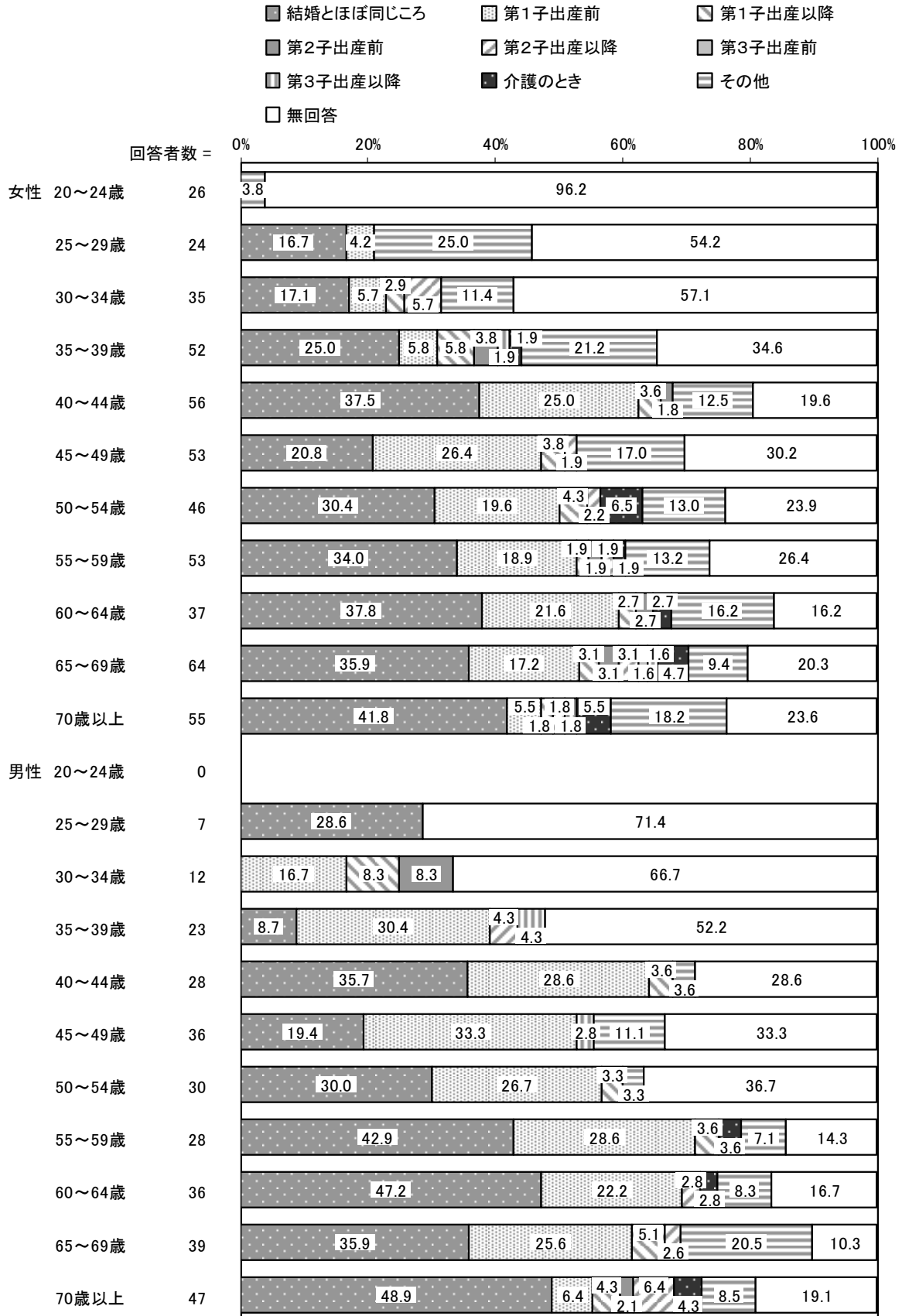
【20～64歳の女性】

20～64歳の女性でみると、全体と大きな差異はみられません。



【性・年代別】

性・年代別でみると、他に比べ、女性の70歳以上、男性の55～64歳、70歳以上で「結婚とほぼ同じころ」の割合が高く、4割を超えています。また、男性の35～49歳で「第1子出産前」の割合が高く、約3割となっています。

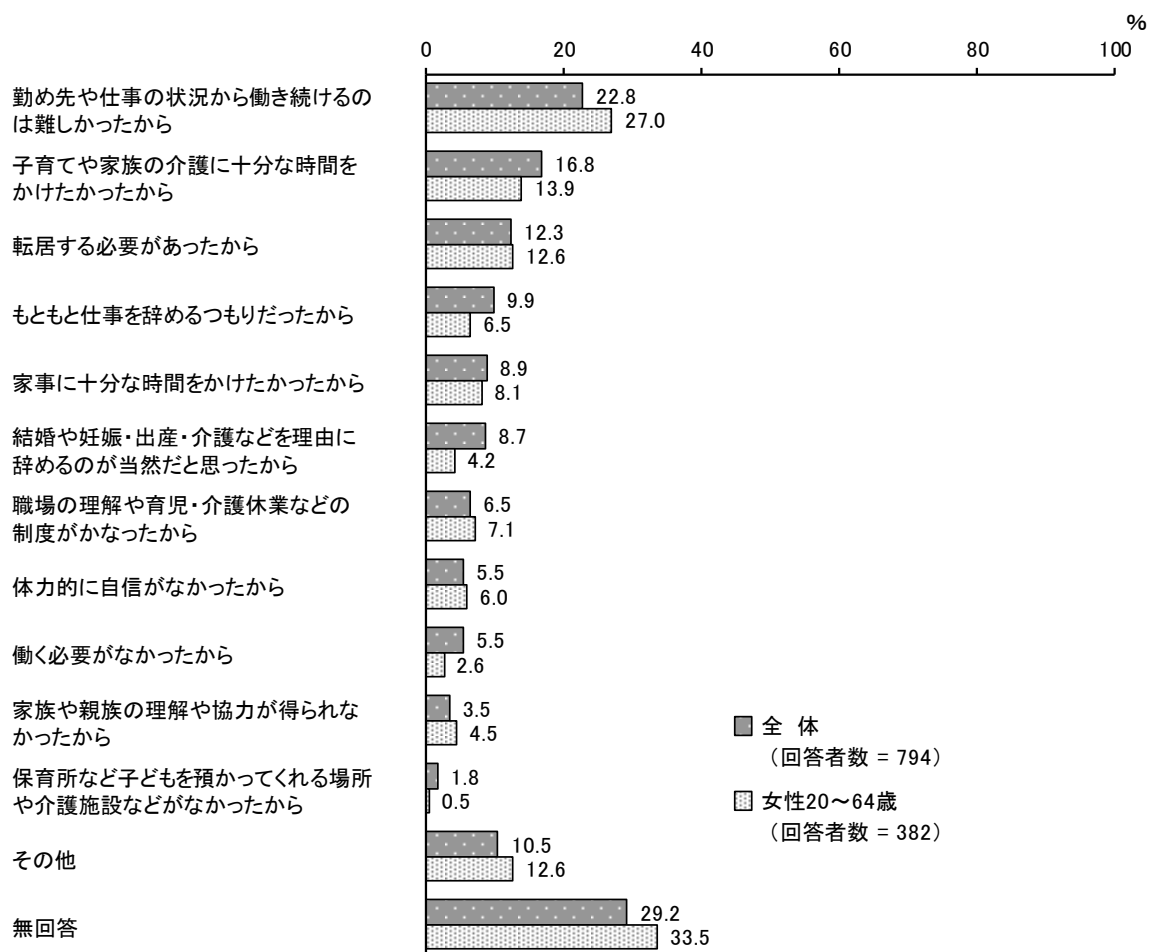


問 8-2 あなた（あなたの配偶者（パートナー））が仕事を辞めた理由は何でしたか。
（〇はいくつでも）

「勤め先や仕事の状況から働き続けるのは難しかったから」の割合が 22.8%と最も高く、次いで「子育てや家族の介護に十分な時間をかけたかったから」の割合が 16.8%、「転居する必要があったから」の割合が 12.3%となっています。

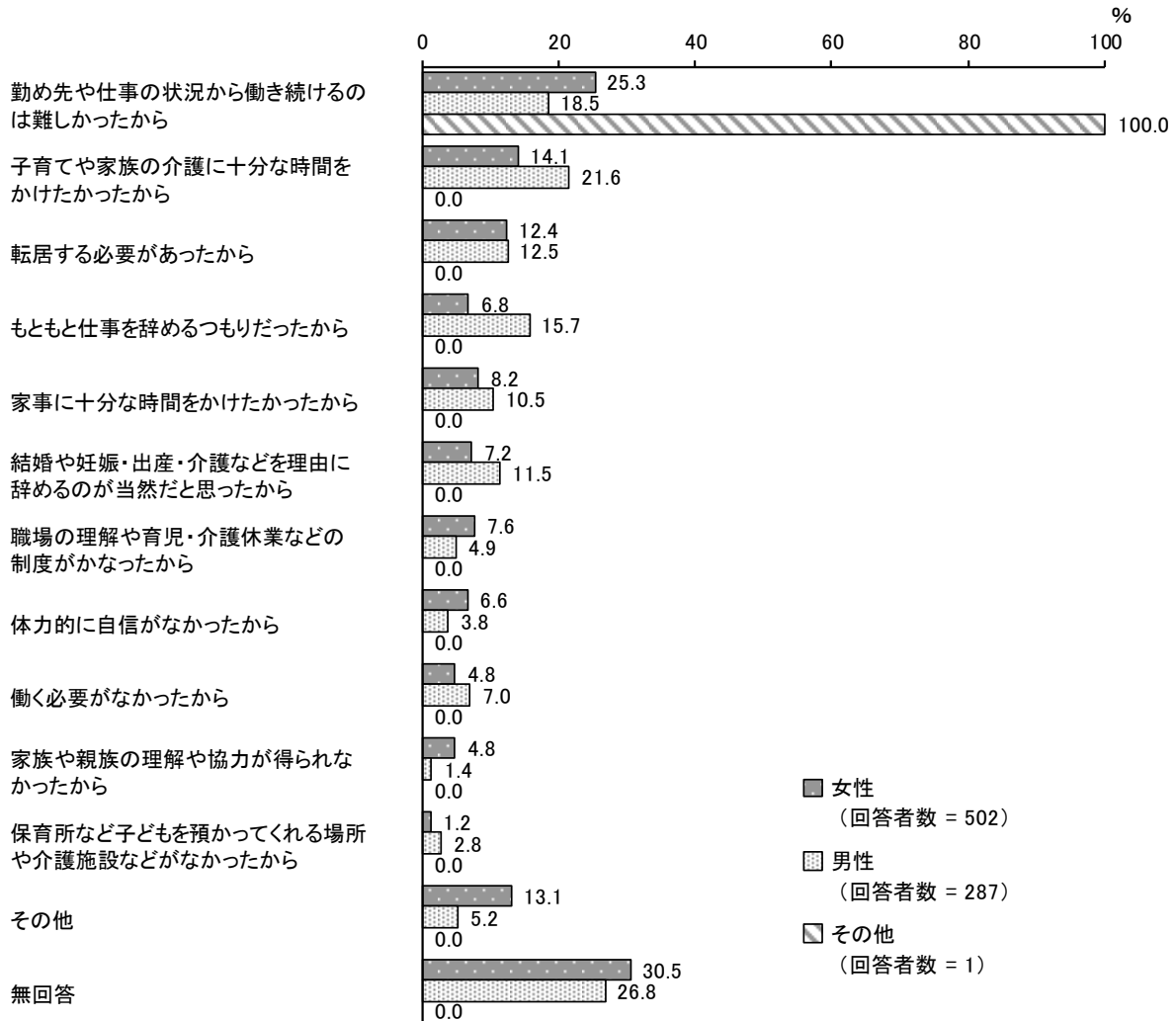
【20～64 歳の女性】

20～64 歳の女性でみると、全体と大きな差異はみられません。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「勤め先や仕事の状況から働き続けるのは難しかったから」の割合が高く、2割半ばとなっています。また、女性に比べ、男性で「子育てや家族の介護に十分な時間をかけたかったから」「もともと仕事を辞めるつもりだったから」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

性・年代別でみると、他に比べ、女性の30～34歳で「勤め先や仕事の状況から働き続けるのは難しかったから」の割合が高く、3割半ばとなっています。また、男性の45～49歳、55～69歳で「子育てや家族の介護に十分な時間をかけたかったから」の割合が高く、約3割となっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	もともと仕事を辞めるつもりだったから	家事に十分な時間をかけたかったから	子育てや家族の介護に十分な時間をかけたかったから	職場の理解や育児・介護休業などの制度がなかったから	勤め先や仕事の状況から働き続けるのは難しかったから	家族や親族の理解や協力が得られなかったから	結婚や妊娠・出産・介護などを理由に辞めるのが当然だと思ったから	保育所など子どもを預かってくれる場所や介護施設などがなかったから	体力的に自信がなかったから	転居する必要があったから	働く必要がなかったから	その他	無回答
女性 20～24歳	26	—	—	—	—	3.8	3.8	—	—	—	—	—	3.8	92.3
25～29歳	24	8.3	—	4.2	—	25.0	—	—	—	4.2	4.2	—	12.5	54.2
30～34歳	35	—	8.6	17.1	2.9	34.3	2.9	2.9	2.9	8.6	5.7	—	8.6	54.3
35～39歳	52	3.8	7.7	7.7	7.7	28.8	3.8	3.8	—	5.8	13.5	3.8	15.4	30.8
40～44歳	56	8.9	8.9	19.6	7.1	30.4	1.8	3.6	—	7.1	25.0	1.8	19.6	19.6
45～49歳	53	7.5	7.5	24.5	7.5	28.3	3.8	3.8	—	3.8	17.0	1.9	7.5	28.3
50～54歳	46	2.2	6.5	17.4	15.2	32.6	4.3	8.7	—	8.7	15.2	4.3	13.0	21.7
55～59歳	53	11.3	11.3	11.3	9.4	28.3	9.4	5.7	—	5.7	9.4	3.8	9.4	26.4
60～64歳	37	13.5	16.2	10.8	5.4	18.9	8.1	5.4	2.7	8.1	8.1	5.4	18.9	16.2
65～69歳	64	7.8	10.9	18.8	10.9	23.4	7.8	17.2	3.1	10.9	7.8	7.8	10.9	20.3
70歳以上	55	7.3	5.5	10.9	7.3	14.5	3.6	16.4	3.6	5.5	16.4	16.4	20.0	21.8
男性の配偶者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～24歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25～29歳	7	—	—	—	—	14.3	—	—	—	—	14.3	—	—	71.4
30～34歳	12	8.3	—	8.3	—	25.0	—	8.3	—	8.3	8.3	—	—	66.7
35～39歳	23	4.3	4.3	21.7	—	13.0	4.3	4.3	4.3	4.3	13.0	—	—	47.8
40～44歳	28	10.7	7.1	17.9	10.7	25.0	—	—	—	—	17.9	7.1	10.7	28.6
45～49歳	36	11.1	22.2	27.8	5.6	25.0	—	2.8	5.6	2.8	2.8	2.8	5.6	33.3
50～54歳	30	16.7	6.7	23.3	3.3	10.0	3.3	6.7	—	—	13.3	3.3	—	36.7
55～59歳	28	28.6	10.7	28.6	3.6	25.0	3.6	25.0	3.6	3.6	10.7	3.6	7.1	14.3
60～64歳	36	16.7	13.9	27.8	2.8	13.9	—	22.2	2.8	5.6	19.4	11.1	2.8	19.4
65～69歳	39	17.9	10.3	28.2	7.7	15.4	2.6	10.3	—	2.6	15.4	7.7	15.4	10.3
70歳以上	47	21.3	10.6	10.6	6.4	17.0	—	19.1	6.4	8.5	8.5	17.0	2.1	14.9

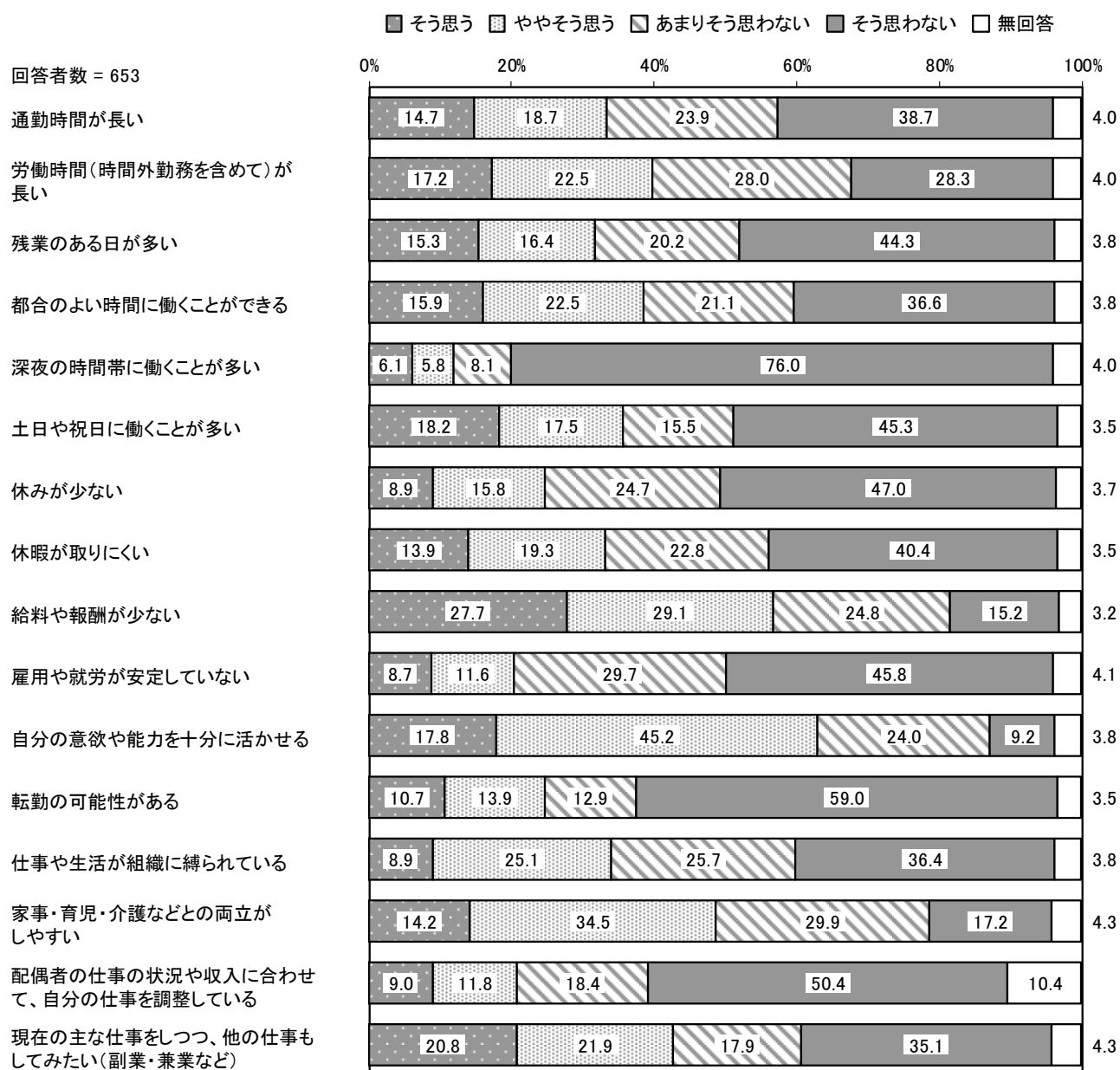
3 「仕事」に関する考えについて

現在働いている人（問2の①で「働いている」と回答された方）にうかがいます。

問9-1 あなたの働き方についてうかがいます。以下（1）～（16）のそれぞれの項目についてどのように思われますか。あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んで下さい。（○はそれぞれ1つずつ）

『自分の意欲や能力を十分に活かせる』で「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が高く、約6割となっています。また、『給料や報酬が少ない』で“そう思う”の割合が5割半ばとなっています。

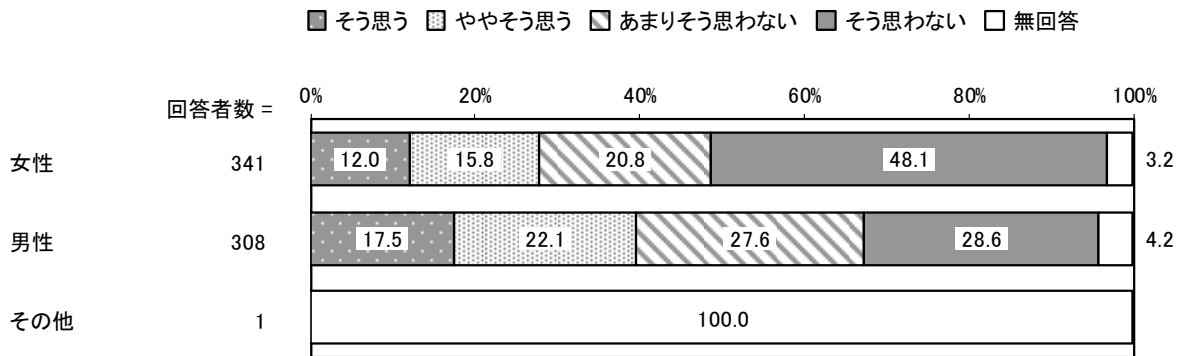
一方、『深夜の時間帯に働くことが多い』で「あまりそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が高く、8割半ばとなっています。



(1) 通勤時間が長い

【性別】

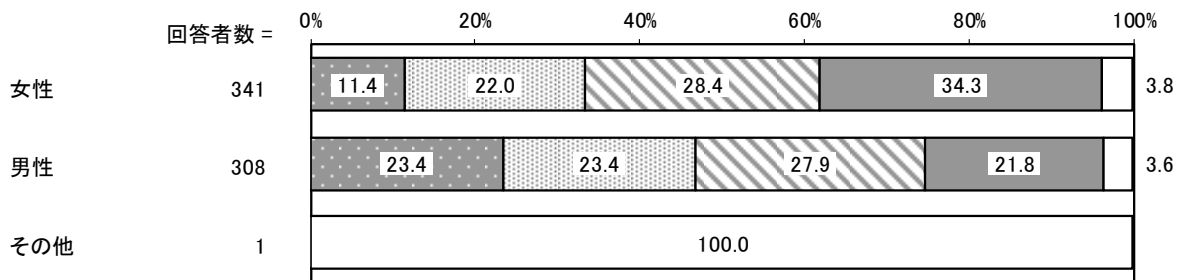
性別でみると、女性に比べ、男性で“そう思う”の割合が高く、約4割となっています。



(2) 労働時間（時間外勤務を含めて）が長い

【性別】

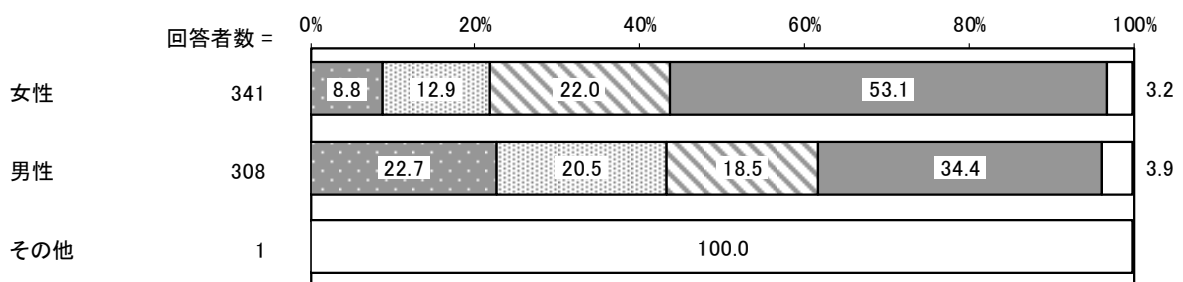
性別でみると、女性に比べ、男性で“そう思う”の割合が高く、4割半ばとなっています。



(3) 残業のある日が多い

【性別】

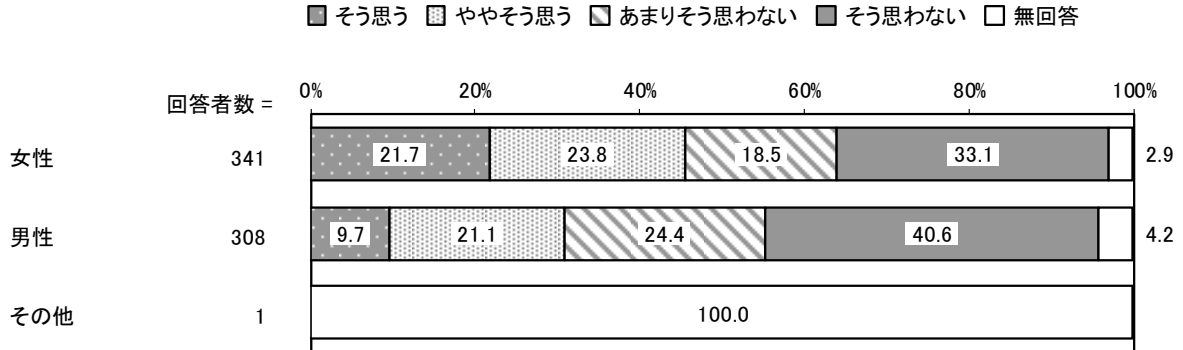
性別でみると、女性に比べ、男性で“そう思う”の割合が高く、約4割となっています。



(4) 都合のよい時間に働くことができる

【性別】

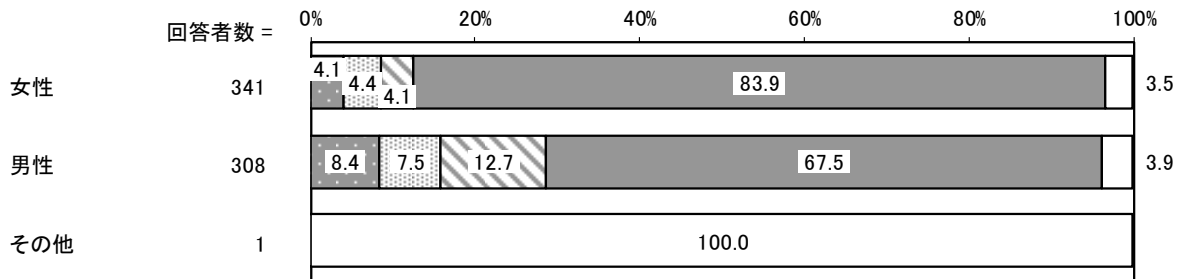
性別で見ると、女性に比べ、男性で“そう思わない”の割合が高く、6割半ばとなっています。



(5) 深夜の時間帯に働くことが多い

【性別】

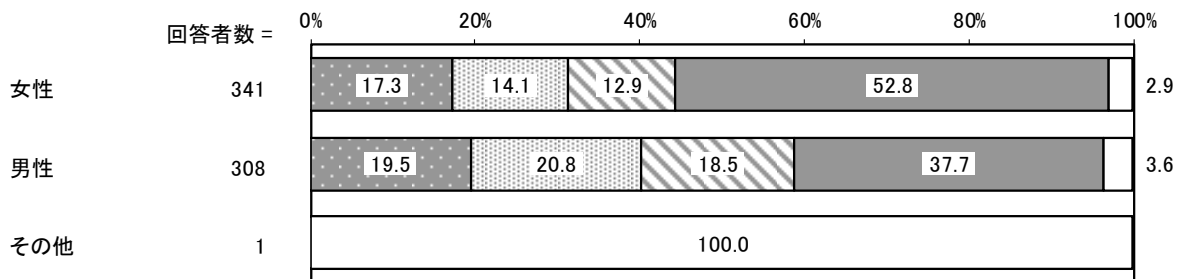
性別で見ると、女性に比べ、男性で“そう思う”の割合が高く、1割半ばとなっています。



(6) 土日や祝日に働くことが多い

【性別】

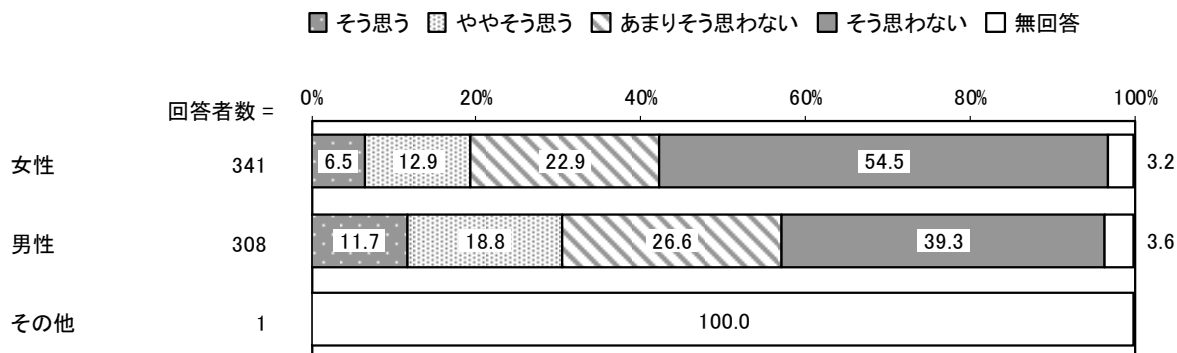
性別で見ると、女性に比べ、男性で“そう思う”の割合が高く、約4割となっています。



(7) 休みが少ない

【性別】

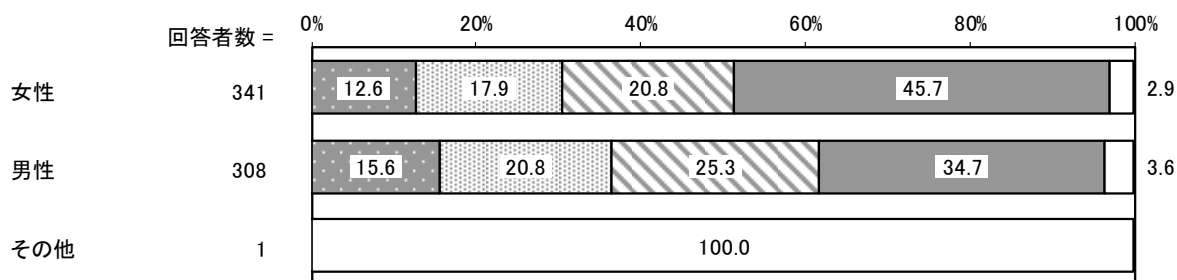
性別でみると、女性に比べ、男性で“そう思う”の割合が高く、約3割となっています。



(8) 休暇が取りにくい

【性別】

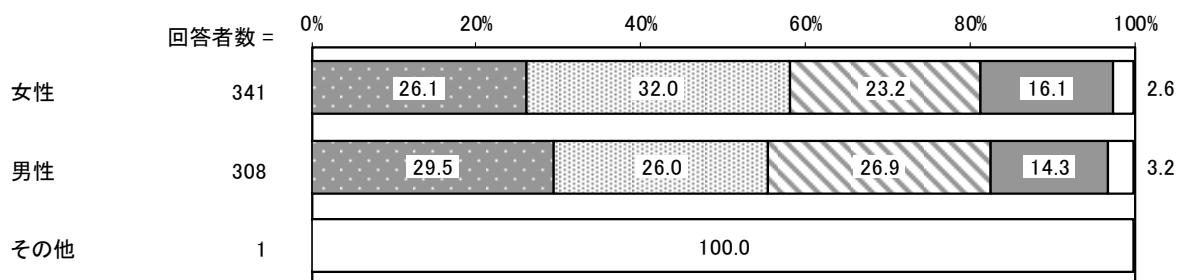
性別でみると、女性に比べ、男性で“そう思う”の割合が高く、3割半ばとなっています。



(9) 給料や報酬が少ない

【性別】

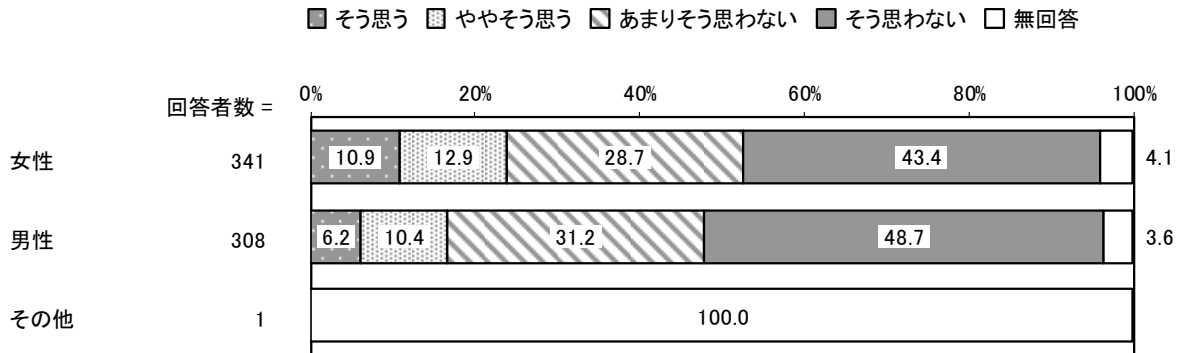
性別でみると、男性に比べ、女性で「ややそう思う」の割合が高く、約6割となっています。



(10) 雇用や就労が安定していない

【性別】

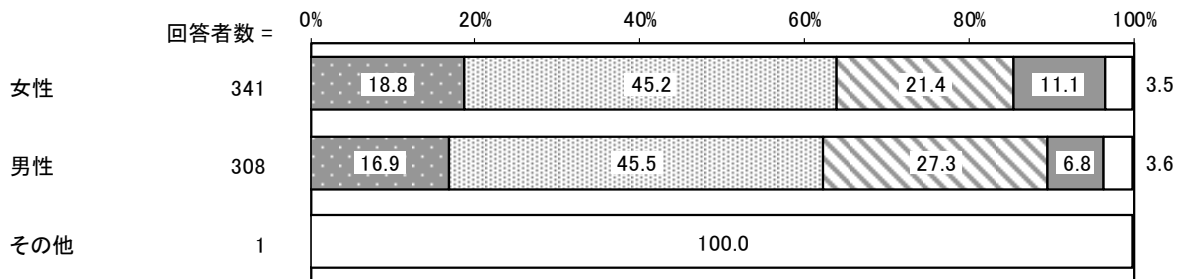
性別でみると、男性に比べ、女性で“そう思う”の割合が高く、約2割となっています。



(11) 自分の意欲や能力を十分に活かせる

【性別】

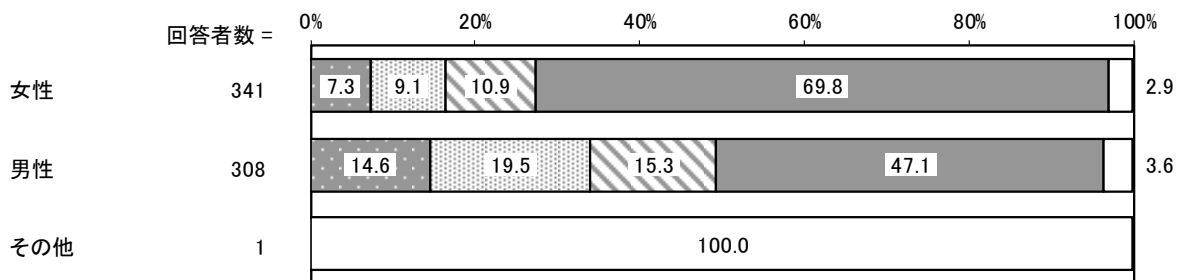
性別でみると、女性に比べ、男性で「あまりそう思わない」の割合が高く、約3割となっています。



(12) 転勤の可能性がある

【性別】

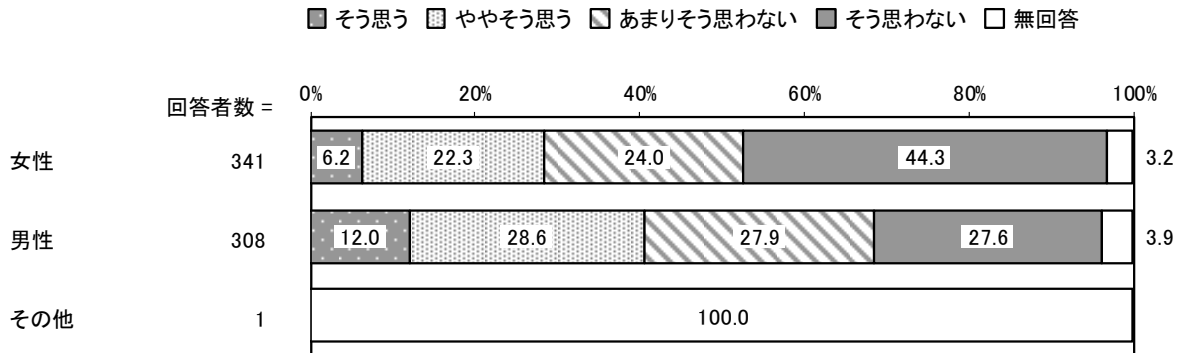
性別でみると、女性に比べ、男性で“そう思う”の割合が高く、3割半ばとなっています。



(13) 仕事や生活が組織に縛られている

【性別】

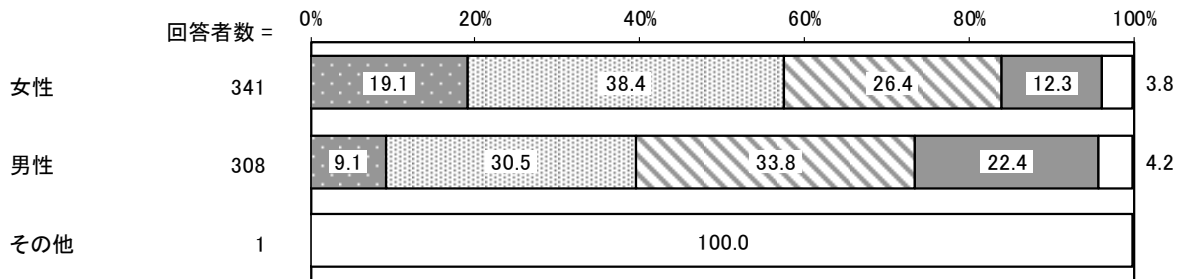
性別で見ると、女性に比べ、男性で“そう思う”の割合が高く、約4割となっています。



(14) 家事・育児・介護などとの両立がしやすい

【性別】

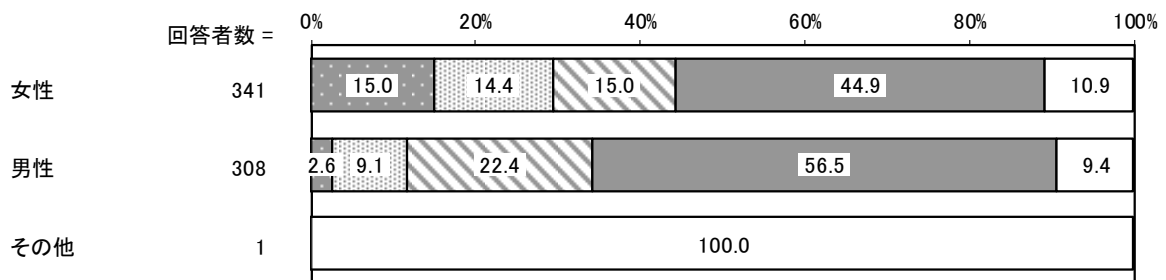
性別で見ると、女性に比べ、男性で“そう思わない”の割合が高く、5割半ばとなっています。



(15) 配偶者の仕事の状況や収入に合わせて、自分の仕事を調整している

【性別】

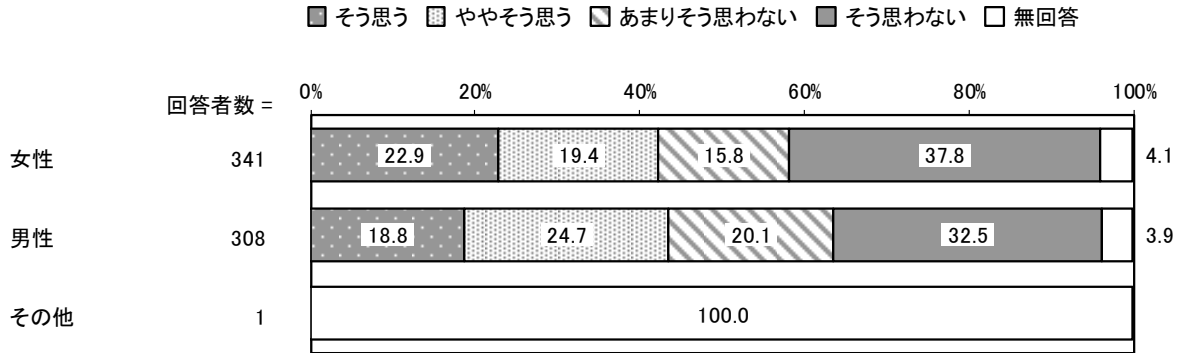
性別で見ると、男性に比べ、女性で“そう思う”の割合が高く、約3割となっています。



(16) 現在の主な仕事をしつつ、他の仕事もしてみたい（副業・兼業など）

【性別】

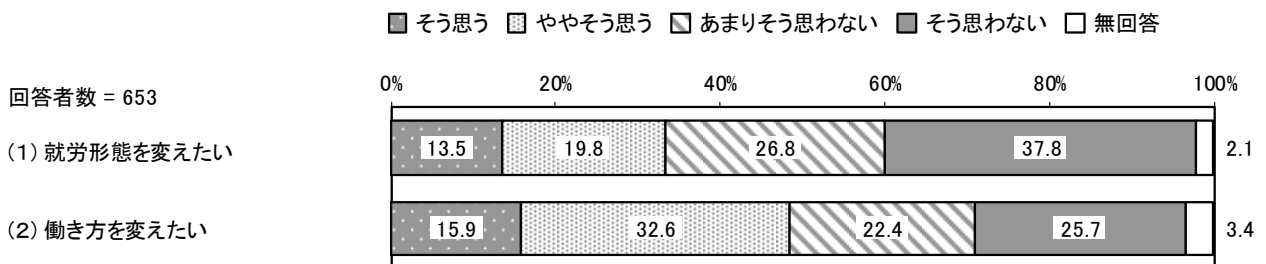
性別で見ると、女性に比べ、男性で「ややそう思う」の割合が高く、2割半ばとなっています。一方、男性に比べ、女性で「そう思わない」の割合が高く、約4割となっています。



問9-2 あなたは現在の就労形態や働き方を変えたいと思いますか。
 あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。
 (〇はそれぞれ1つずつ)

『(1) 就労形態を変えたい』では、「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が33.3%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が64.6%となっています。

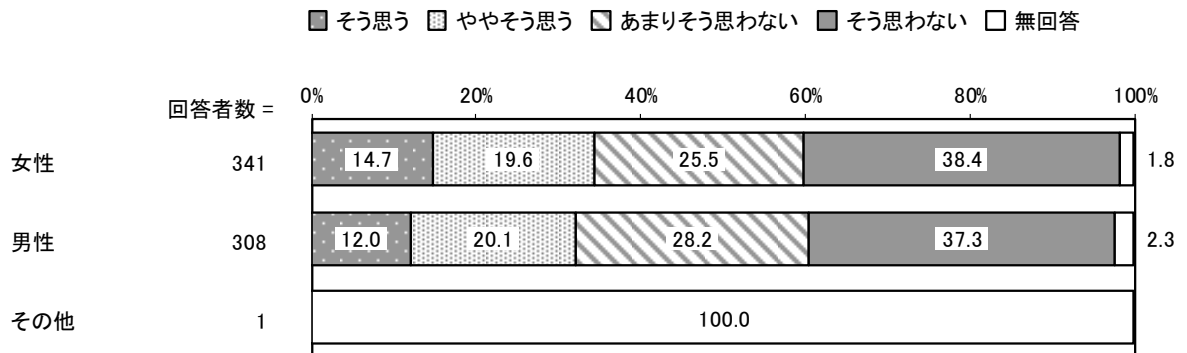
『(2) 働き方を変えたい』では、“そう思う”の割合が48.5%、“そう思わない”の割合が48.1%となっています。



(1) 就労形態を変えたい

【性別】

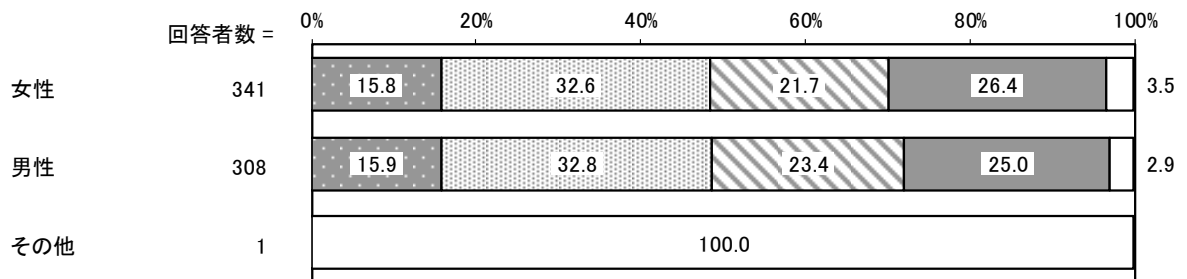
性別でみると、大きな差異はみられません。



(2) 働き方を変えたい

【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



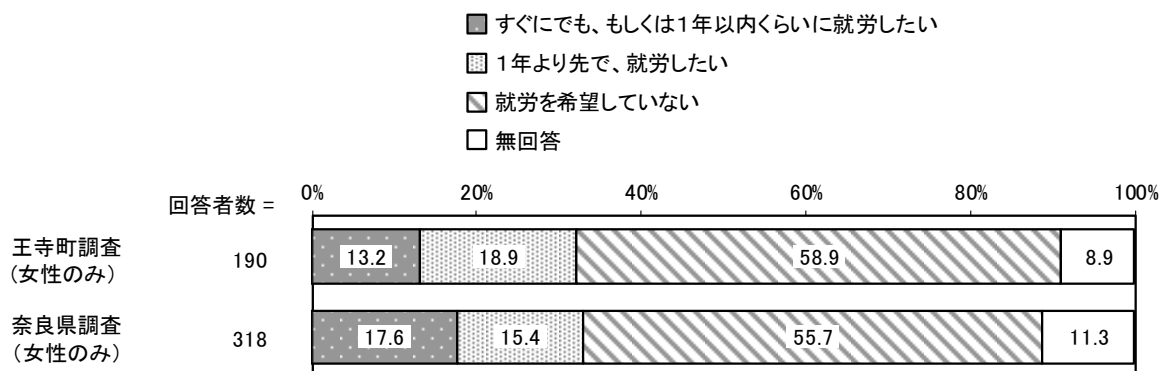
問 10 は、現在仕事をお持ちでない人にかがいます。(女性のみ)

問 10 あなたは、今後就労を希望されていますか。(○は1つ)

「就労を希望していない」の割合が 58.9%と最も高く、次いで「1年より先で、就労したい」の割合が 18.9%、「すぐにでも、もしくは1年以内くらいに就労したい」の割合が 13.2%となっています。

【奈良県調査(令和元年度)との比較】

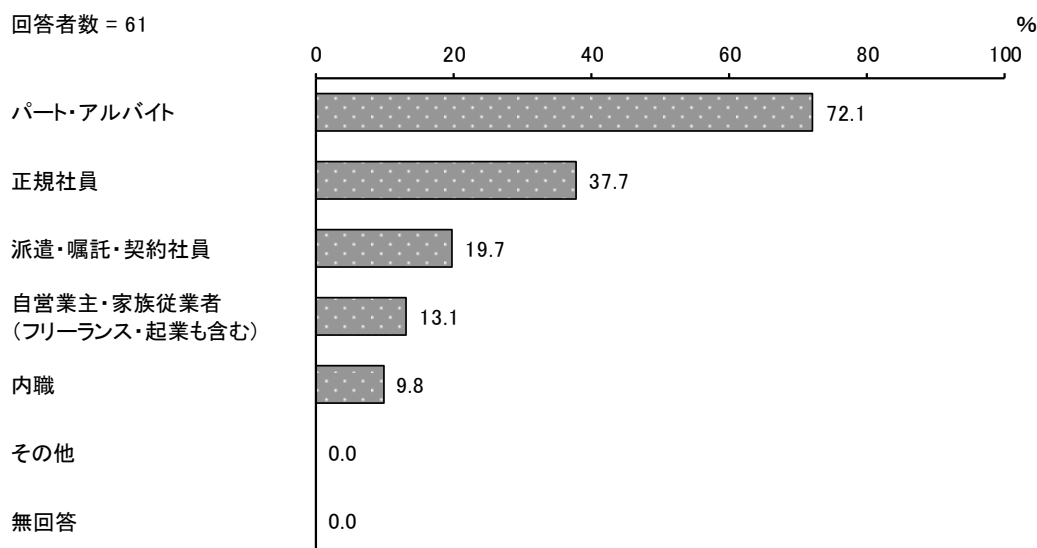
奈良県調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問 11 は、就労を希望しておられる人(問 10 で「すぐにでも、もしくは1年以内くらいに就労したい」または「1年より先で、就労したい」と回答された人)にかがいます。

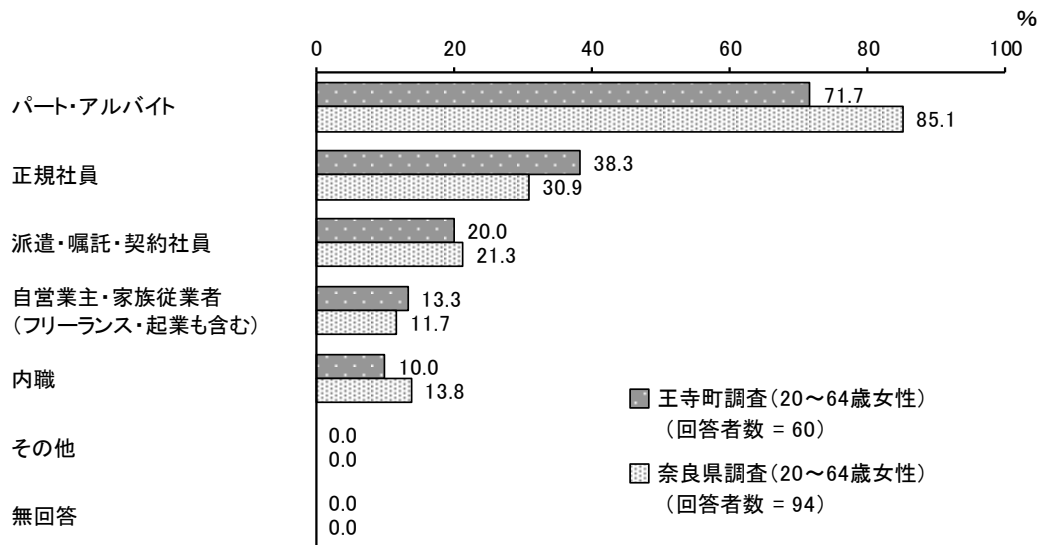
問 11-1 どのような雇用形態なら就労しようと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

「パート・アルバイト」の割合が 72.1%と最も高く、次いで「正規社員」の割合が 37.7%、「派遣・嘱託・契約社員」の割合が 19.7%となっています。



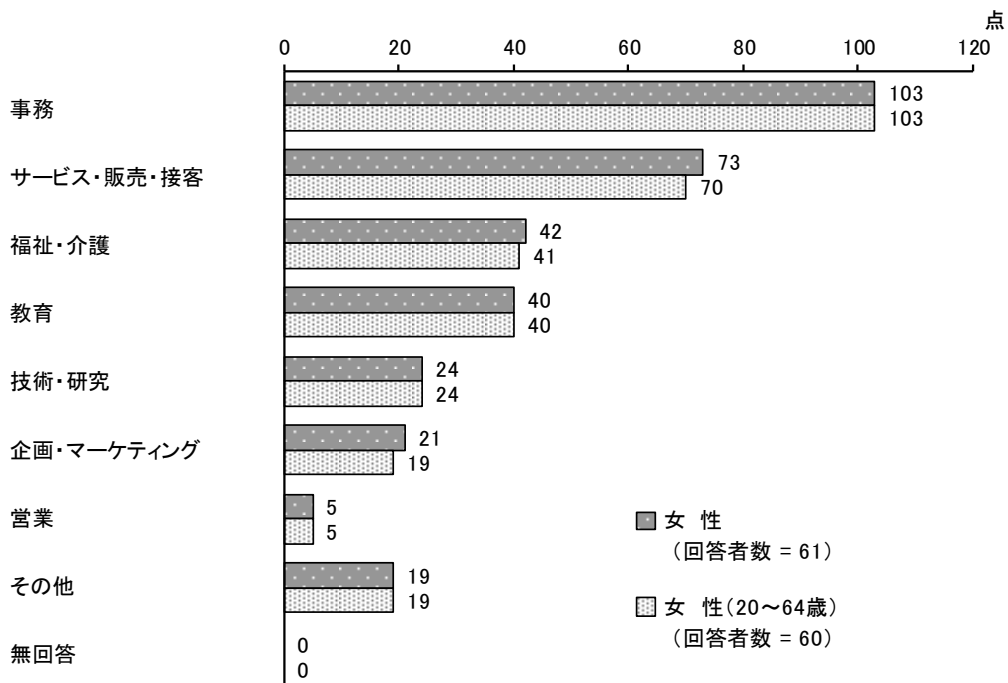
【奈良県調査との比較（20～64歳女性のみ）】

20～64歳女性のみで奈良県調査と比較すると、「パート・アルバイト」が13.4ポイント低く、「正規社員」が7.4ポイント高くなっています。



問 11-2 どのような職種なら就労したいと思いますか。次の中から第1希望の職種、第2希望の職種、第3希望の職種をそれぞれ1つ選んで右の回答欄に番号を記入してください。

女性全体、20～64歳の女性ともに「事務」の点数が最も高く、次いで「サービス・販売・接客」「福祉・介護」となっています。

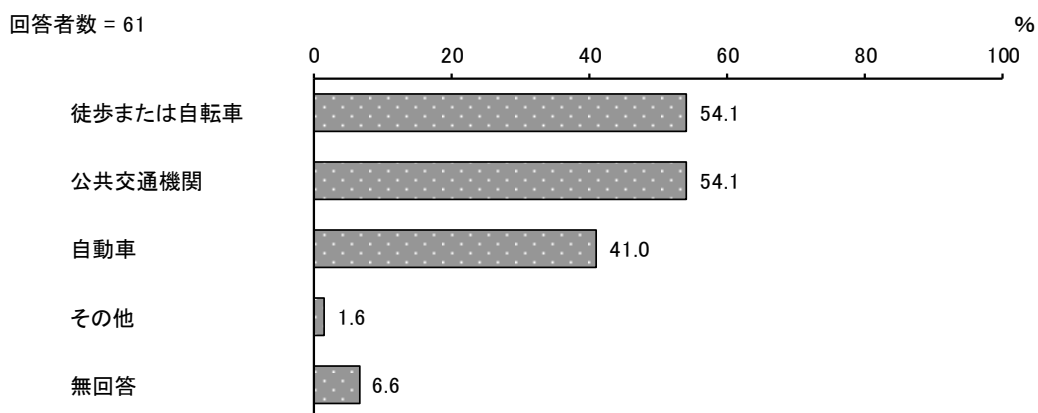


※就労意向女性(20～64歳)ベース
 ※第一希望=3点、第二希望=2点、第三希望=1点として点数換算

問 11-3 勤務地までの通勤手段・通勤時間の希望についてうかがいます。

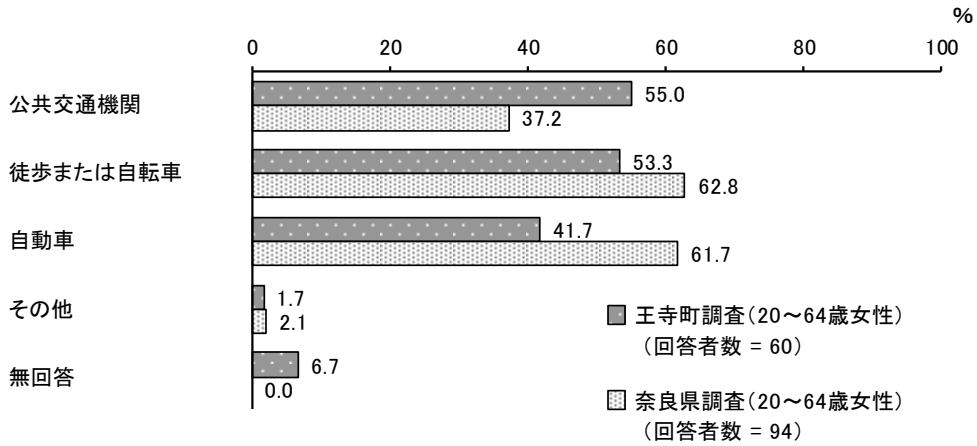
1. 通勤手段 (〇はあてはまるものすべて) >

「徒歩または自転車」、「公共交通機関」の割合が54.1%と最も高く、次いで「自動車」の割合が41.0%となっています。



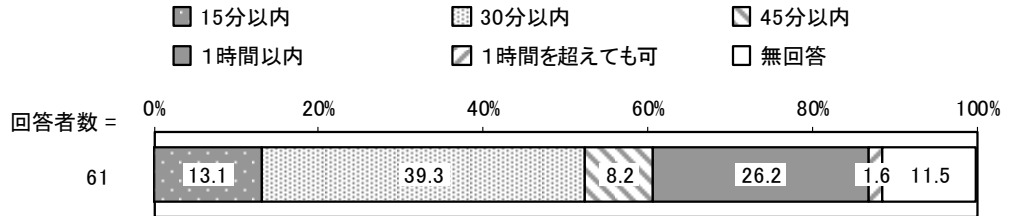
【奈良県調査との比較（20～64 歳女性）】

20～64 歳の女性で奈良県調査と比較すると、「公共交通機関」が 17.8 ポイント高く、「徒歩または自転車徒歩または自転車」が 9.5 ポイント、「自動車」が 20.0 ポイント低くなっています。



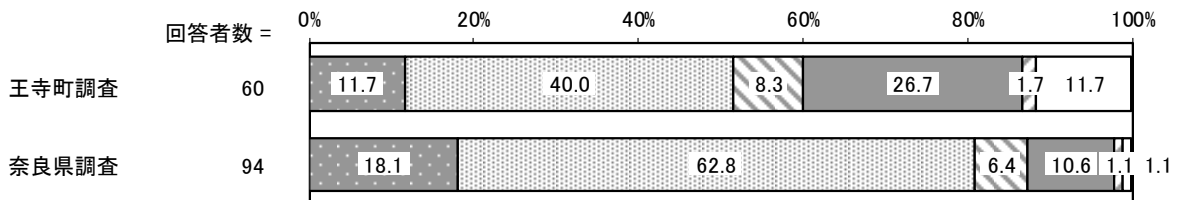
2. 通勤時間（片道）

「30 分以内」の割合が 39.3%と最も高く、次いで「1 時間以内」の割合が 26.2%、「15 分以内」の割合が 13.1%となっています。



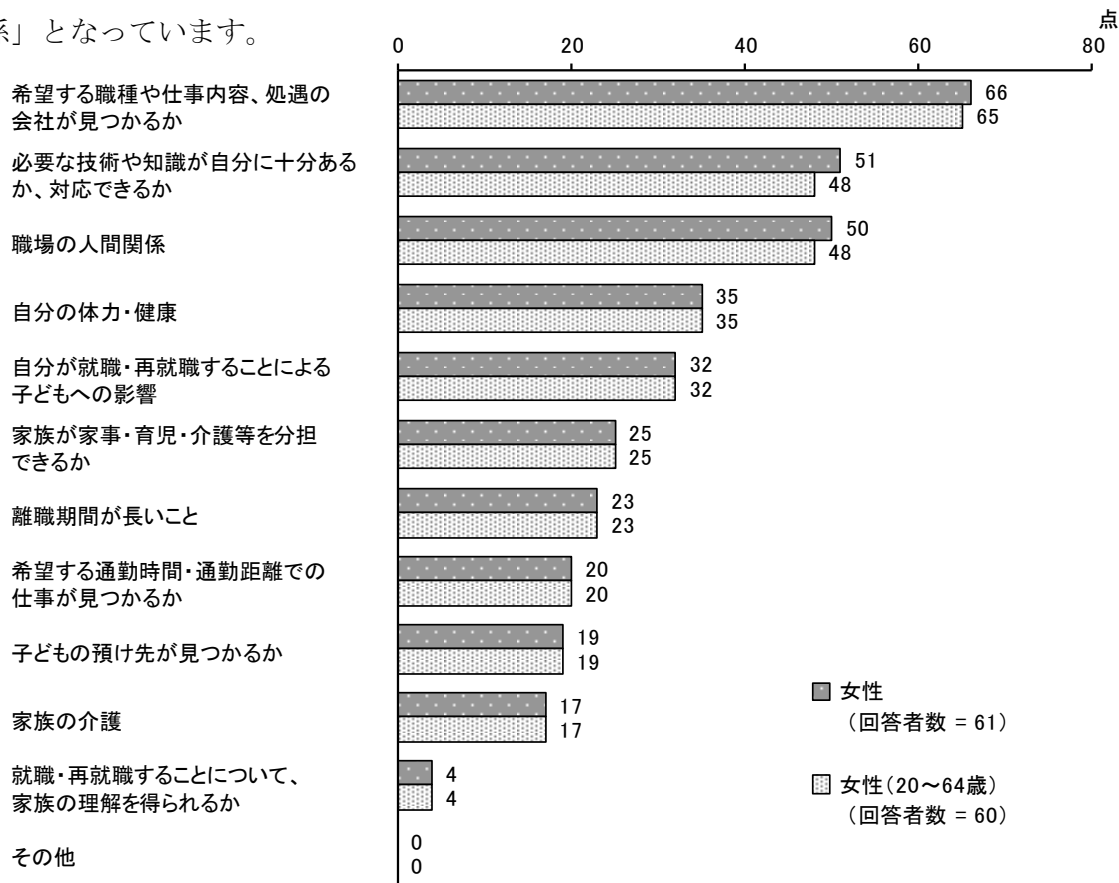
【奈良県調査との比較（20～64 歳女性）】

20～64 歳の女性で奈良県調査と比較すると、「15 分以内」が 6.4 ポイント、「30 分以内」が 22.8 ポイント低く、「1 時間以内」が 16.1 ポイント高くなっています。



問 11-4 あなたが今後、仕事をしようとするうえで、不安に思うことや問題になることは何ですか。次の中からあてはまるもの上位3つを選び、右の回答欄に番号を記入してください。

女性全体、20～64歳の女性ともに「希望する職種や仕事内容、処遇の会社が見つかるか」の点数が最も高く、次いで「必要な技術や知識が自分に十分あるか、対応できるか」「職場の人間関係」となっています。



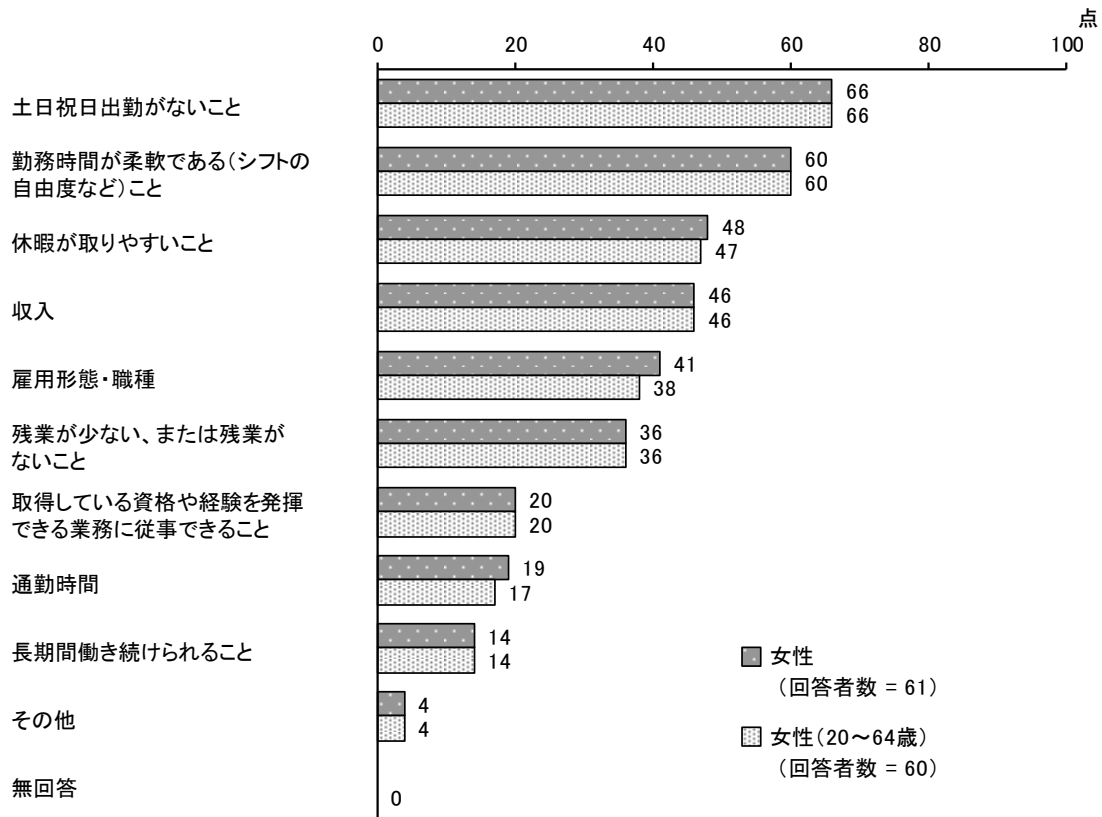
※一番目=3点、二番目=2点、三番目=1点として点数換算

「子どもの預け先が見つかるか」と回答した人に 待機児童問題の現状

「保育園」、「学童保育」が1件ずつとなっています。

問 11-5 あなたが働くにあたって、重視することは何ですか。

女性全体、20～64歳の女性ともに「土日祝日出勤がないこと」の点数が最も高く、次いで「勤務時間が柔軟である（シフトの自由度など）こと」、「休暇が取りやすいこと」となっています。



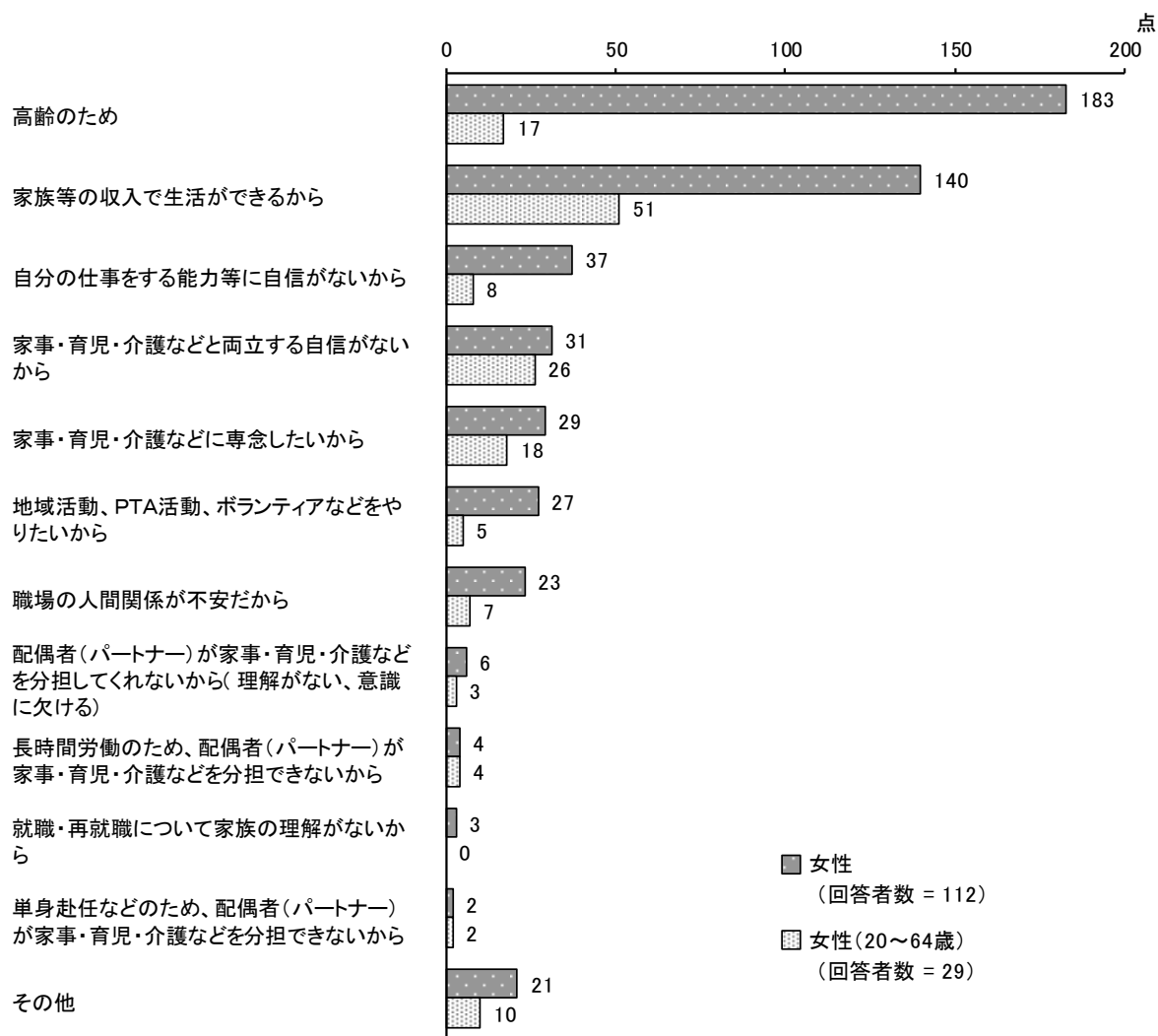
※一番目=3点、二番目=2点、三番目=1点として点数換算

問 10 で「就労を希望していない」と回答した人にうかがいます。

問 12 あなたが今後、就労を希望されていないのは、どのような理由からですか。

女性全体では、「高齢のため」の点数が最も高く、次いで「家族等の収入で生活ができるから」「自分の仕事をする能力等に自信がないから」となっています。

20～64歳の女性では、「家族等の収入で生活ができるから」の点数が最も高く、次いで「家事・育児・介護などと両立する自信がないから」「家事・育児・介護などに専念したいから」となっています。



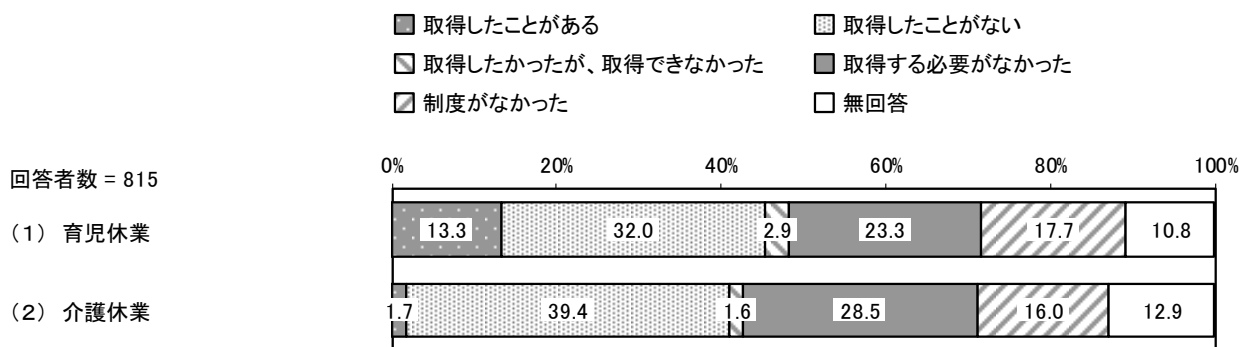
※一番目＝3点、二番目＝2点、三番目＝1点として点数換算

現在、働いている人または以前働いていた人にうかがいます。

問 13 あなたは育児休業や介護休業を取得したことがありますか。

育児休業では、「取得したことがない」の割合が 32.0%と最も高く、次いで「取得する必要がなかった」の割合が 23.3%、「制度がなかった」の割合が 17.7%となっています。

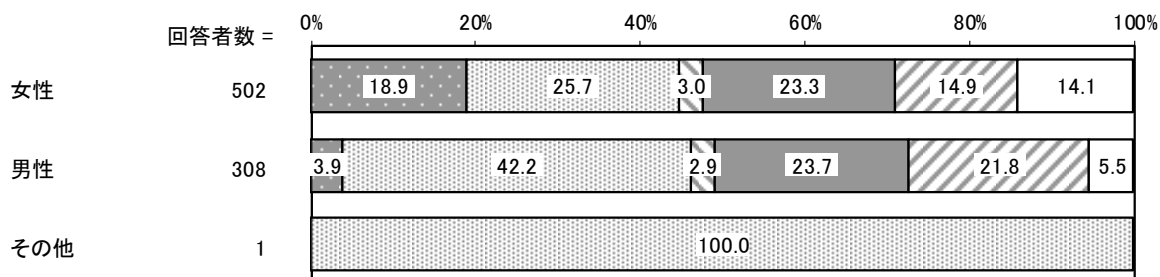
介護休業では、「取得したことがない」の割合が 39.4%と最も高く、次いで「取得する必要がなかった」の割合が 28.5%、「制度がなかった」の割合が 16.0%となっています。



(1) 育児休業

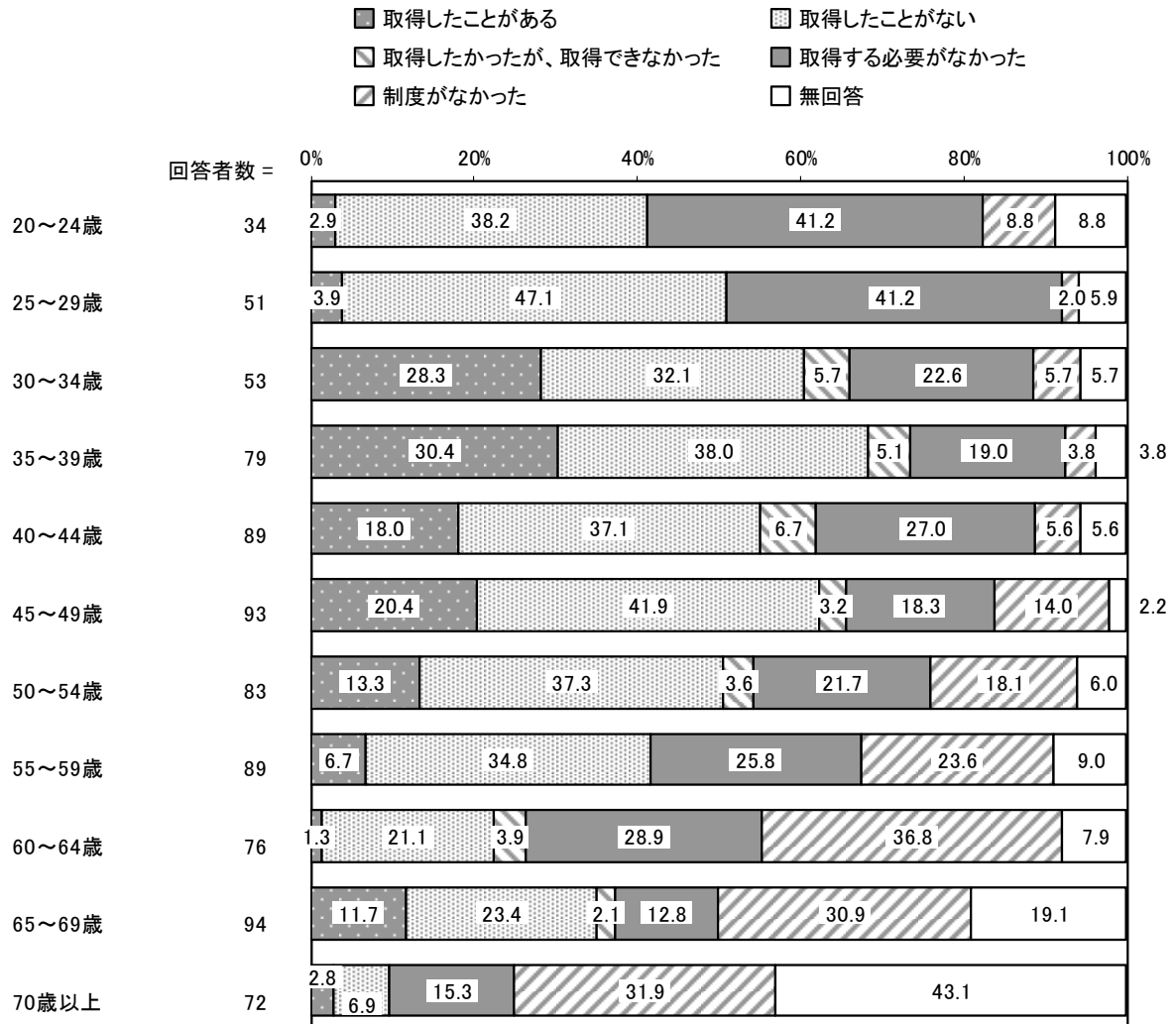
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「取得したことがある」の割合が高く、約 2 割となっています。一方、女性に比べ、男性で「取得したことがない」の割合が高く、約 4 割となっています。



【年代別】

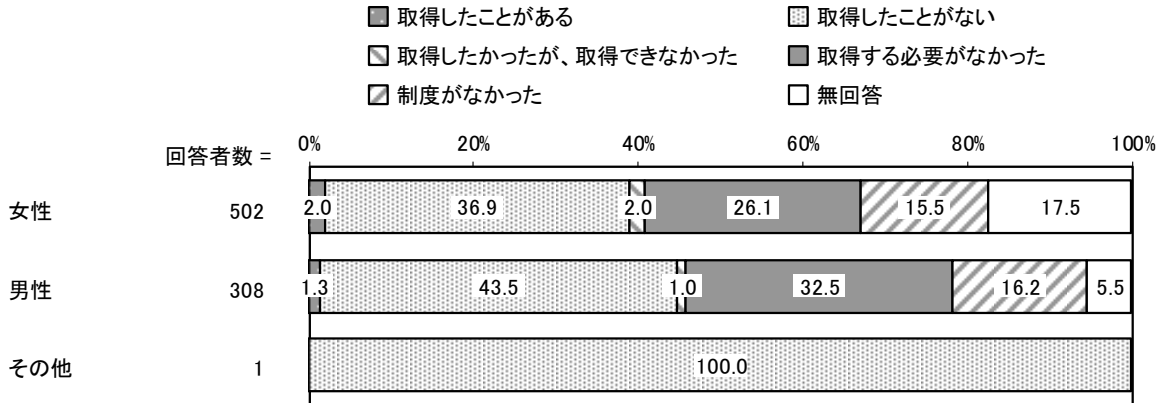
年代別でみると、他に比べ、30～39歳で「取得したことがある」の割合が高く、約3割となっています。また、25～29歳で「取得したことがない」の割合が高く、約5割となっています。



(2) 介護休業

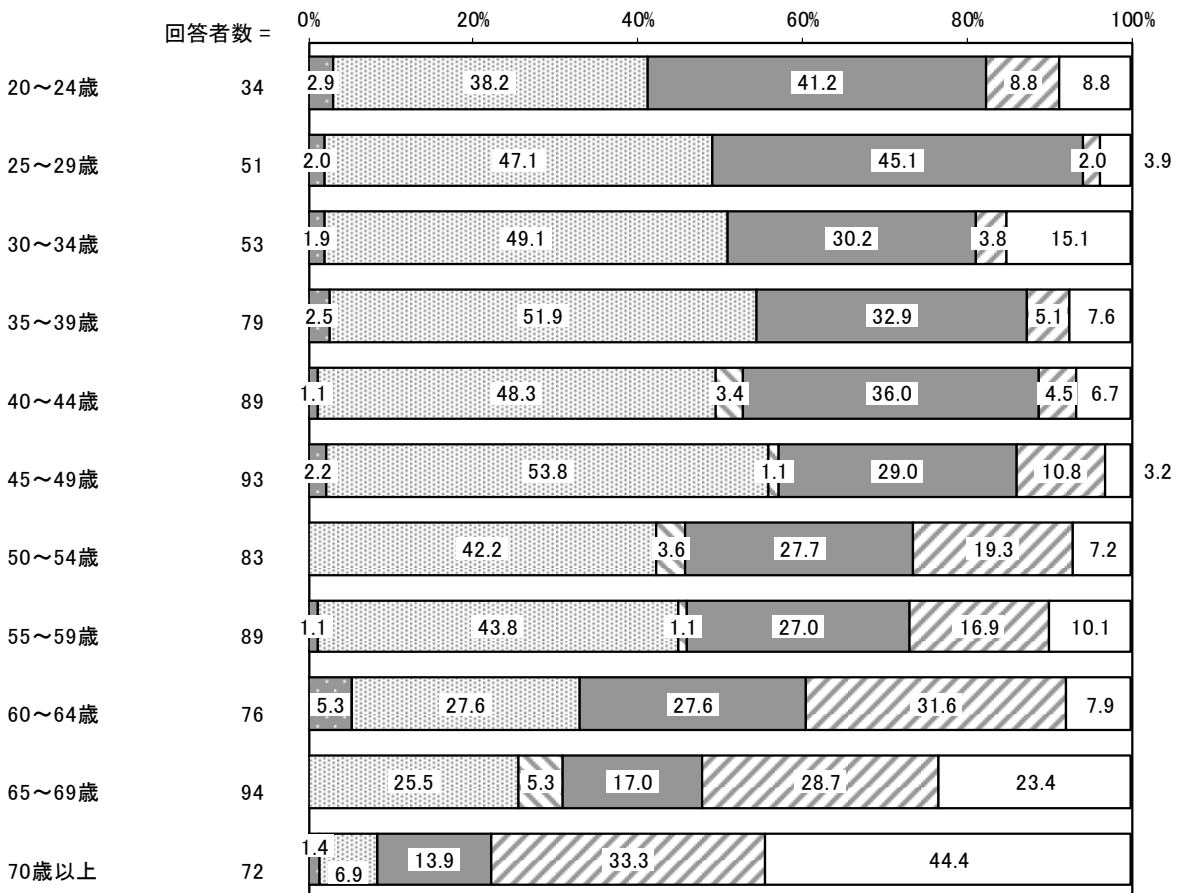
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「取得したことがない」「取得する必要がなかった」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、25～49歳で「取得したことがない」の割合が高く、約5割となっています。



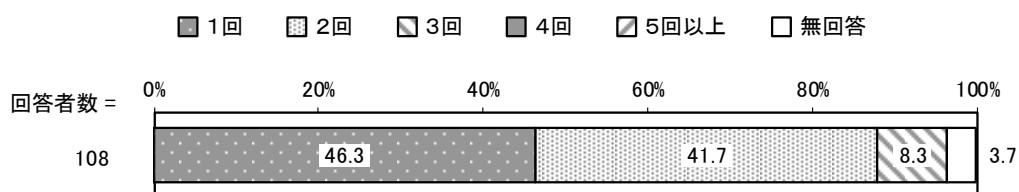
問 13 で「取得したことがある」と回答した人にうかがいます。

問 14 あなたは、育児休業や介護休業を何回、どのくらいの期間を取得できましたか。

(1) 育児休業

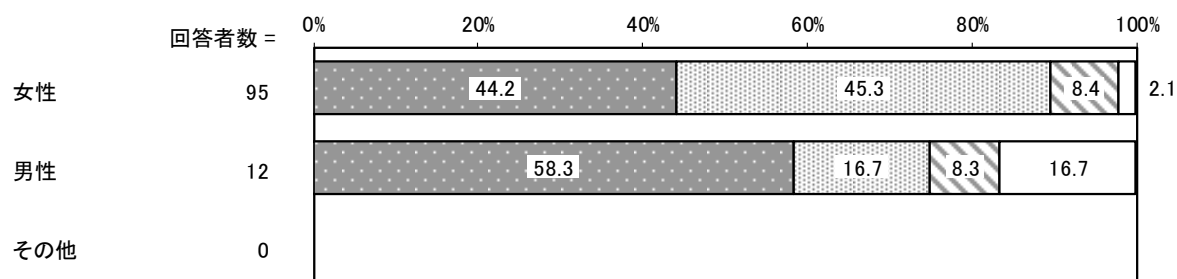
ア 回数

「1回」の割合が46.3%と最も高く、次いで「2回」の割合が41.7%となっています。



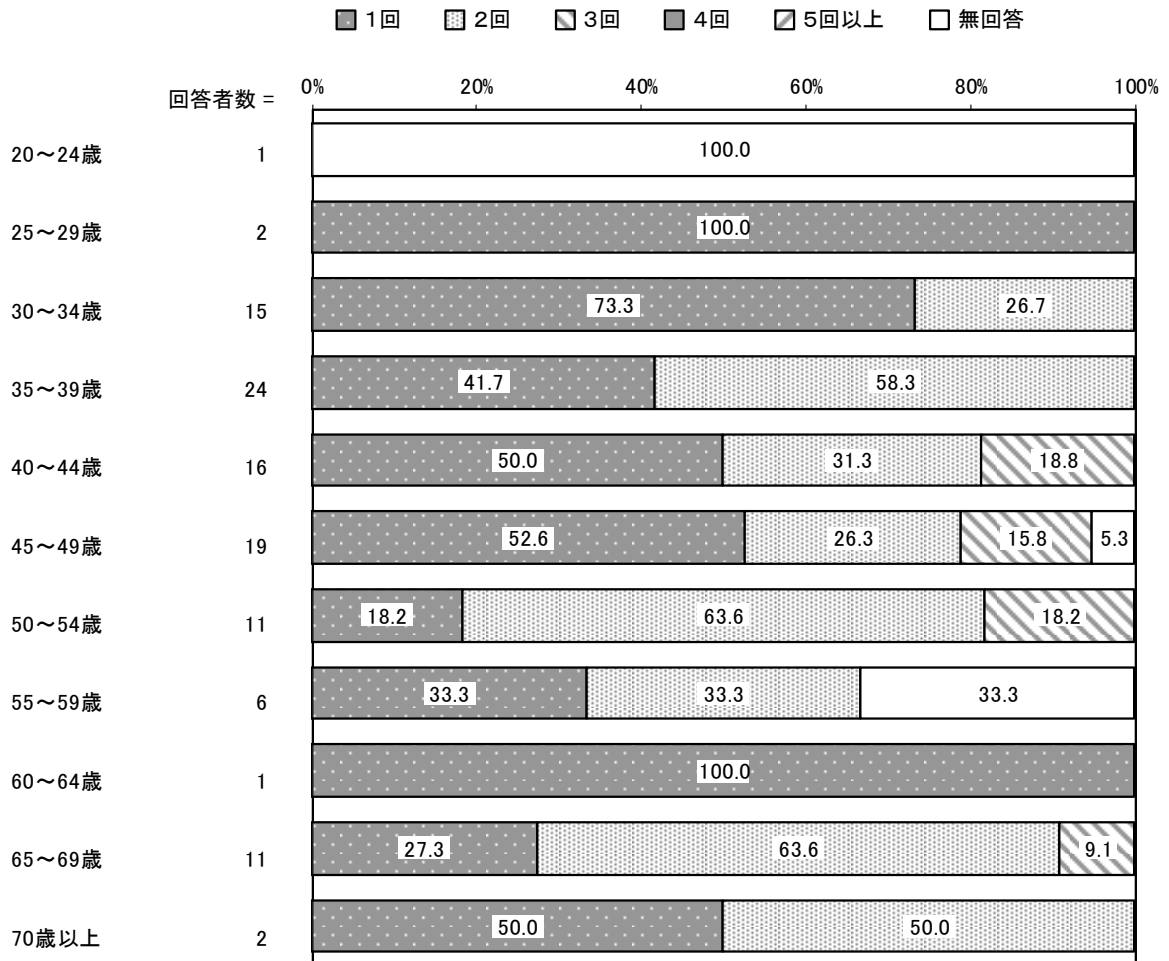
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「2回」の割合が高く、4割半ばとなっています。また、女性に比べ、男性で「1回」の割合が高く、約6割となっています。



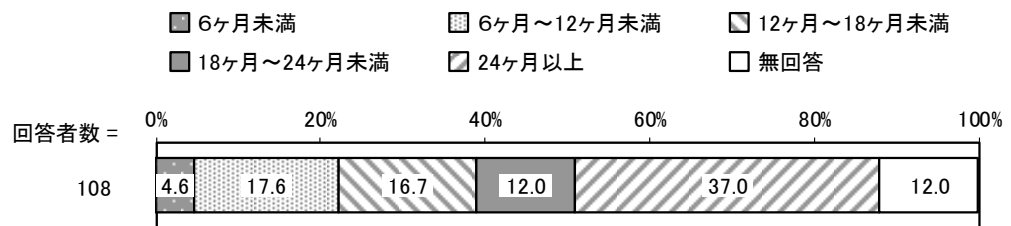
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、30～34歳で「1回」の割合が高く、約7割となっています。また、35～39歳、50～54歳、65～69歳で「2回」の割合が、40～54歳で「3回」の割合が高くなっています。



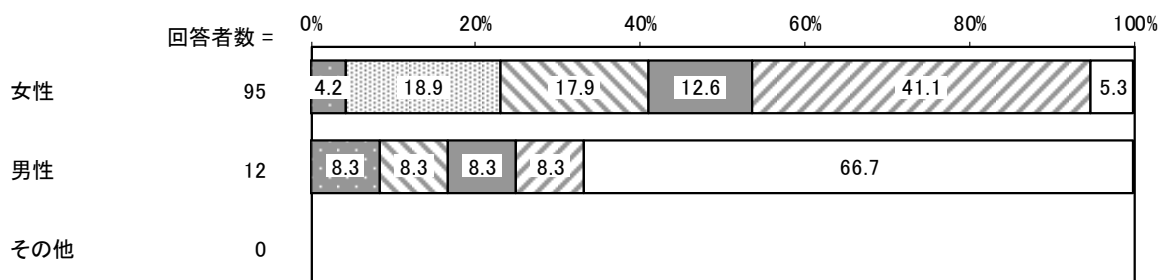
イ 期間

「24ヶ月以上」の割合が37.0%と最も高く、次いで「6ヶ月～12ヶ月未満」の割合が17.6%、「12ヶ月～18ヶ月未満」の割合が16.7%となっています。



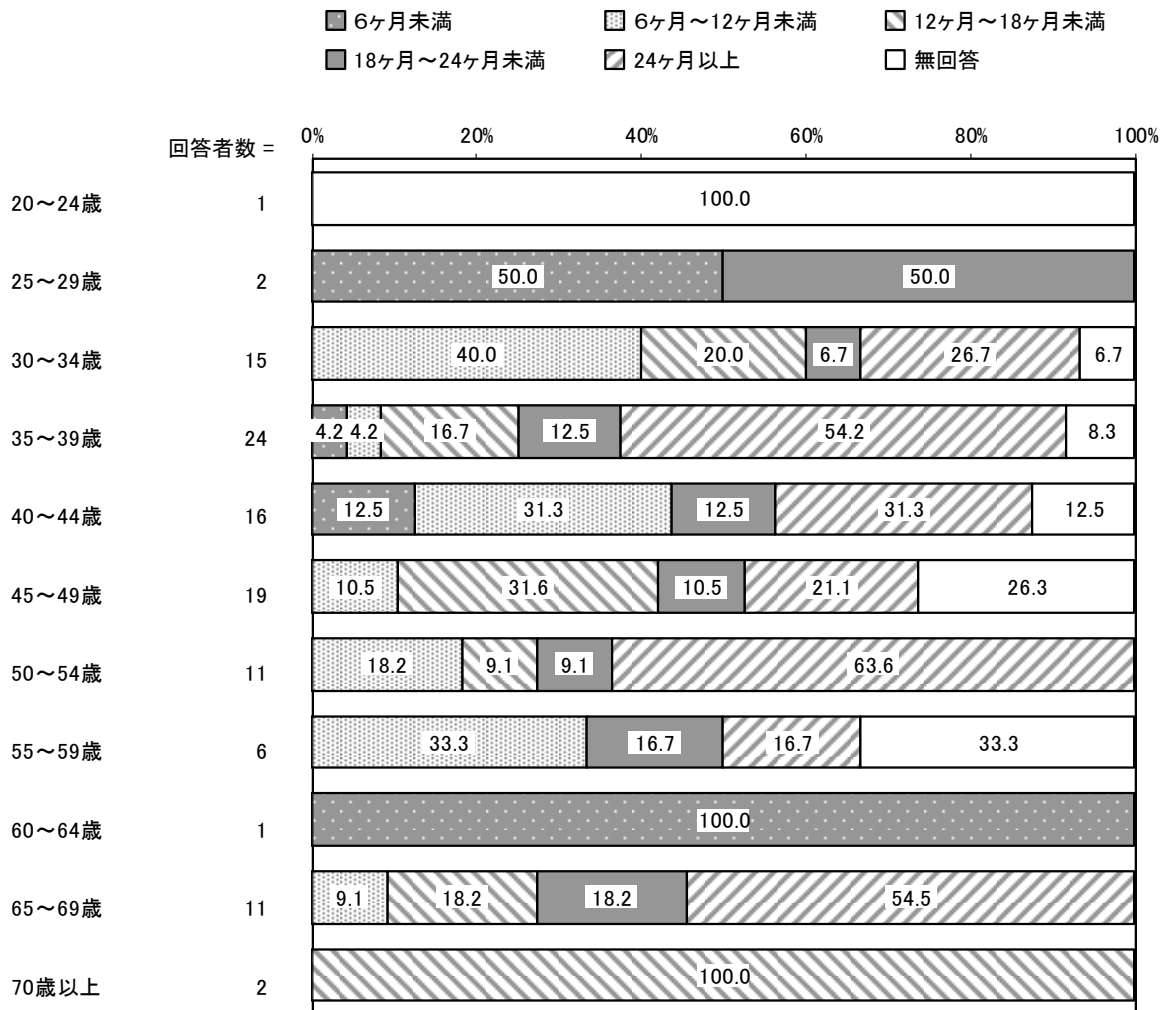
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「6ヶ月～12ヶ月未満」「12ヶ月～18ヶ月未満」「24ヶ月以上」の割合が高くなっています。



【年代別】

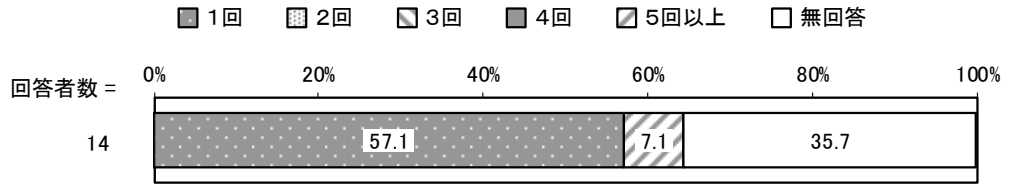
年代別でみると、他に比べ、50～54歳で「24ヶ月以上」の割合が高く、約6割となっています。



(2) 介護休業

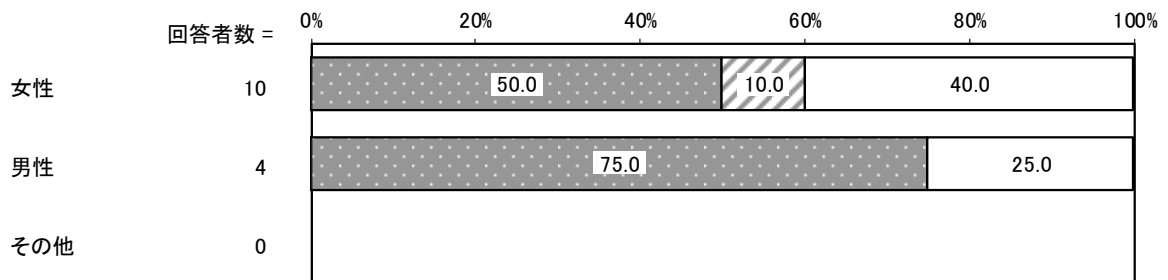
ア 回数

「1回」の割合が57.1%と最も高くなっています。



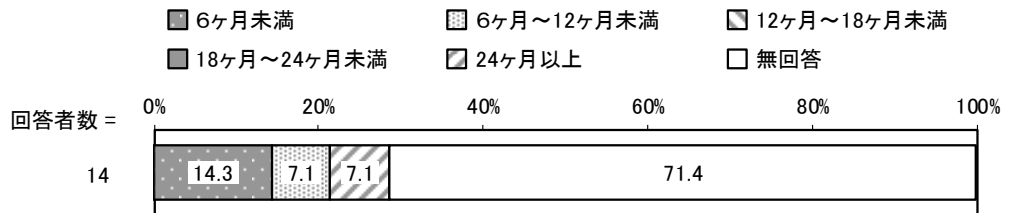
【性別】

性別では、有効回答が少ないため参考とします。



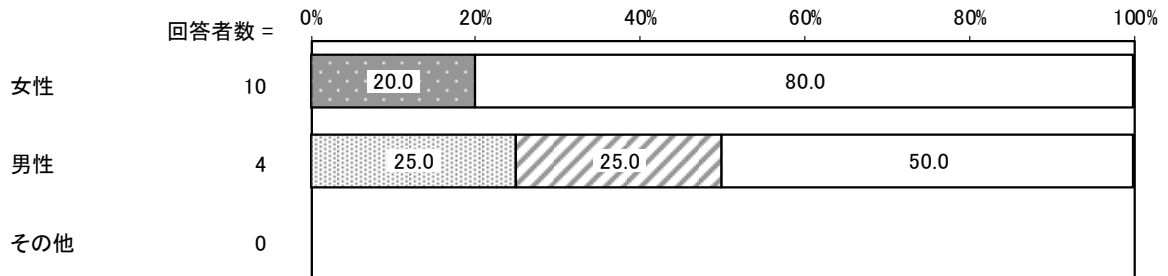
イ 期間

「6ヶ月未満」の割合が20.0%と最も高くなっています。



【性別】

性別では、有効回答が少ないため参考とします。

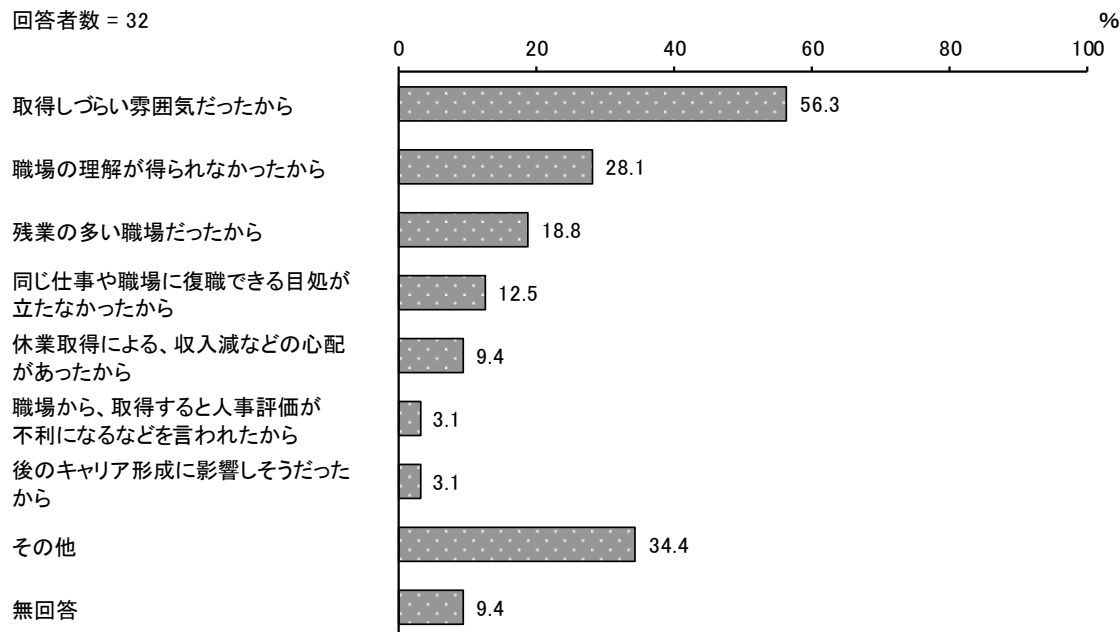


問 13 の (1) (2) で「取得したかったが、取得できなかった」を選んだ人にうかがいます。

問 15 取得できなかった理由に○をつけてください。
(特にあてはまるもの3つまでに○)

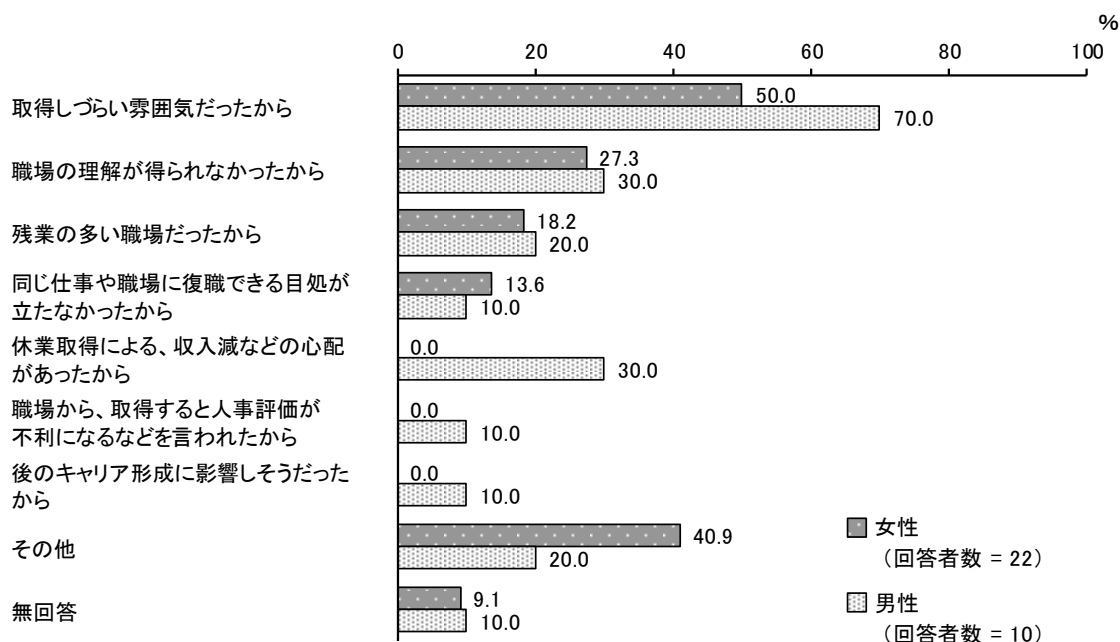
「取得しづらい雰囲気だったから」の割合が 56.3%と最も高く、次いで「職場の理解が得られなかったから」の割合が 28.1%、「残業の多い職場だったから」の割合が 18.8%となっています。

回答者数 = 32



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「取得しづらい雰囲気だったから」「職場から、取得すると人事評価が不利になるなどと言われたから」「休業取得による、収入減などの心配があったから」「後のキャリア形成に影響しそうだったから」の割合が高くなっています。



※性別が「その他」の方の回答はありません。

【年代別】

年代別では、有効回答が少ないため参考とします。

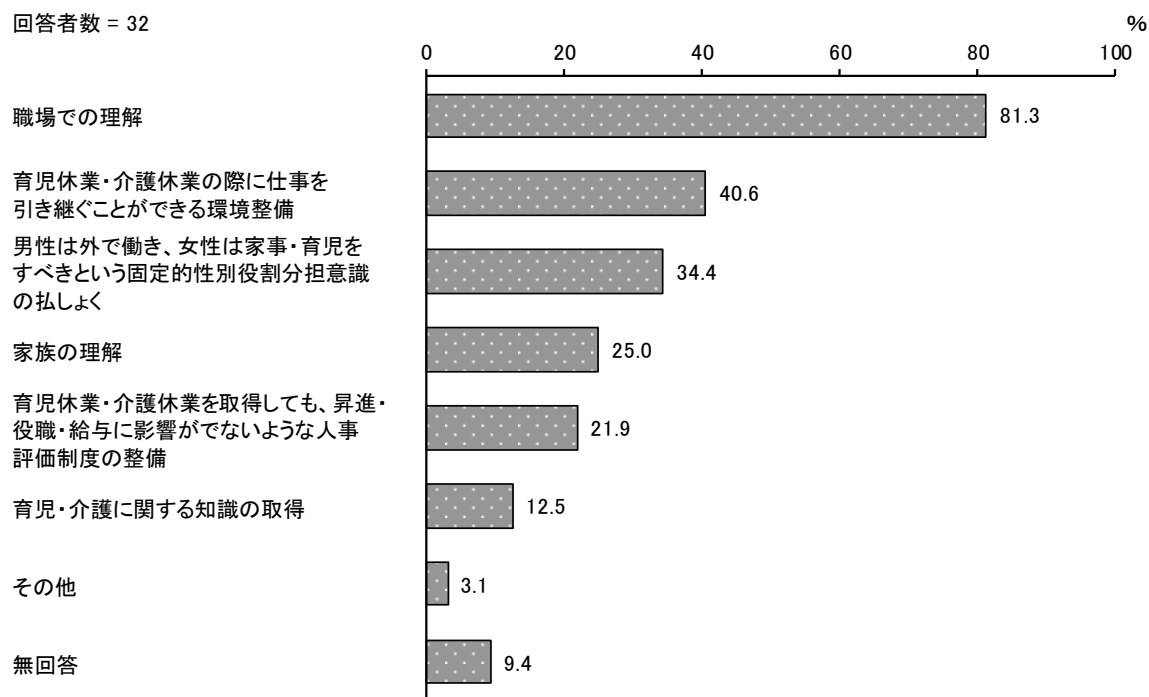
単位：％

区分	回答者数（件）	取得しづらい雰囲気だったから	残業の多い職場だったから	職場の理解が得られなかったから	職場から、取得すると人事評価が不利になるなどを言われたから	休業取得による、収入減などの心配があったから	後のキャリア形成に影響しそうだったから	同じ仕事や職場に復職できる目処が立たなかったから	その他	無回答
20～24 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25～29 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30～34 歳	3	33.3	—	33.3	—	33.3	—	—	66.7	—
35～39 歳	4	50.0	—	25.0	—	25.0	—	25.0	50.0	—
40～44 歳	7	71.4	28.6	42.9	14.3	14.3	14.3	14.3	28.6	—
45～49 歳	3	33.3	33.3	—	—	—	—	33.3	66.7	—
50～54 歳	6	33.3	—	33.3	—	—	—	—	16.7	33.3
55～59 歳	1	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—
60～64 歳	3	100.0	—	33.3	—	—	—	33.3	33.3	—
65～69 歳	5	80.0	60.0	20.0	—	—	—	—	—	20.0
70 歳以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

問 16 育児休業や介護休業制度が今より利用しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(特に必要だと思うもの3つまでに○)

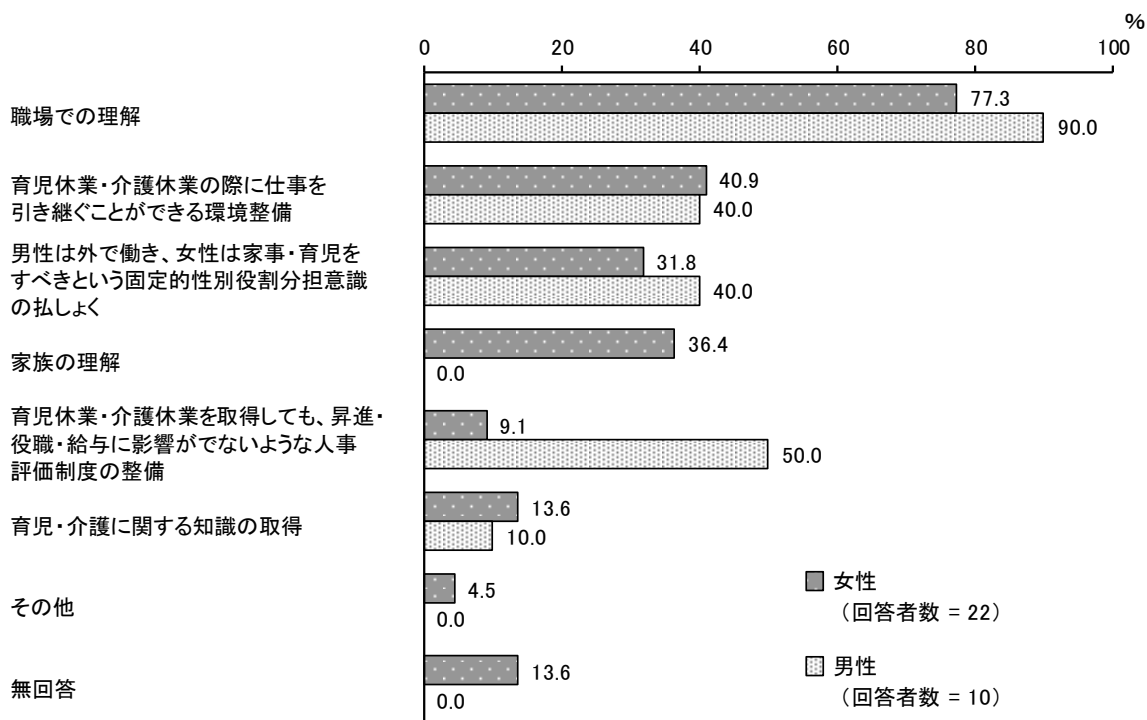
「職場での理解」の割合が81.3%と最も高く、次いで「育児休業・介護休業の際に仕事を引き継ぐことができる環境整備」の割合が40.6%、「男性は外で働き、女性は家事・育児をすべきという固定的性別役割分担意識の払しょく」の割合が34.4%となっています。

回答者数 = 32



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「家族の理解」の割合が高く、3割半ばとなっています。また、女性に比べ、男性で「職場での理解」「男性は外で働き、女性は家事・育児をすべきという固定的性別役割分担意識の払しょく」「育児休業・介護休業を取得しても、昇進・役職・給与に影響がでないような人事評価制度の整備」の割合が高くなっています。



※性別が「その他」の方の回答はありません。

【年代別】

年代別では、有効回答が少ないため参考とします。

単位：%

区分	回答者数(件)	職場での理解	家族の理解	男性は外で働き、女性は家事・育児をすべきという固定的性別役割分担意識の払しょく	育児休業・介護休業の際に仕事を引き継ぐことができる環境整備	育児休業・介護休業を取得しても、昇進・役職・給与に影響がでないような人事評価制度の整備	育児・介護に関する知識の取得	その他	無回答
20～24 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25～29 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30～34 歳	3	66.7	33.3	66.7	33.3	66.7	—	—	—
35～39 歳	4	50.0	—	25.0	50.0	50.0	—	25.0	25.0
40～44 歳	7	100.0	14.3	57.1	28.6	42.9	—	—	—
45～49 歳	3	100.0	33.3	—	100.0	—	66.7	—	—
50～54 歳	6	66.7	—	16.7	33.3	—	—	—	16.7
55～59 歳	1	100.0	100.0	100.0	—	—	—	—	—
60～64 歳	3	100.0	66.7	66.7	66.7	—	—	—	—
65～69 歳	5	80.0	40.0	—	20.0	—	40.0	—	20.0
70 歳以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—

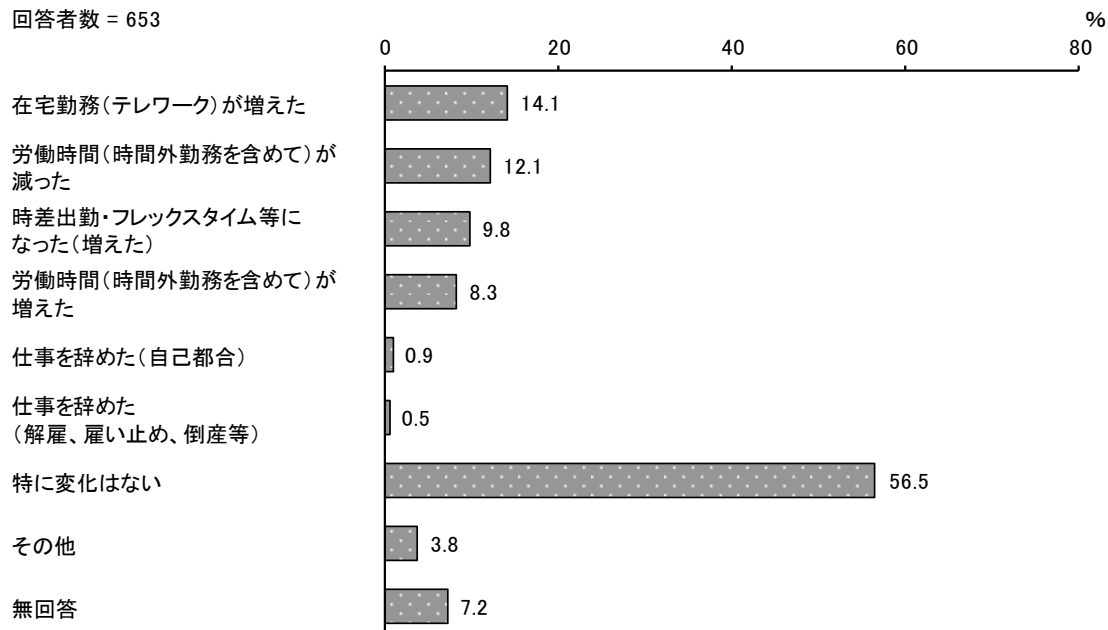
働いている人、または配偶者（パートナー）が働いている人にうかがいます。

問 17 新型コロナウイルス感染症の影響下で、あなたや配偶者（パートナー）の働き方に変化はありましたか。
 1. あなた、2. 配偶者（パートナー）それぞれについて該当するところに○をつけてください。（○はいくつでも）

（1）回答者本人

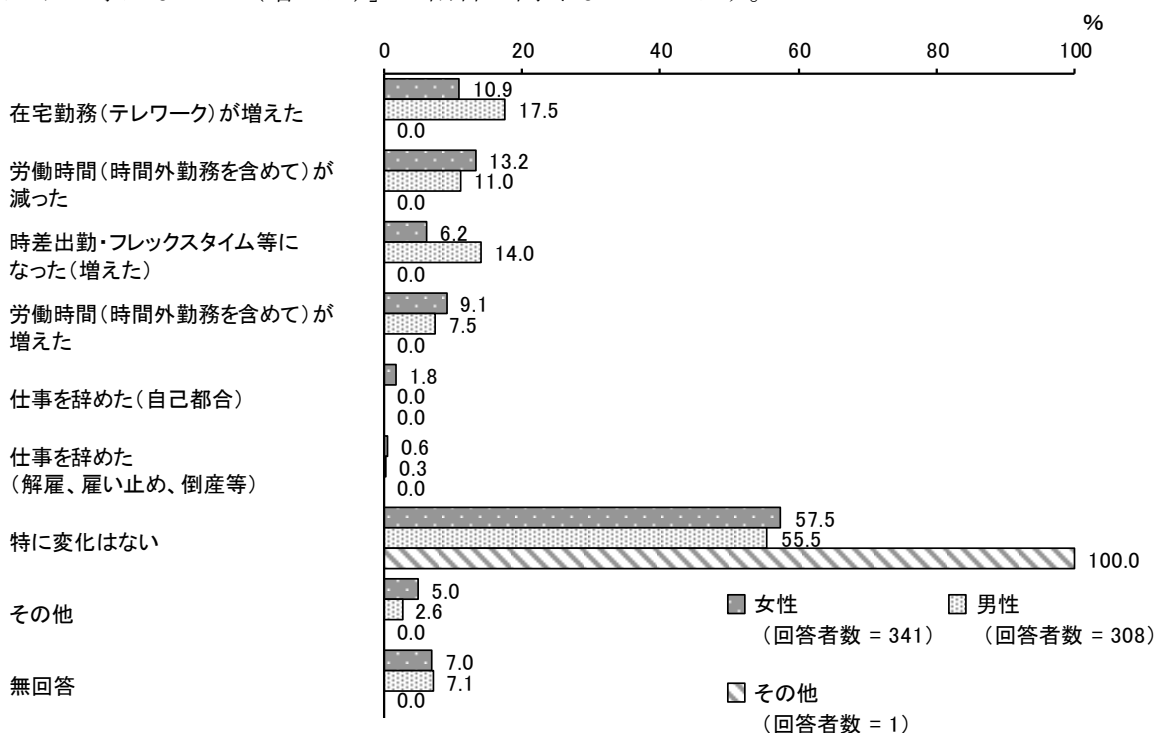
「特に変化はない」の割合が 56.5%と最も高く、次いで「在宅勤務（テレワーク）が増えた」の割合が 14.1%、「労働時間（時間外勤務を含めて）が減った」の割合が 12.1%となっています。

回答者数 = 653



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「在宅勤務（テレワーク）が増えた」「時差出勤・フレックスタイム等になった（増えた）」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別では、他に比べ、40～44歳で「在宅勤務（テレワーク）が増えた」の割合が高く、2割半ばとなっています。

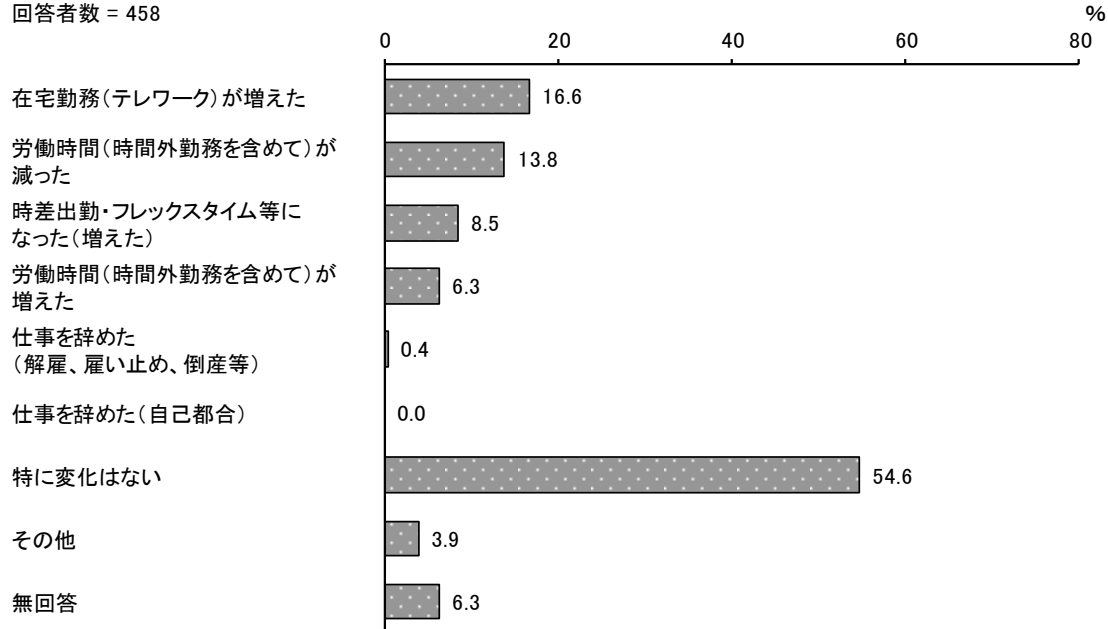
単位：%

区分	回答者数（件）	在宅勤務（テレワーク）が増えた	時差出勤・フレックスタイム等になった（増えた）	労働時間（時間外勤務を含めて）が増えた	労働時間（時間外勤務を含めて）が減った	仕事を辞めた（自己都合）	仕事を辞めた（解雇、雇い止め、倒産等）	特に変化はない	その他	無回答
20～24歳	31	3.2	9.7	6.5	12.9	3.2	—	48.4	—	29.0
25～29歳	48	16.7	10.4	14.6	6.3	2.1	4.2	52.1	2.1	4.2
30～34歳	48	20.8	14.6	12.5	10.4	—	—	58.3	2.1	2.1
35～39歳	65	13.8	9.2	7.7	7.7	—	—	63.1	6.2	6.2
40～44歳	75	24.0	13.3	12.0	12.0	1.3	—	50.7	4.0	—
45～49歳	84	15.5	9.5	9.5	8.3	—	—	59.5	3.6	4.8
50～54歳	77	7.8	7.8	7.8	15.6	1.3	—	62.3	5.2	5.2
55～59歳	76	18.4	9.2	7.9	15.8	1.3	—	56.6	2.6	3.9
60～64歳	62	14.5	12.9	4.8	14.5	1.6	—	56.5	3.2	8.1
65～69歳	58	5.2	5.2	1.7	13.8	—	1.7	62.1	5.2	8.6
70歳以上	27	3.7	3.7	3.7	18.5	—	—	33.3	7.4	33.3

(2) 配偶者(パートナー)

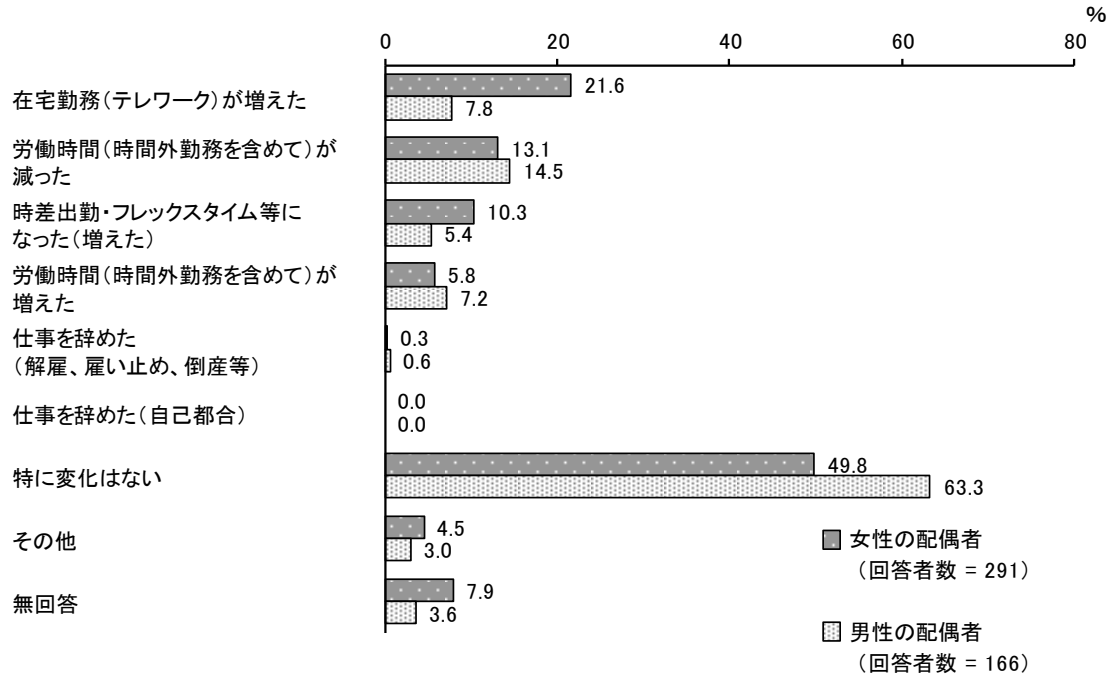
配偶者(パートナー)では、「特に変化はない」の割合が 54.6%と最も高く、次いで「在宅勤務(テレワーク)が増えた」の割合が 16.6%、「労働時間(時間外勤務を含めて)が減った」の割合が 13.8%、「労働時間(時間外勤務を含めて)が増えた」の割合が 13.8%となっています。

回答者数 = 458



【性別】

性別でみると、男性の配偶者に比べ、女性の配偶者で「在宅勤務(テレワーク)が増えた」の割合が高く、約2割となっています。また、女性の配偶者に比べ、男性の配偶者で「特に変化はない」の割合が高く、約6割となっています。



※性別が「その他」の方の回答はありません。

【年代別】

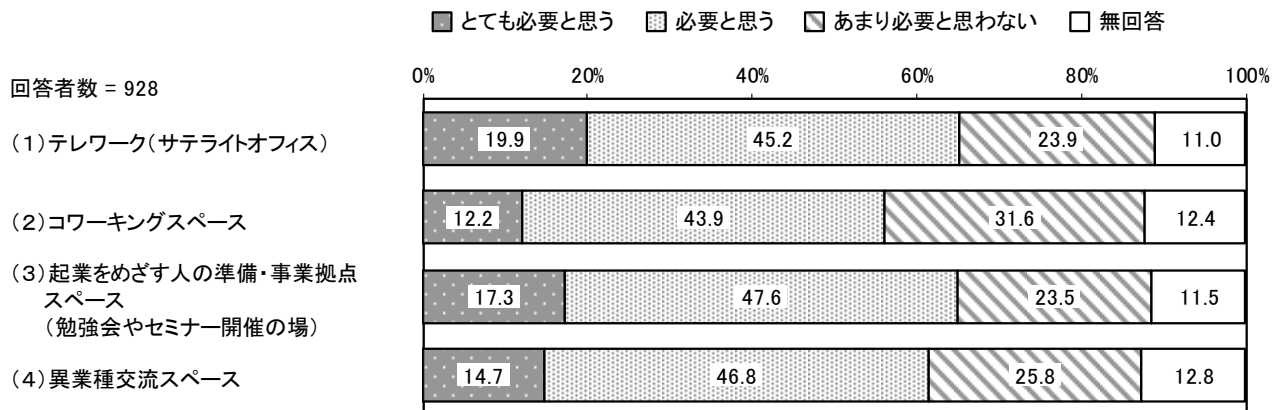
年代別では、他に比べ、35～39歳で「在宅勤務（テレワーク）が増えた」の割合が高く、2割半ばとなっています。また、25～29歳、50～54歳で「特に変化はない」の割合が高く、6割を超えています。

単位：％

区分	回答者数（件）	在宅勤務（テレワーク）が増えた	時差出勤・フレックスタイム等になった（増えた）	労働時間（時間外勤務を含めて）が増えた	労働時間（時間外勤務を含めて）が減った	仕事を辞めた（自己都合）	仕事を辞めた（解雇、雇い止め、倒産等）	特に変化はない	その他	無回答
20～24歳	1	—	—	—	100.0	—	—	—	100.0	—
25～29歳	16	18.8	6.3	6.3	12.5	—	—	62.5	6.3	—
30～34歳	33	21.2	9.1	3.0	3.0	—	—	57.6	9.1	6.1
35～39歳	60	25.0	6.7	3.3	16.7	—	1.7	46.7	6.7	3.3
40～44歳	65	20.0	10.8	6.2	15.4	—	—	56.9	3.1	3.1
45～49歳	72	18.1	11.1	11.1	19.4	—	—	45.8	1.4	5.6
50～54歳	54	13.0	5.6	7.4	13.0	—	—	63.0	5.6	3.7
55～59歳	54	20.4	11.1	5.6	13.0	—	—	59.3	—	7.4
60～64歳	44	9.1	13.6	6.8	11.4	—	—	56.8	2.3	2.3
65～69歳	47	6.4	2.1	6.4	8.5	—	—	59.6	2.1	17.0
70歳以上	12	—	—	—	16.7	—	8.3	33.3	8.3	33.3

問 18-1 あなたが働くにあたって、王寺町で「柔軟な働き方」の支援策として、どのような施設が、必要だと思いますか。(1)～(4)の項目ごとに1つずつ〇をつけてください。(1)～(4)以外の場合、(5)その他へ具体的にご記入ください。

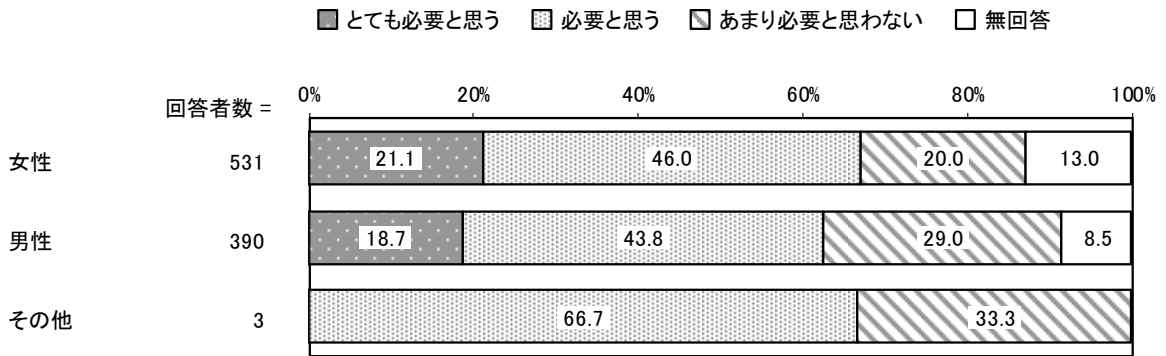
『(1)テレワーク(サテライトオフィス)』、『(2)コワーキングスペース』、『(3)起業をめざす人の準備・事業拠点スペース(勉強会やセミナー開催の場)』、『(4)異業種交流スペース』とも「とても必要と思う」、「必要と思う」の割合が高く、約6割となっています。



(1) テレワーク (サテライトオフィス)

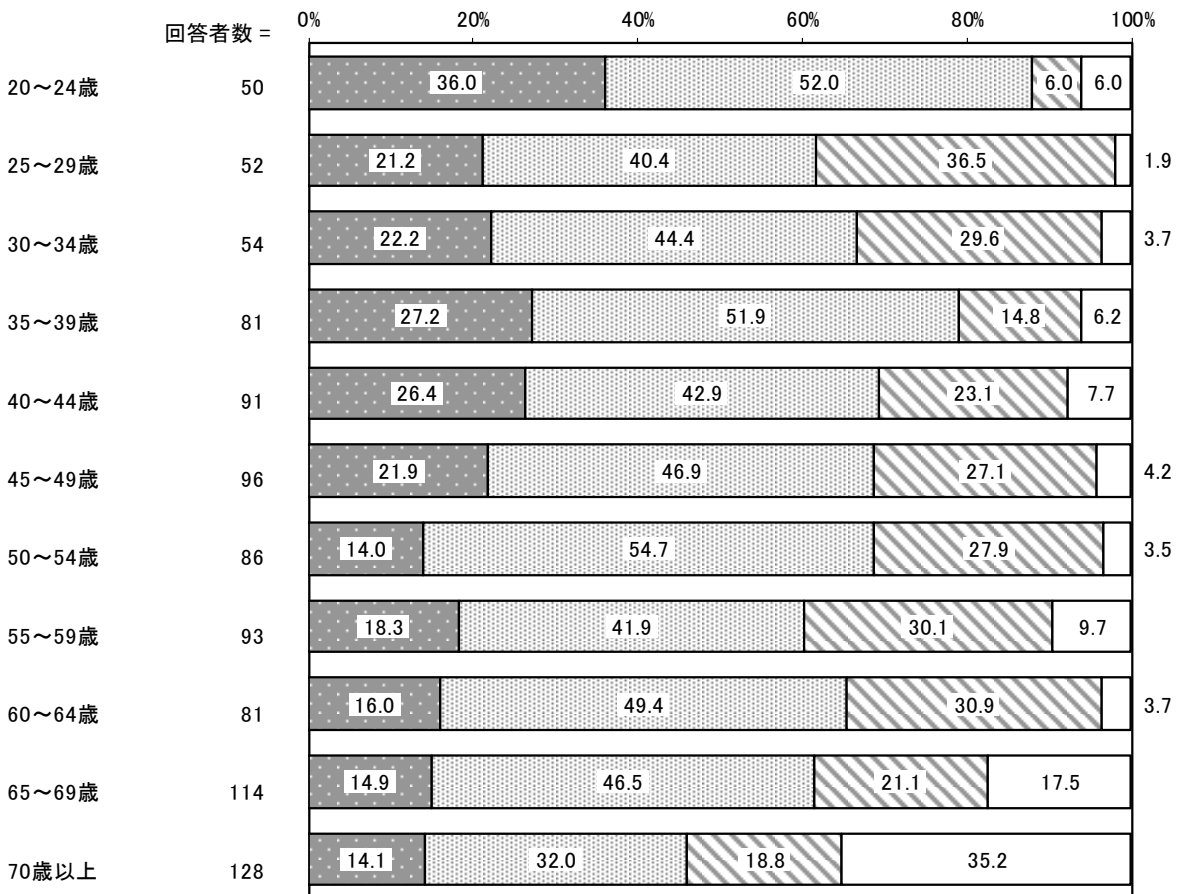
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「とても必要と思う」、「必要と思う」の割合が約5%高くなっています。



【年代別】

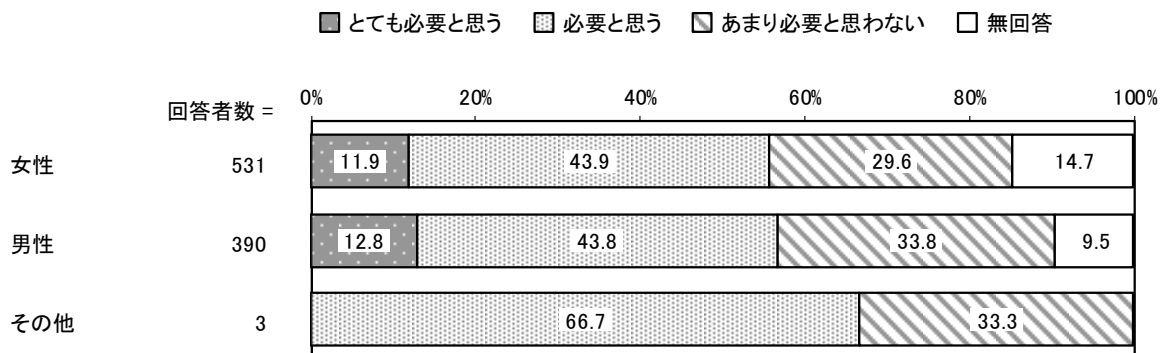
年代別で見ると、他に比べ、20~24歳で「とても必要と思う」の割合が高く、3割半ばとなっています。また、70歳以上以外では、「とても必要と思う」「必要と思う」の割合が6割を超えています。



(2) コワーキングスペース

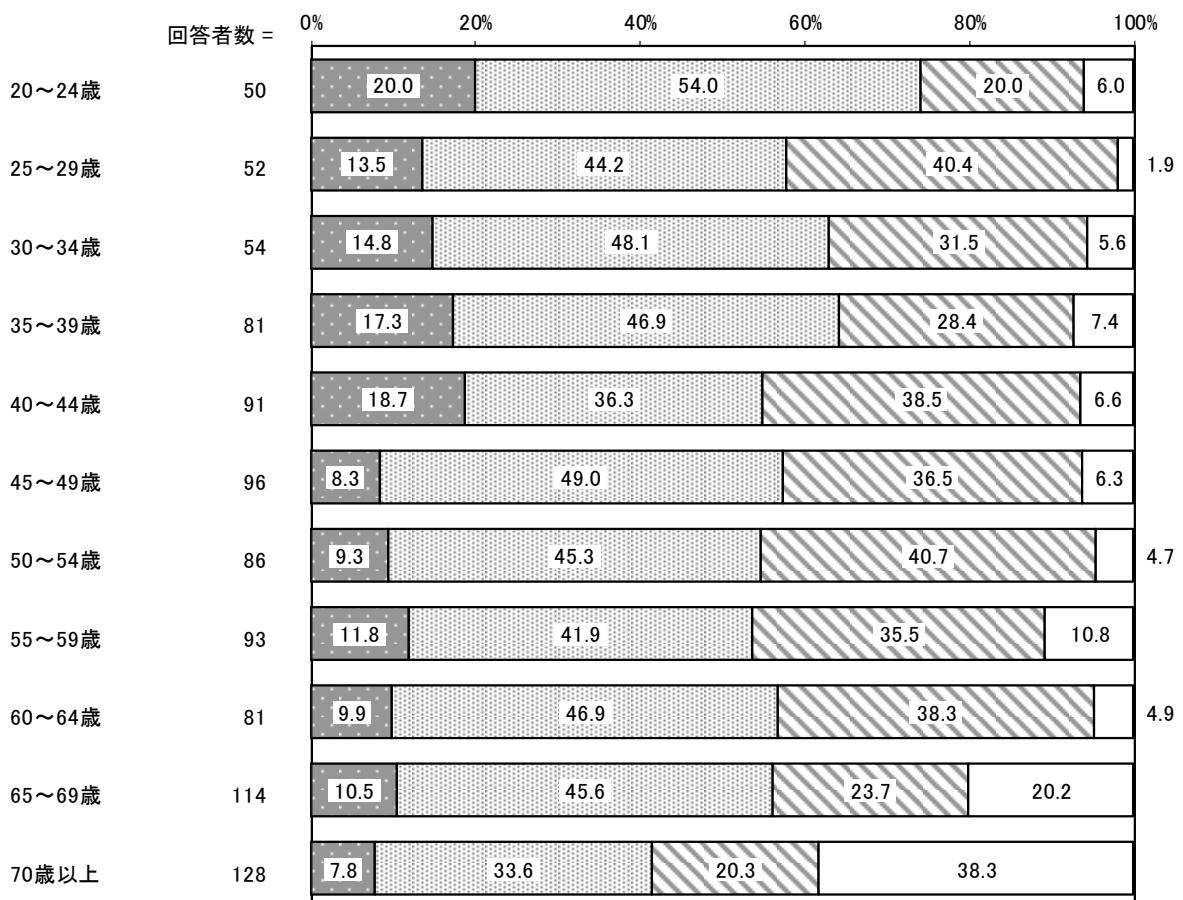
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

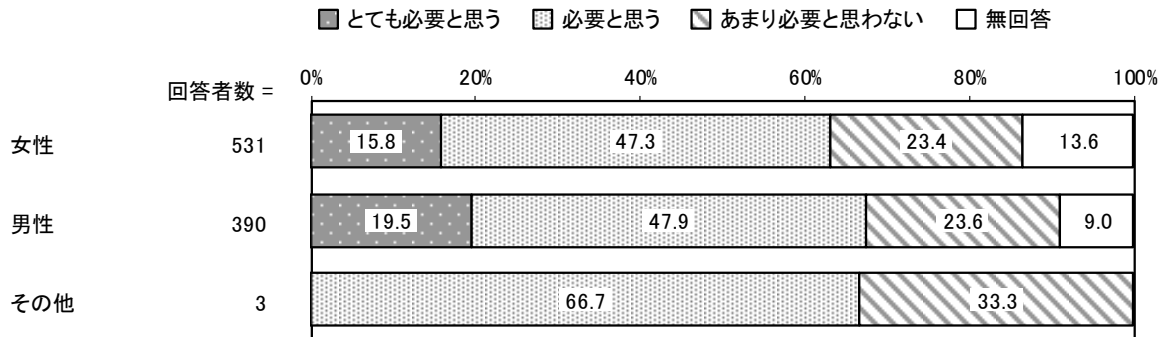
年代別でみると、他に比べ、20～24歳、35～39歳、40～44歳で「とても必要と思う」の割合が高く、約2割となっています。また、70歳以上を除き、全ての年代で「とても必要と思う」、「必要と思う」の割合は高く、5割以上となっています。



(3) 起業をめざす人の準備・事業拠点スペース（勉強会やセミナー開催の場合）

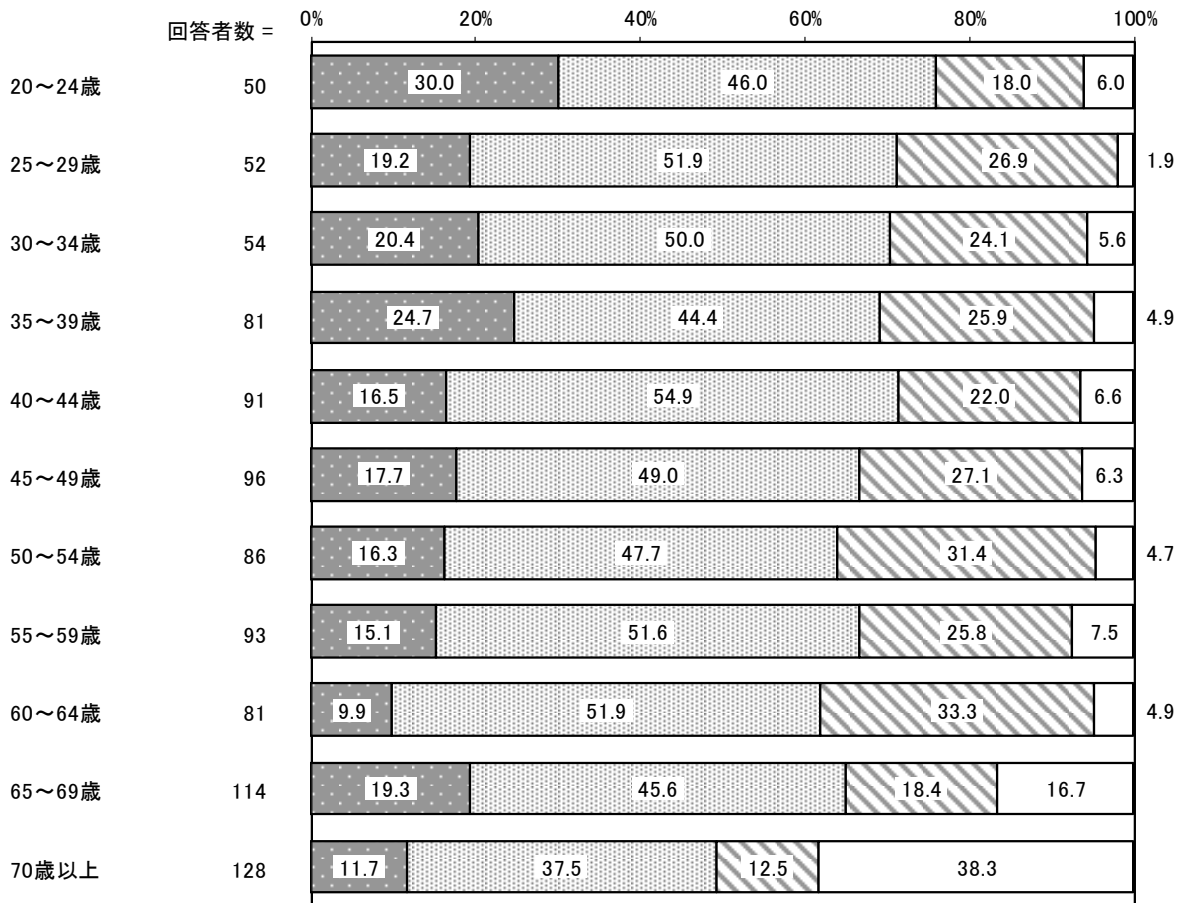
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【年代別】

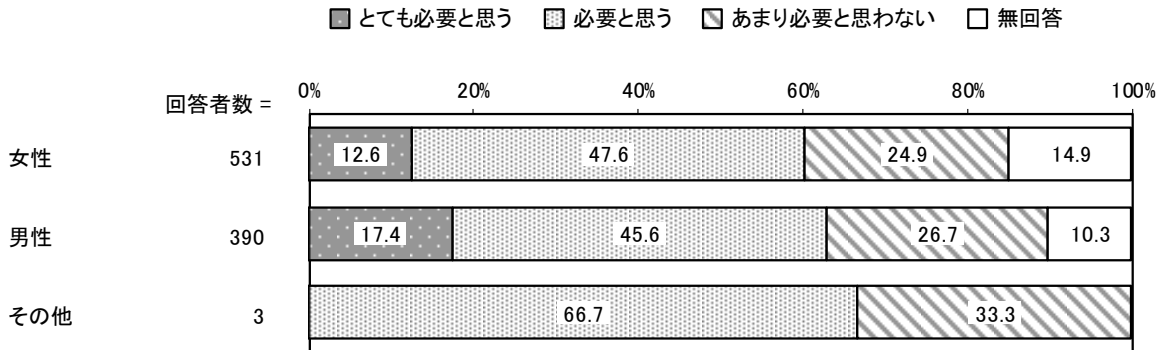
年代別で見ると、他に比べ、20～24歳で「とても必要と思う」の割合が高く、3割となっています。また、70歳以上を除き、全ての年代で「とても必要と思う」、「必要と思う」の割合は高く、5割以上となっています。



(4) 異業種交流スペース

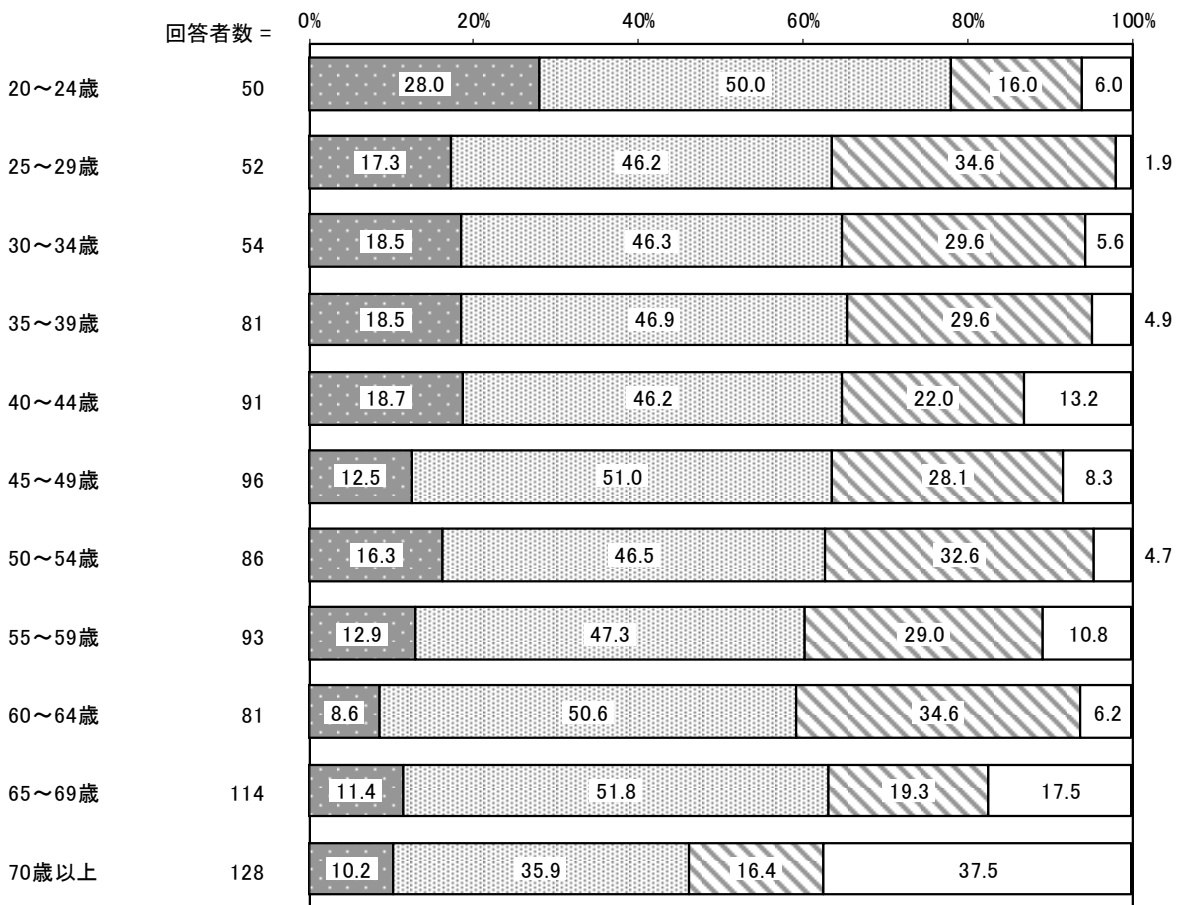
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20～24歳で「とても必要と思う」の割合が高く、約3割となっています。また、65～64歳と70歳以上を除き、全ての年代で「とても必要と思う」、「必要と思う」の割合は高く、6割以上となっています。

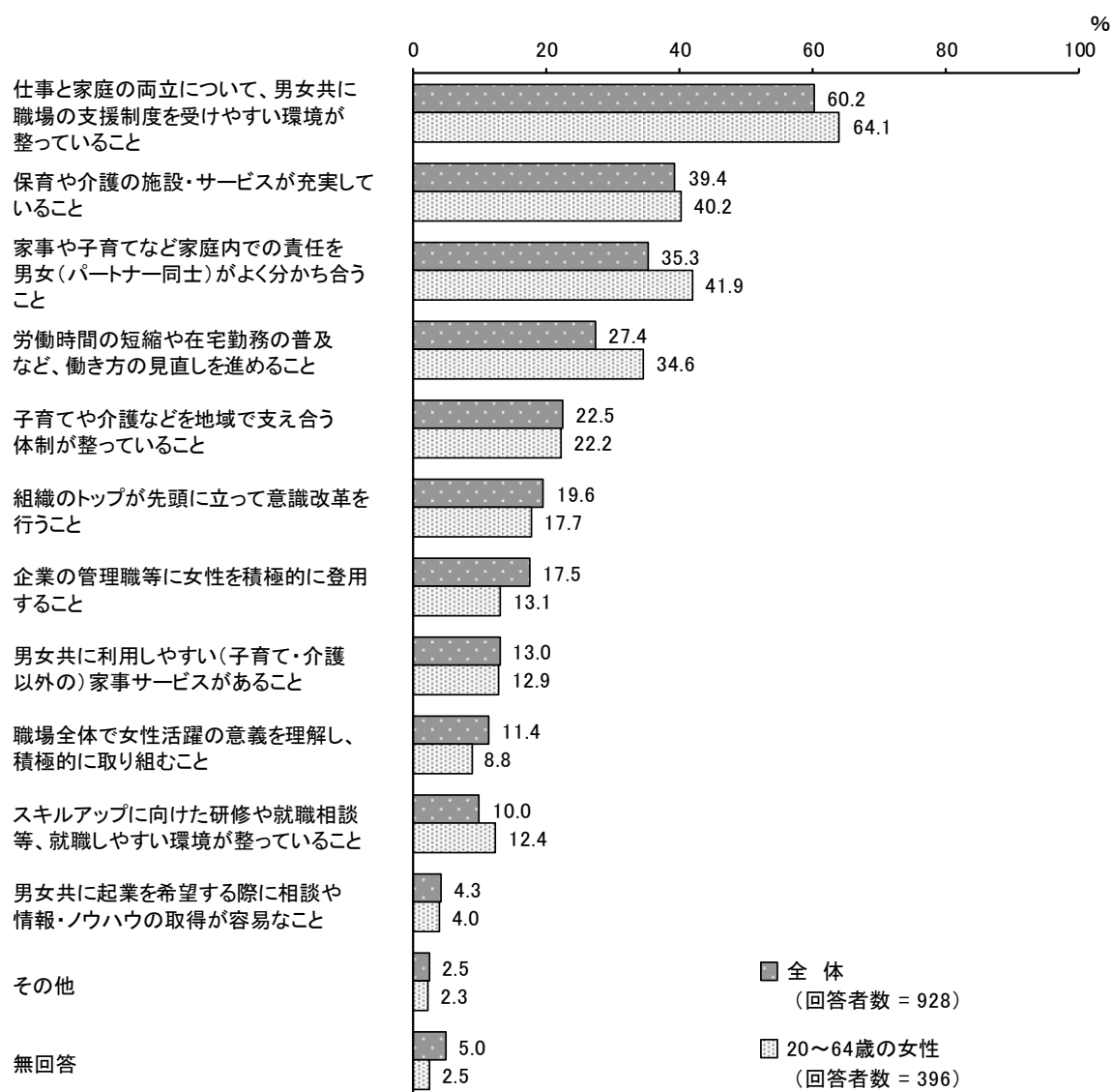


問 18-2 職業分野において女性が活躍するために必要なことは何だと思いませんか。
(特に必要だと思うもの3つまでに○)

「仕事と家庭の両立について、男女共に職場の支援制度を受けやすい環境が整っていること」の割合が60.2%と最も高く、次いで「保育や介護の施設・サービスが充実していること」の割合が39.4%、「家事や子育てなど家庭内での責任を男女(パートナー同士)がよく分かち合うこと」の割合が35.3%となっています。

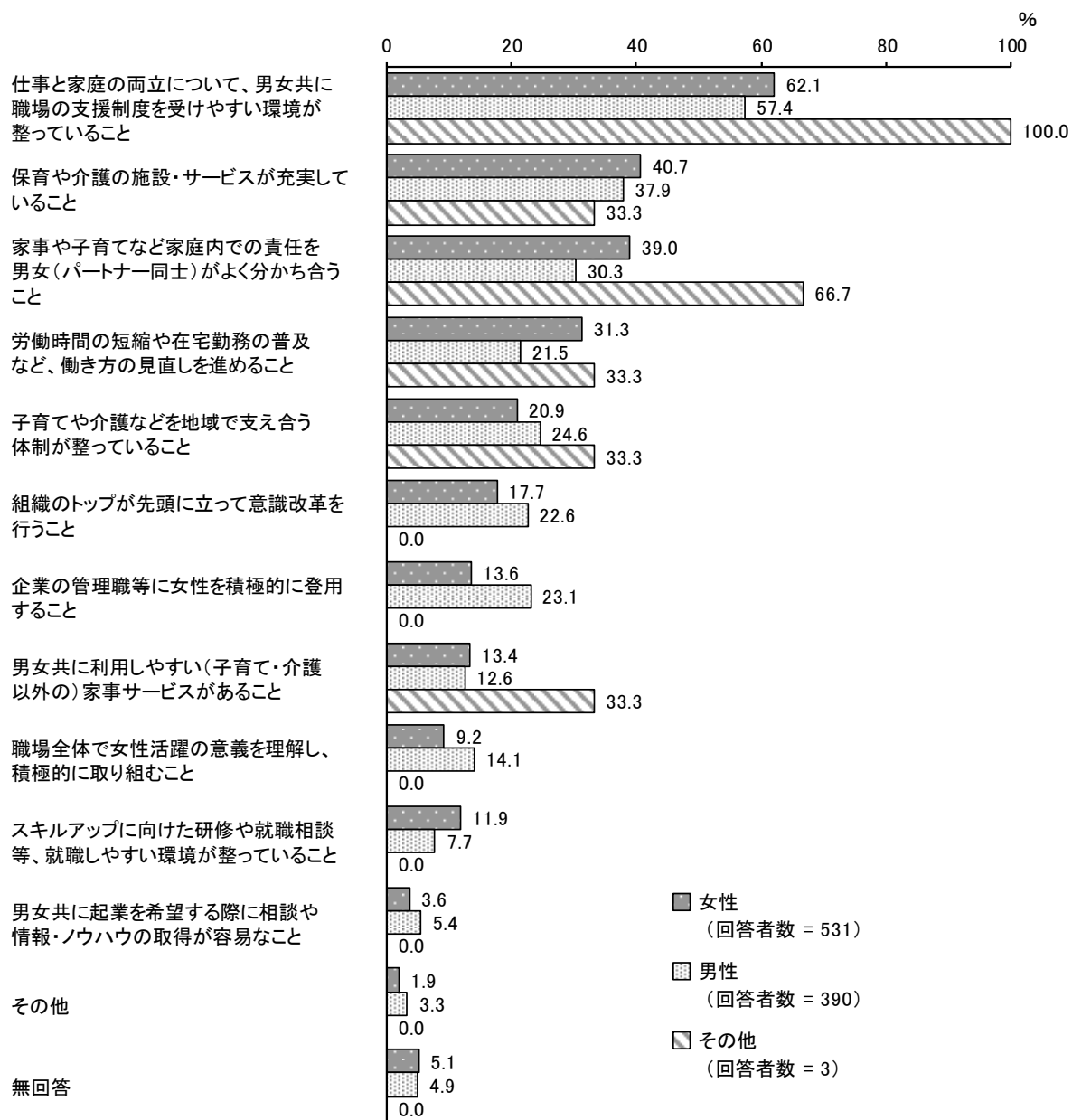
【20～64歳の女性】

20～64歳の女性でみると、全体に比べ、「家事や子育てなど家庭内での責任を男女(パートナー同士)がよく分かち合うこと」が6.6ポイント、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、働き方の見直しを進めること」が7.2ポイント高くなっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「家事や子育てなど家庭内での責任を男女（パートナー同士）がよく分かち合うこと」「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、働き方の見直しを進めること」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「企業の管理職等に女性を積極的に登用すること」の割合が高く、約2割となっています。



【性・年代別】

性・年代別でみると、他に比べ、女性の20～24歳で「仕事と家庭の両立について、男女共に職場の支援制度を受けやすい環境が整っていること」の割合が高く、8割となっています。また、男性の55～59歳で「保育や介護の施設・サービスが充実していること」の割合が、女性の30～34歳で「家事や子育てなど家庭内での責任を男女（パートナー同士）がよく分かち合うこと」の割合が高く、6割となっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	企業の管理職等に女性を積極的に登用すること	仕事と家庭の両立について、男女共に職場の支援制度を受けやすい環境が整っていること	保育や介護の施設・サービスが充実していること	子育てや介護などを地域で支え合う体制が整っていること	男女共に利用しやすい（子育て・介護以外の）家事サービスがあること	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、働き方の見直しを進めること	スキルアップに向けた研修や就職相談等、就職しやすい環境が整っていること	男女共に起業を希望する際に相談や情報・ノウハウの取得が容易なこと	組織のトップが先頭に立って意識改革を行うこと	職場全体で女性活躍の意義を理解し、積極的に取り組むこと	家事や子育てなど家庭内での責任を男女（パートナー同士）がよく分かち合うこと	その他	無回答
女性 20～24 歳	35	17.1	80.0	37.1	28.6	20.0	28.6	14.3	5.7	11.4	8.6	40.0	—	—
25～29 歳	24	16.7	66.7	29.2	29.2	8.3	25.0	8.3	—	25.0	20.8	41.7	4.2	—
30～34 歳	35	17.1	62.9	37.1	20.0	8.6	60.0	5.7	—	11.4	2.9	60.0	2.9	2.9
35～39 歳	53	5.7	56.6	39.6	30.2	18.9	41.5	15.1	7.5	15.1	7.5	45.3	1.9	—
40～44 歳	57	15.8	63.2	43.9	21.1	14.0	29.8	12.3	1.8	19.3	5.3	52.6	1.8	1.8
45～49 歳	54	14.8	63.0	42.6	13.0	14.8	48.1	14.8	3.7	16.7	1.9	44.4	1.9	1.9
50～54 歳	46	15.2	65.2	41.3	15.2	13.0	30.4	15.2	4.3	17.4	13.0	30.4	2.2	4.3
55～59 歳	55	14.5	61.8	32.7	20.0	9.1	25.5	10.9	7.3	21.8	7.3	29.1	3.6	7.3
60～64 歳	37	2.7	64.9	54.1	29.7	5.4	18.9	10.8	2.7	21.6	21.6	35.1	2.7	2.7
65～69 歳	67	13.4	58.2	41.8	16.4	13.4	26.9	9.0	1.5	22.4	13.4	31.3	1.5	9.0
70 歳以上	67	16.4	53.7	43.3	17.9	16.4	16.4	11.9	3.0	11.9	7.5	28.4	—	16.4
男性 20～24 歳	13	15.4	61.5	38.5	7.7	30.8	15.4	15.4	7.7	7.7	23.1	30.8	—	7.7
25～29 歳	27	18.5	63.0	22.2	11.1	25.9	25.9	18.5	14.8	18.5	14.8	44.4	7.4	—
30～34 歳	19	5.3	73.7	42.1	31.6	15.8	10.5	5.3	5.3	21.1	5.3	47.4	—	5.3
35～39 歳	27	25.9	59.3	33.3	18.5	14.8	37.0	—	—	33.3	11.1	40.7	—	—
40～44 歳	34	17.6	61.8	38.2	26.5	20.6	14.7	11.8	5.9	20.6	11.8	50.0	—	—
45～49 歳	42	33.3	42.9	26.2	33.3	14.3	28.6	7.1	4.8	31.0	7.1	33.3	4.8	—
50～54 歳	40	15.0	65.0	27.5	20.0	7.5	35.0	7.5	7.5	27.5	25.0	20.0	2.5	—
55～59 歳	37	29.7	48.6	59.5	40.5	2.7	10.8	8.1	—	27.0	13.5	24.3	2.7	—
60～64 歳	43	30.2	67.4	55.8	23.3	4.7	18.6	4.7	4.7	20.9	14.0	27.9	4.7	2.3
65～69 歳	47	25.5	66.0	40.4	14.9	12.8	17.0	4.3	2.1	17.0	14.9	23.4	4.3	10.6
70 歳以上	60	20.0	43.3	33.3	30.0	10.0	18.3	8.3	8.3	18.3	15.0	16.7	5.0	18.3

4 男女の地域や家庭における役割等について

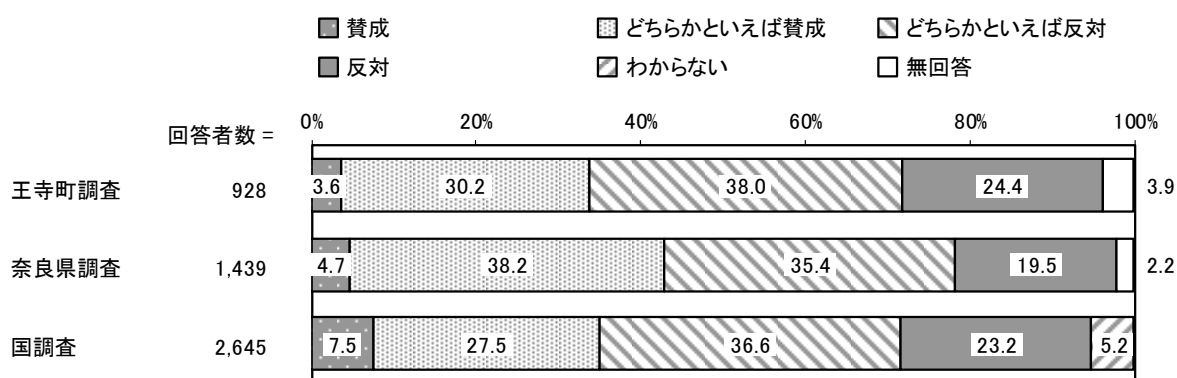
問 19-1 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（〇は1つ）

「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合が 33.8%、「どちらかといえば反対」と「反対」をあわせた“反対”の割合が 62.4%となっています。

【奈良県調査、国調査との比較】

奈良県調査と比較すると、“賛成”の割合が 9.1 ポイント低く、“反対”の割合が 7.5 ポイント高くなっています。

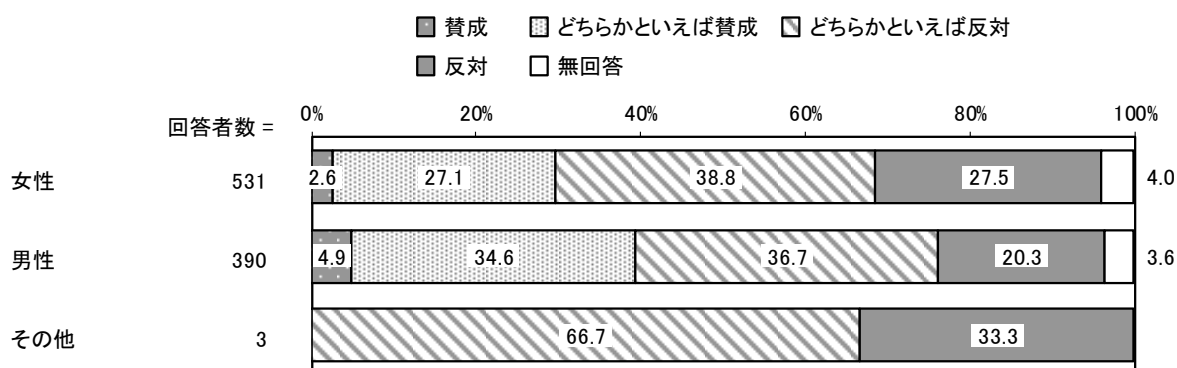
国調査と比較すると、大きな差異はみられません。



※「わからない」は国調査のみの選択肢です。

【性別】

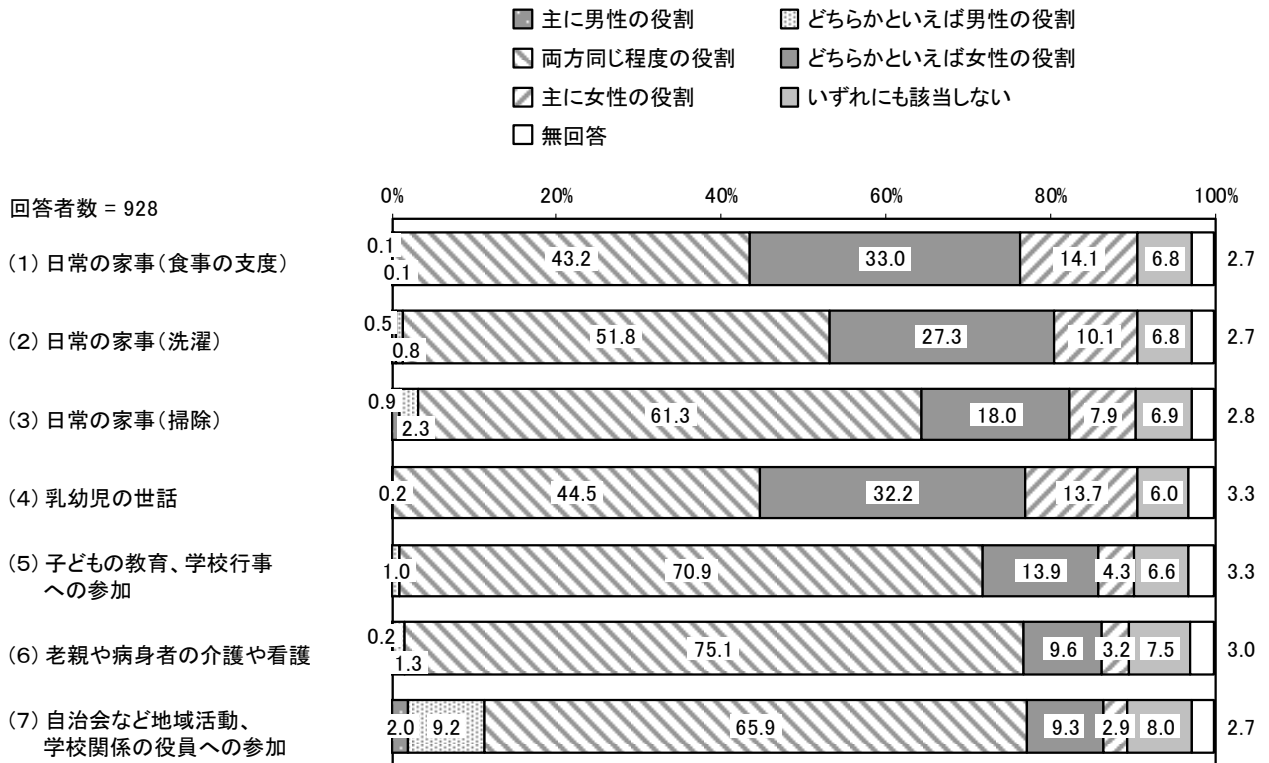
性別でみると、男性に比べ、女性で“反対”の割合が高く、6割半ばとなっています。一方、女性に比べ、男性で“賛成”の割合が高く、約4割となっています。



問 19-2 次の(1)～(7)の事柄について、どのように思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

『(5)子どもの教育、学校行事への参加』、『(6)老親や病身者の介護や看護』で「両方同じ程度の役割」の割合が高く、7割を超えています。

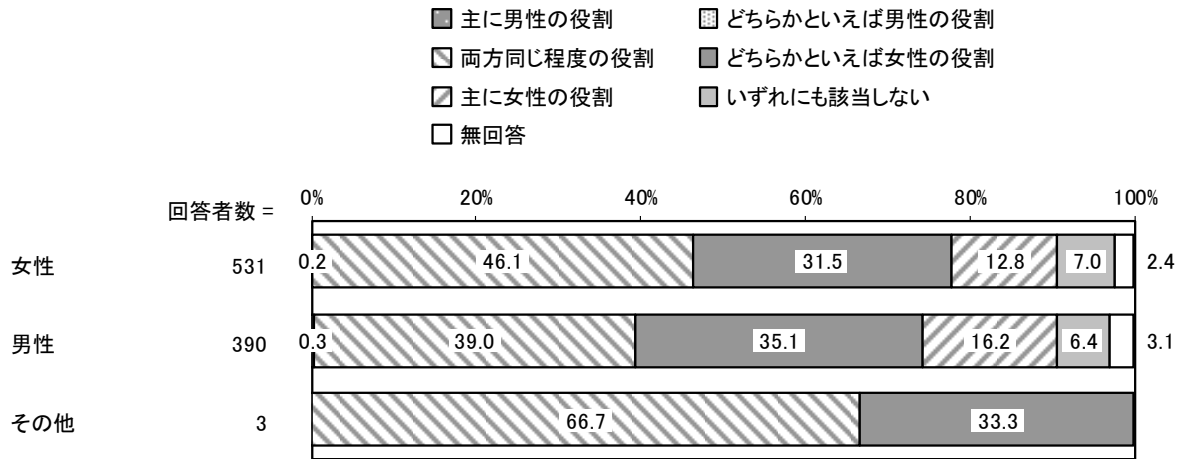
また、『(1)日常の家事(食事の支度)』、『(4)乳幼児の世話』で「どちらかといえば女性の役割」と「主に女性の役割」をあわせた“女性の役割”の割合が高く、4割を超えています。



(1) 日常の家事（食事の支度）

【性別】

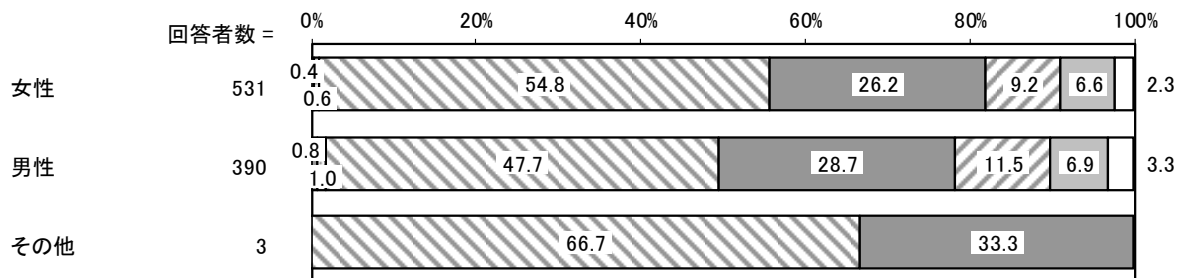
性別でみると、男性に比べ、女性で「両方同じ程度の役割」の割合が高く、4割半ばとなっています。また、女性に比べ、男性で“女性の役割”の割合が高く、約5割となっています。



(2) 日常の家事（洗濯）

【性別】

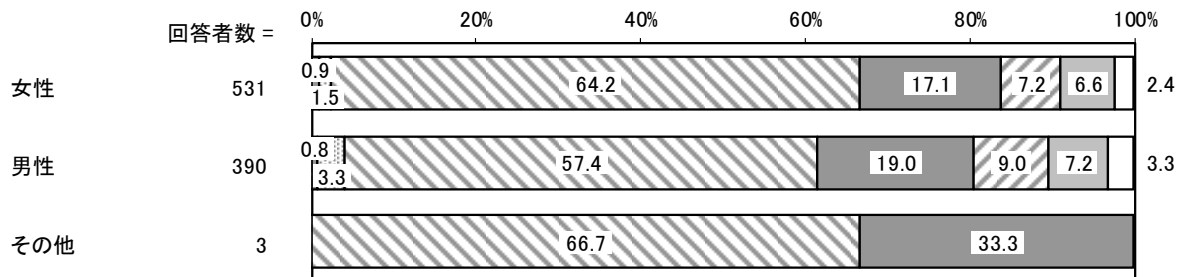
性別でみると、男性に比べ、女性で「両方同じ程度の役割」の割合が高く、5割半ばとなっています。



(3) 日常の家事（掃除）

【性別】

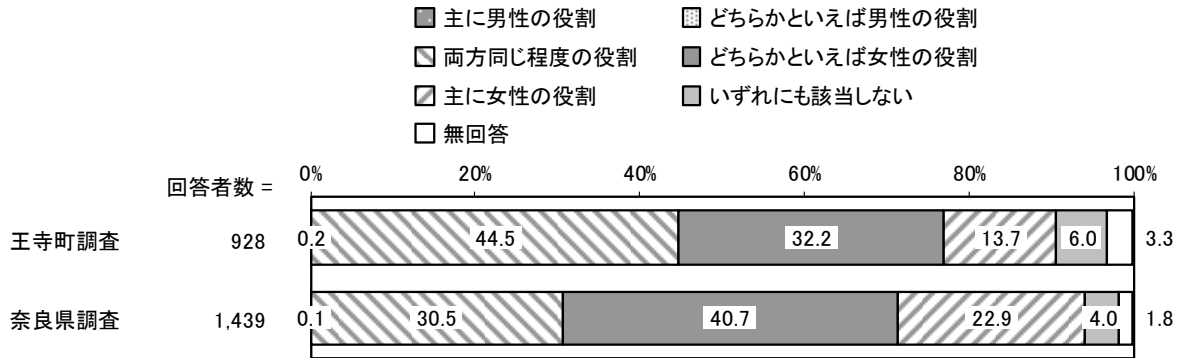
性別でみると、男性に比べ、女性で「両方同じ程度の役割」の割合が高く、6割半ばとなっています。



(4) 乳幼児の世話

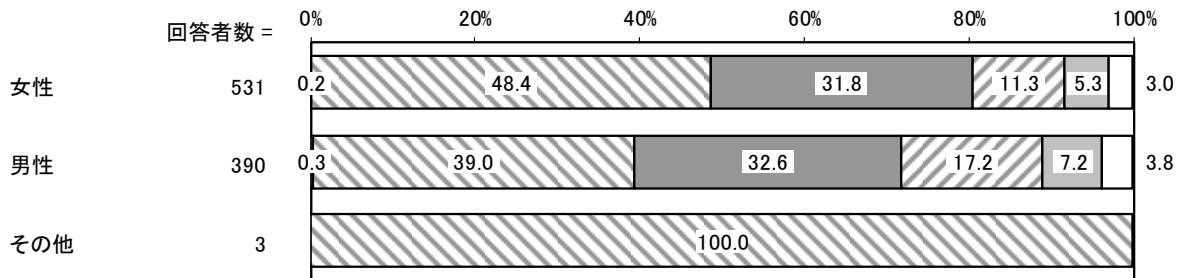
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、「両方同じ程度の役割」が14.0ポイント高く、“女性の役割”が17.7ポイント低くなっています。



【性別】

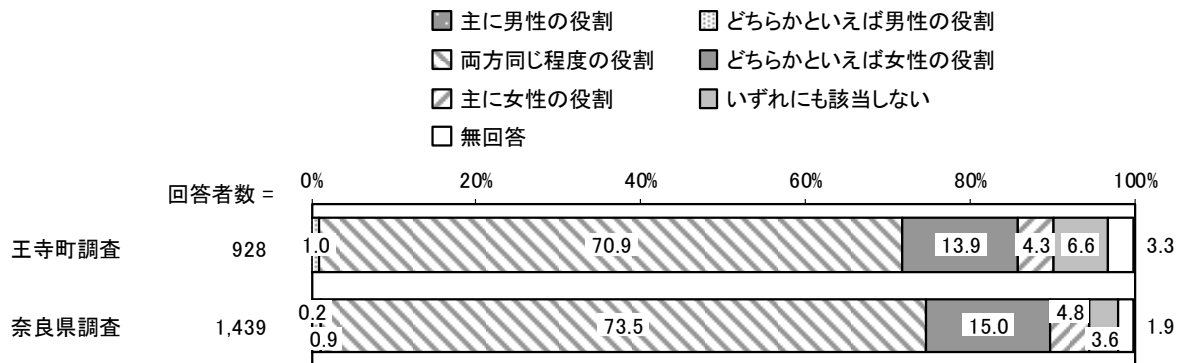
性別で見ると、男性に比べ、女性で「両方同じ程度の役割」の割合が高く、約5割となっています。また、女性に比べ、男性で“女性の役割”の割合が高く、約5割となっています。



(5) 子どもの教育、学校行事への参加

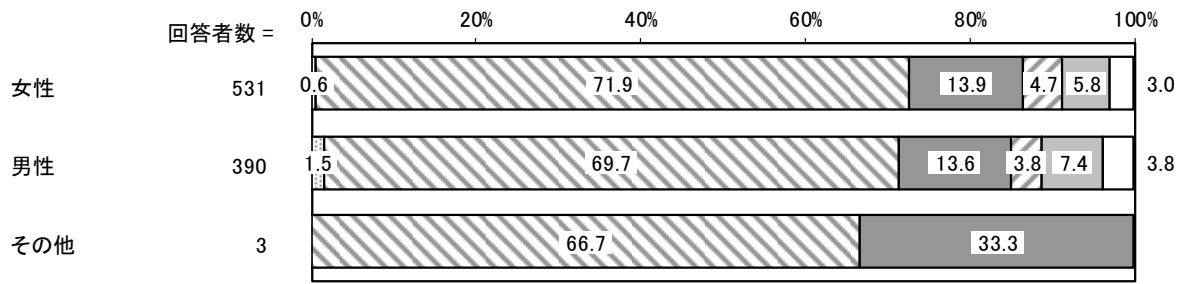
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

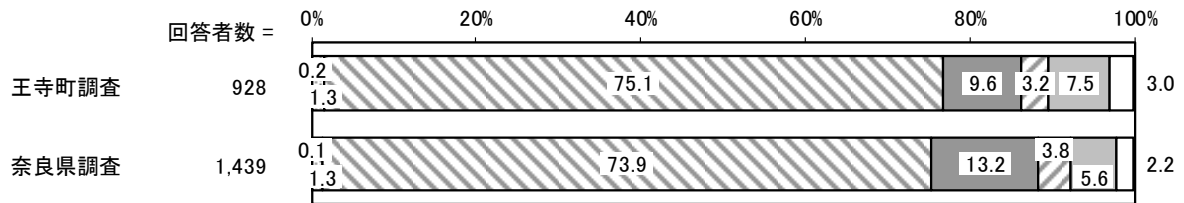
性別でみると、大きな差異はみられません。



(6) 老親や病身者の介護や看護

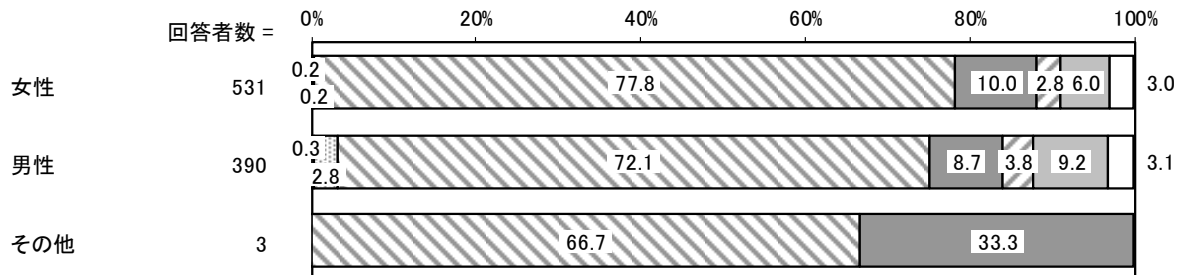
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

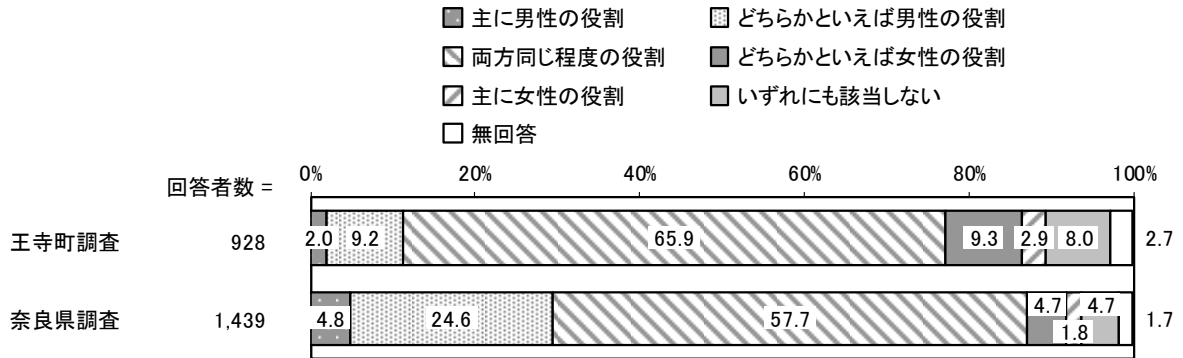
性別でみると、男性に比べ、女性で「両方同じ程度の役割」の割合が高く、約8割となっています。



(7) 自治会など地域活動、学校関係の役員への参加

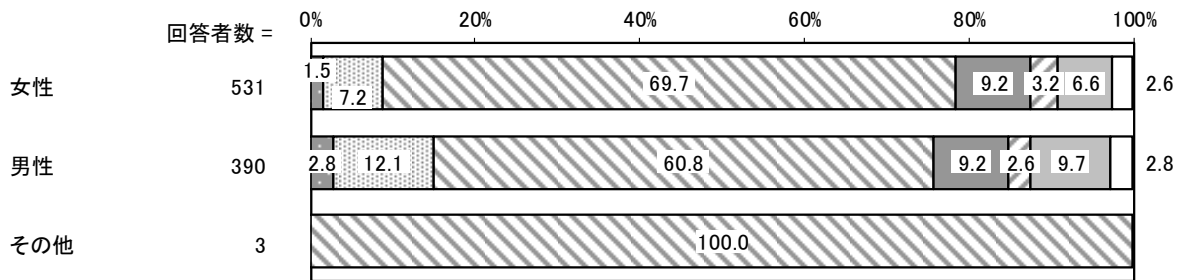
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、“男性の役割”が18.2ポイント低く、「両方同じ程度の役割」が8.2ポイント、“女性の役割”が5.7ポイント高くなっています。



【性別】

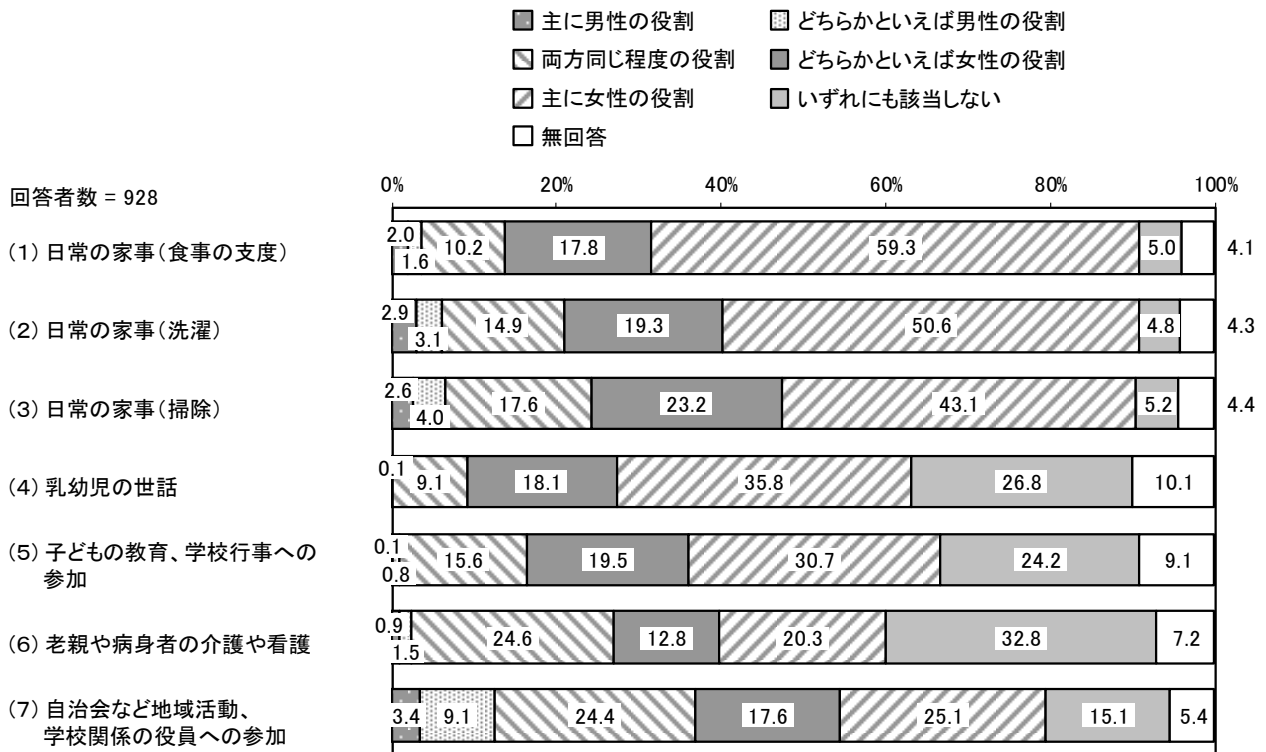
性別でみると、男性に比べ、女性で「両方同じ程度の役割」の割合が高く、約7割となっています。また、女性に比べ、男性で“男性の役割”の割合が高く、1割半ばとなっています。



問 19-3 次の(1)～(7)のことがらについて、あなたのご家庭における現状に最も近いものはどれですか。(〇はそれぞれ1つずつ)

『(1) 日常の家事(食事の支度)』で「どちらかといえば女性の役割」と「主に女性の役割」をあわせた“女性の役割”の割合が高く、約8割となっています。また、『(2) 日常の家事(洗濯)』でも“女性の役割”の割合が高く、約7割となっています。

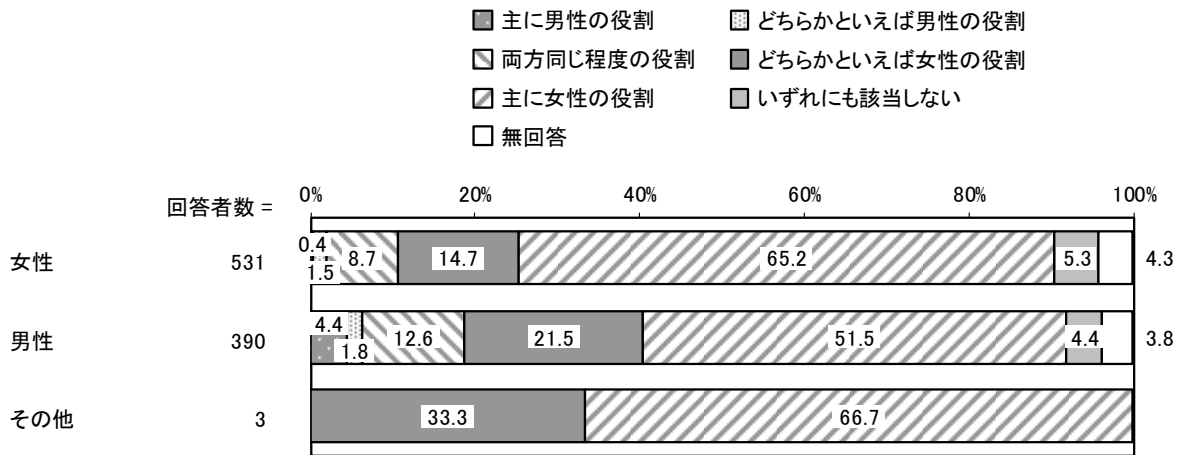
また、『(6) 老親や病身者の介護や看護』、『(7) 自治会など地域活動、学校関係の役員への参加』で「両方同じ程度の役割」の割合が高く、2割半ばとなっています。



(1) 日常の家事（食事の支度）

【性別】

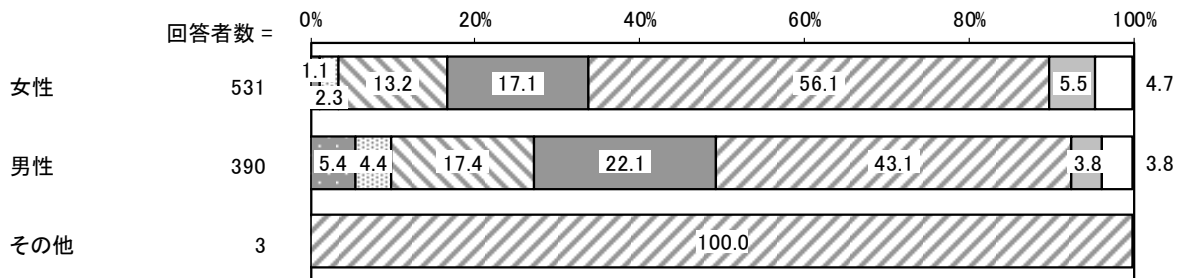
性別でみると、男性に比べ、女性で“女性の役割”の割合が高く、約8割となっています。



(2) 日常の家事（洗濯）

【性別】

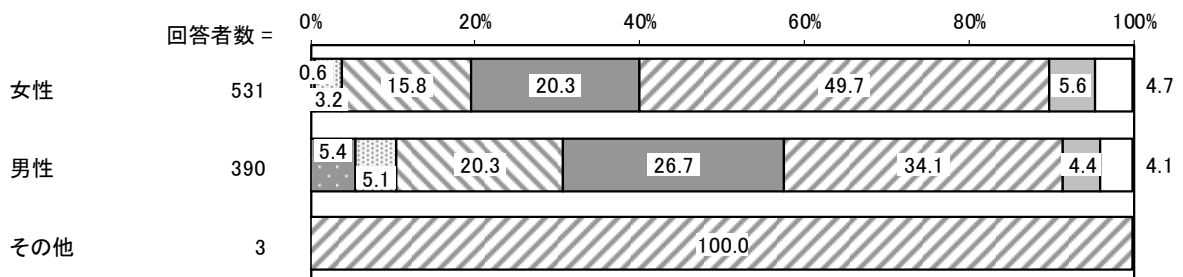
性別でみると、男性に比べ、女性で“女性の役割”の割合が高く、約7割となっています。また、女性に比べ、男性で“男性の役割”の割合が高く、約1割となっています。



(3) 日常の家事（掃除）

【性別】

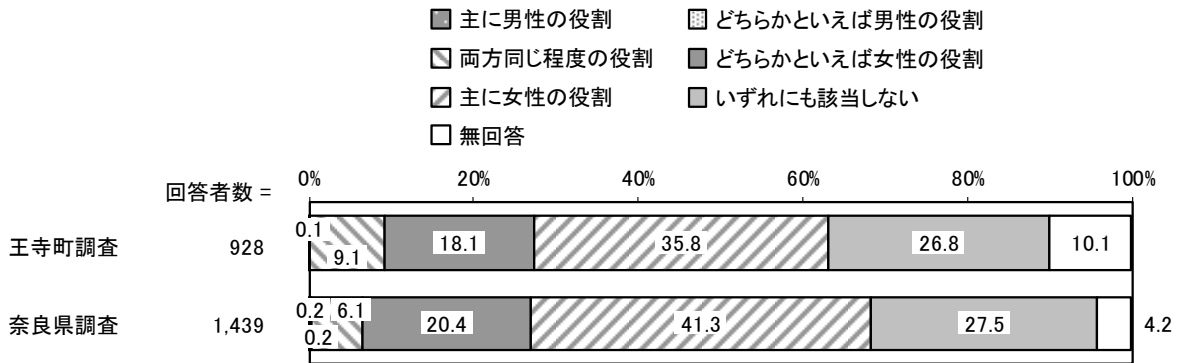
性別でみると、男性に比べ、女性で“女性の役割”の割合が高く、7割となっています。また、女性に比べ、男性で“男性の役割”の割合が高く、約1割となっています。



(4) 乳幼児の世話

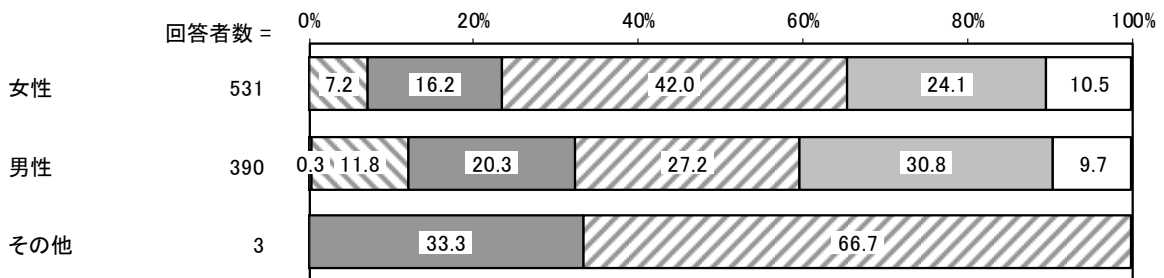
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、“女性の役割”が7.8ポイント低くなっています。



【性別】

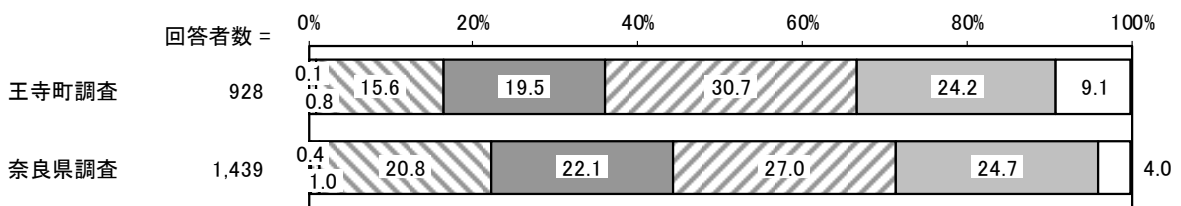
性別でみると、男性に比べ、女性で“女性の役割”の割合が高く、約6割となっています。



(5) 子どもの教育、学校行事への参加

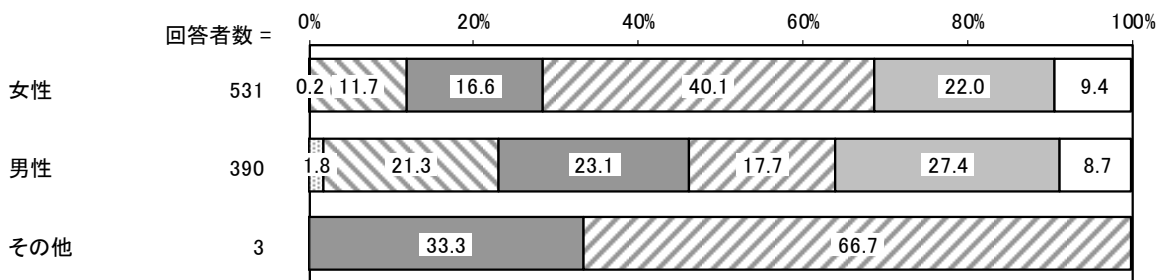
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、「両方同じ程度の役割」が5.2ポイント低くなっています。



【性別】

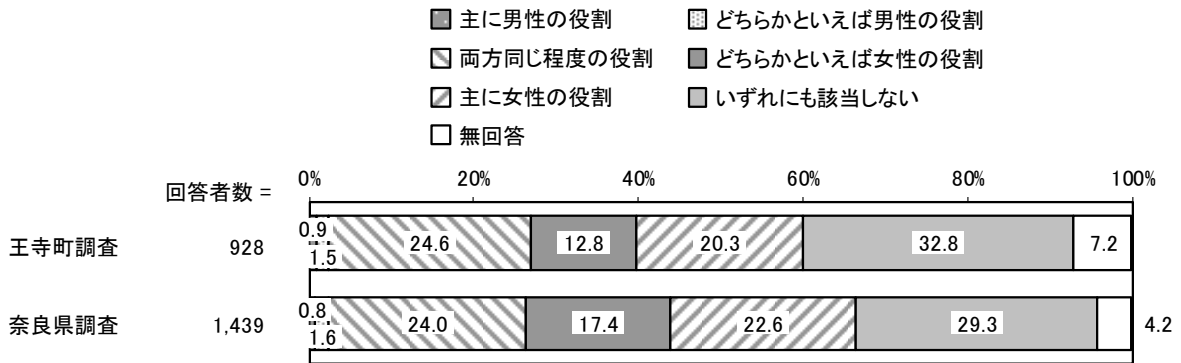
性別でみると、男性に比べ、女性で“女性の役割”の割合が高く、5割半ばとなっています。また、女性に比べ、男性で「両方同じ程度の役割」の割合が高く、約2割となっています。



(6) 老親や病身者の介護や看護

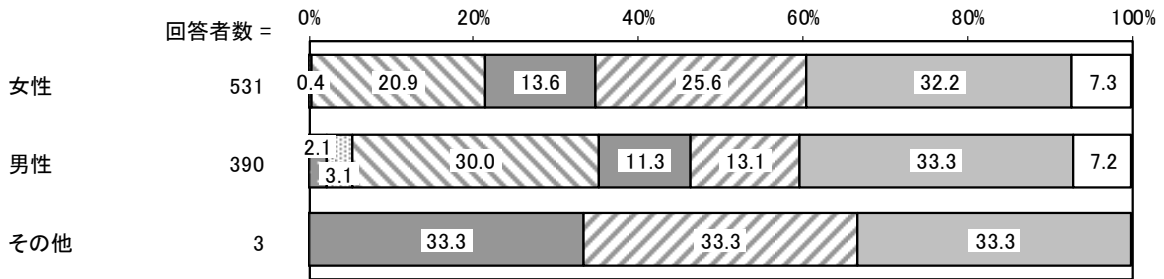
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、“女性の役割”が6.9ポイント低くなっています。



【性別】

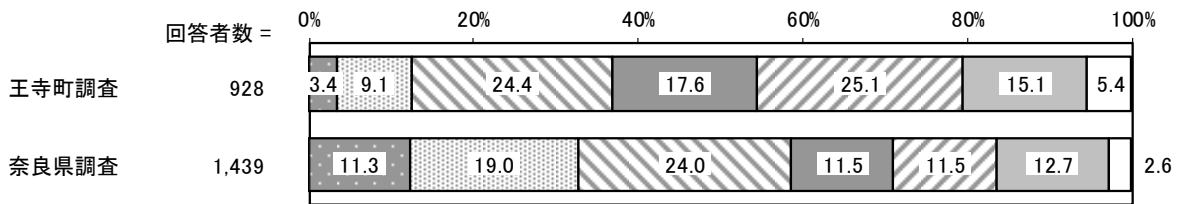
性別で見ると、男性に比べ、女性で“女性の役割”の割合が高く、約4割となっています。また、女性に比べ、男性で「両方同じ程度の役割」の割合が高く、3割となっています。



(7) 自治会など地域活動、学校関係の役員への参加

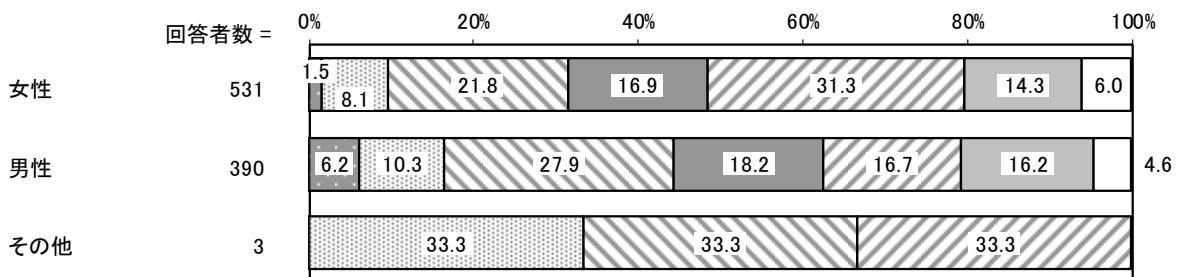
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、“男性の役割”が17.8ポイント低く、“女性の役割”が19.7ポイント高くなっています。



【性別】

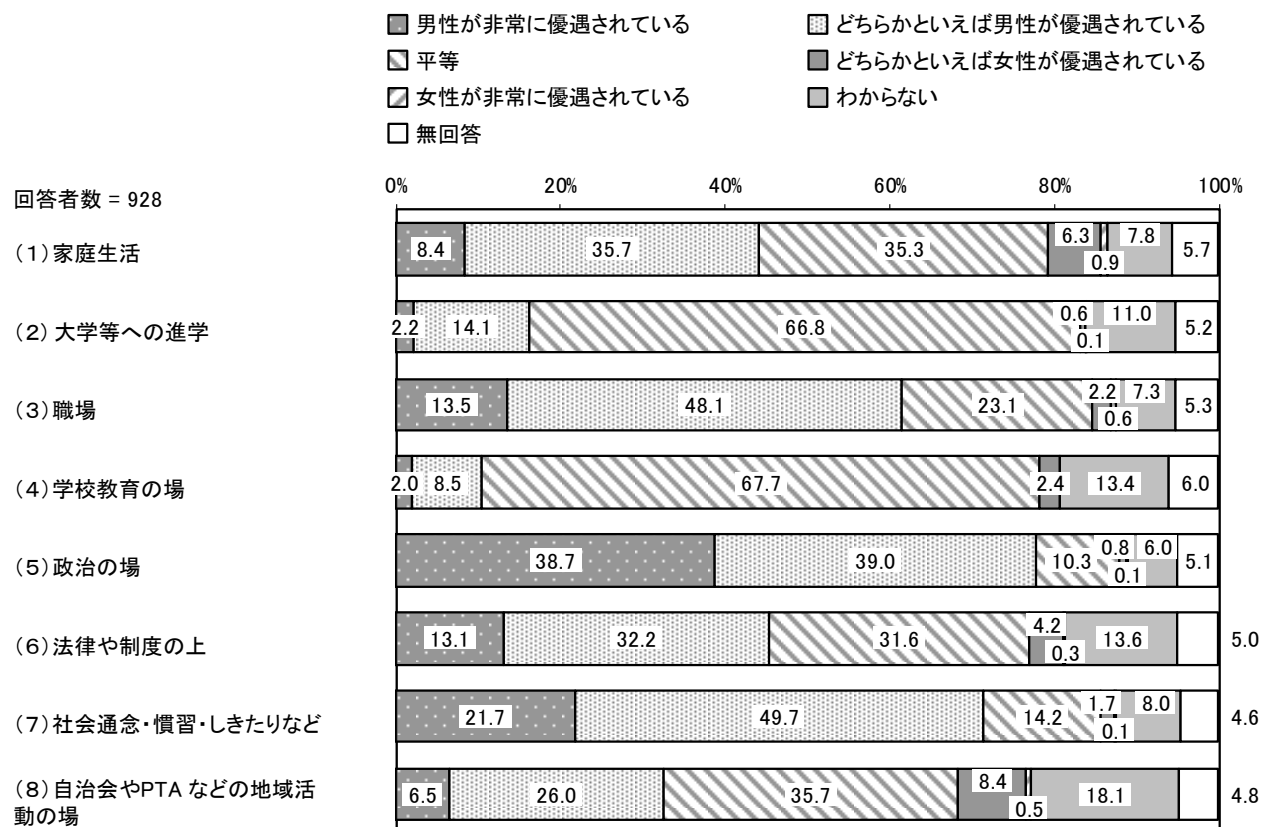
性別で見ると、男性に比べ、女性で“女性の役割”の割合が高く、約5割となっています。また、女性に比べ、男性で“男性の役割”「両方同じ程度の役割」の割合が高くなっています。



問 19-4 あなたは、(1)～(8)の次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

『(5) 政治の場』、『(7) 社会通念・慣習・しきたりなど』で「男性が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた“男性が優遇されている”の割合が高く、7割を超えています。

一方、『(2) 大学等への進学』、『(4) 学校教育の場』で「平等」の割合が高く、6割半ばとなっています。

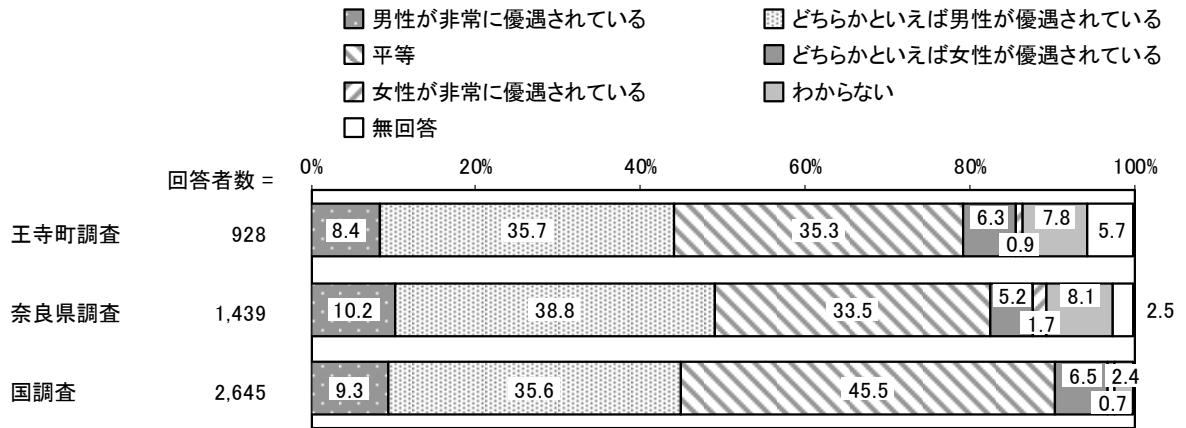


(1) 家庭生活

【奈良県調査、国調査との比較】

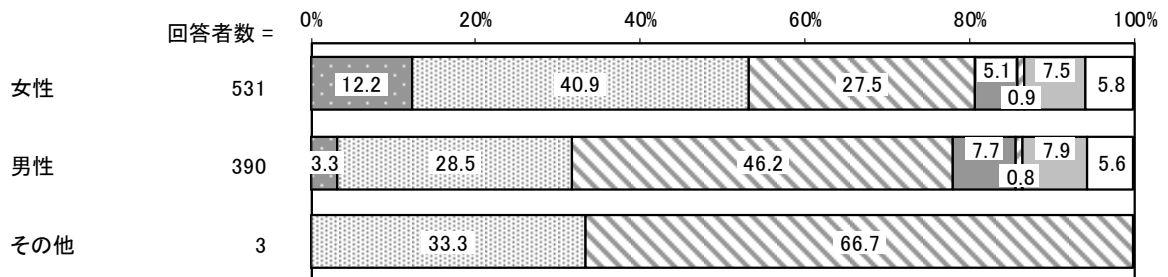
奈良県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

国調査と比較すると、「平等」が10.2ポイント低くなっています。



【性別】

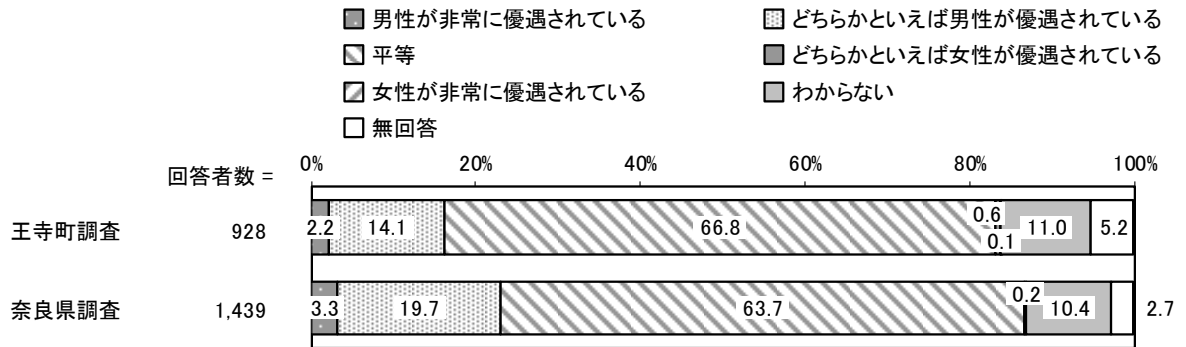
性別でみると、男性に比べ、女性で“男性が優遇されている”の割合が高く、約5割となっています。また、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高く、4割半ばとなっています。



(2) 大学等への進学

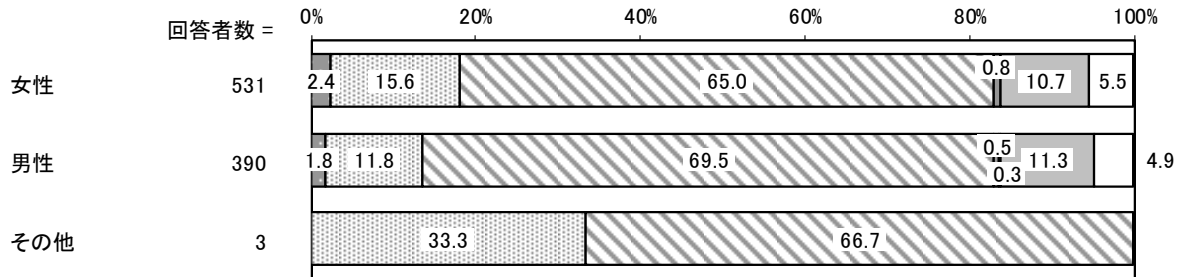
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、“男性が優遇されている”が6.7ポイント低くなっています。



【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

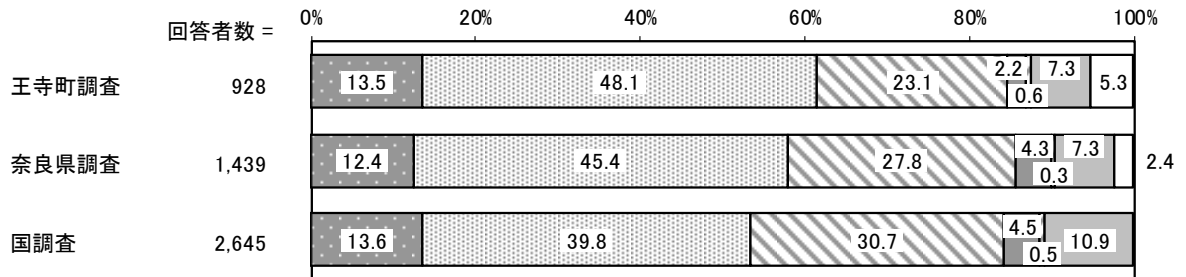


(3) 職場

【奈良県調査、国調査との比較】

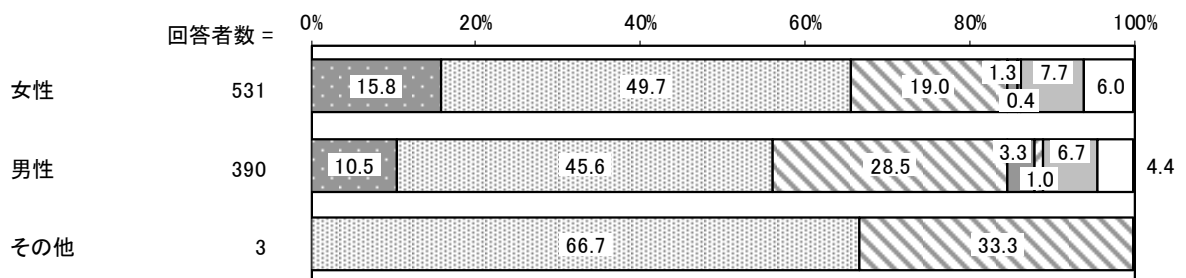
奈良県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

国調査と比較すると、“男性が優遇されている”が8.2ポイント高く、「平等」が7.6ポイント低くなっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“男性が優遇されている”の割合が高く、6割半ばとなっています。また、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高く、約3割となっています。

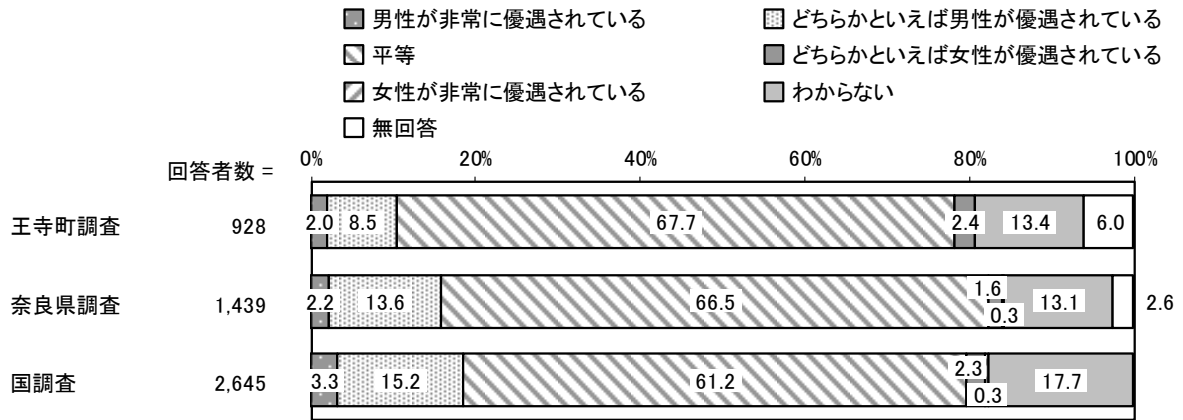


(4) 学校教育の場

【奈良県調査、国調査との比較】

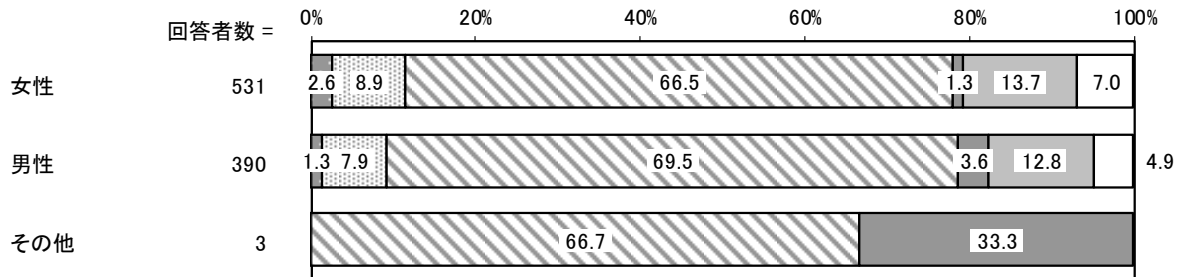
奈良県調査と比較すると、“男性が優遇されている”が5.3ポイント低くなっています。

国調査と比較すると、“男性が優遇されている”が8.0ポイント低く、「平等」が6.5ポイント高くなっています。



【性別】

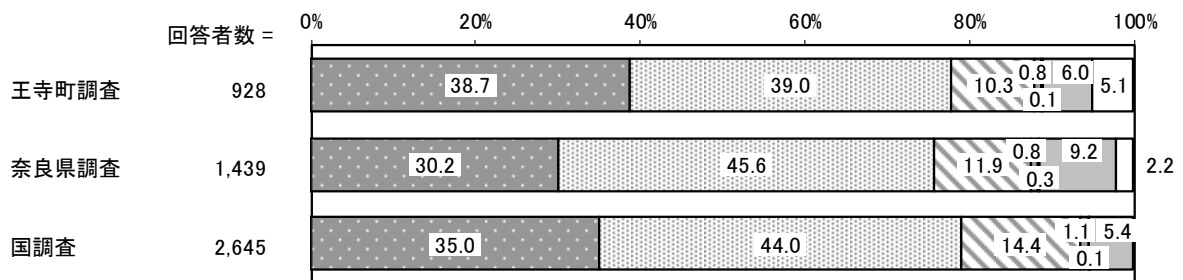
性別でみると、大きな差異はみられません。



(5) 政治の場

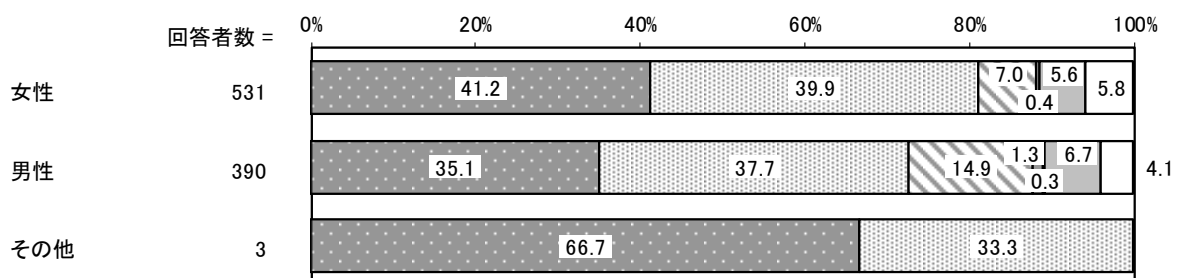
【奈良県調査、国調査との比較】

奈良県調査との比較、国調査との比較ともに大きな差異はみられません。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“男性が優遇されている”の割合が高く、約8割となっています。また、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高く、1割半ばとなっています。

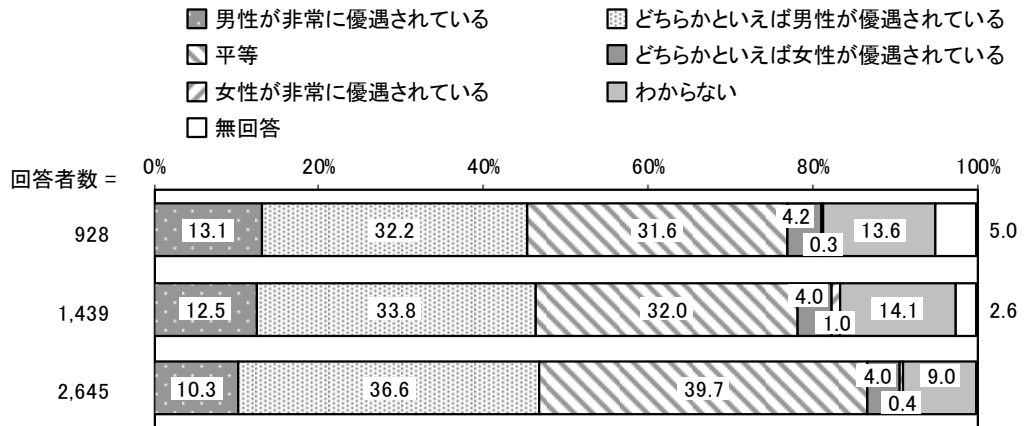


(6) 法律や制度の上

【奈良県調査、国調査との比較】

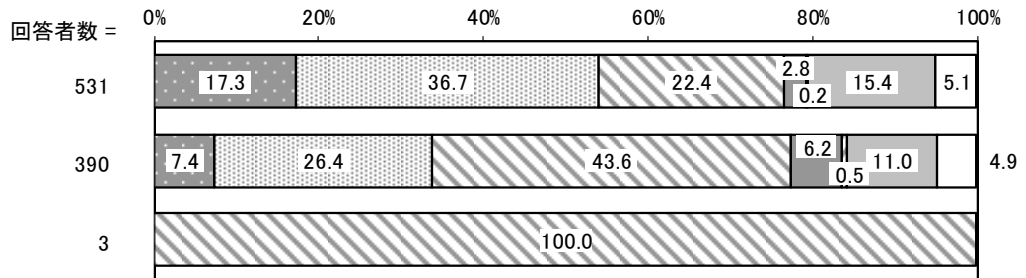
奈良県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

国調査と比較すると、「平等」が8.1ポイント低くなっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“男性が優遇されている”の割合が高く、5割半ばとなっています。また、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高く、約4割となっています。

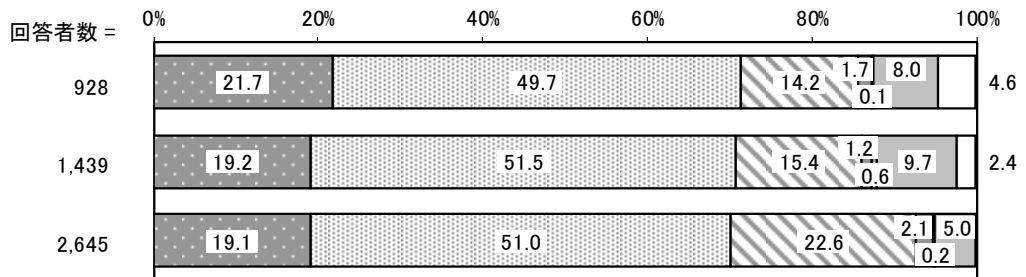


(7) 社会通念・慣習・しきたりなど

【奈良県調査、国調査との比較】

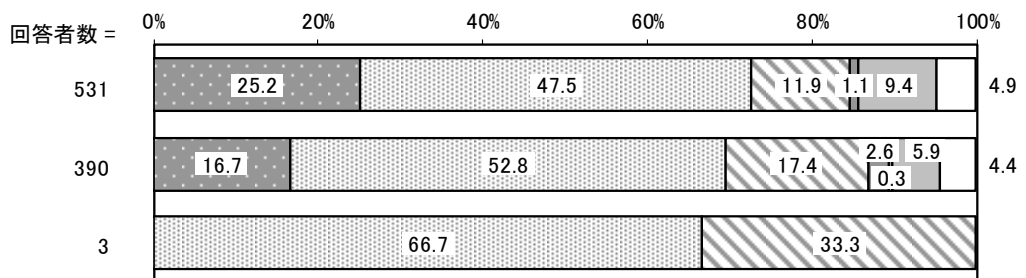
奈良県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

国調査と比較すると、「平等」が8.4ポイント低くなっています。



【性別】

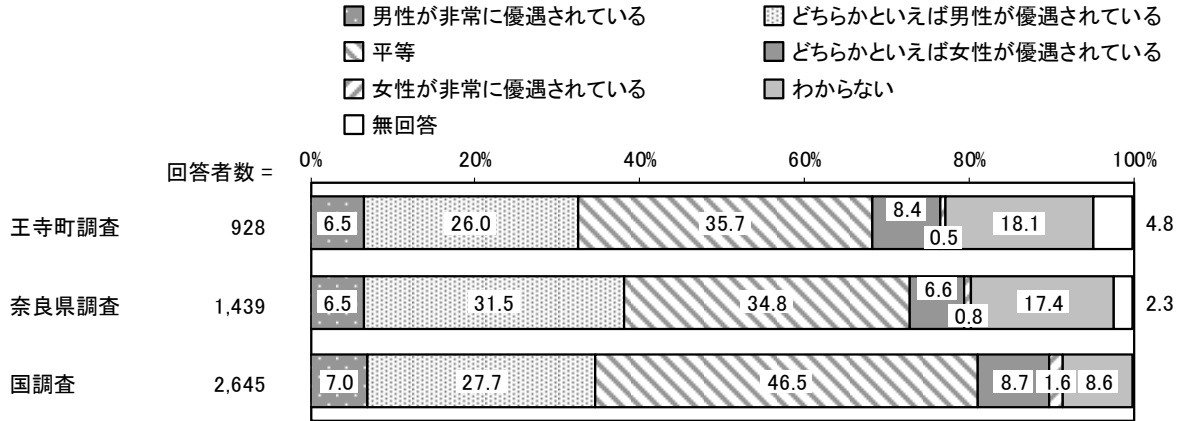
性別でみると、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高く、約2割となっています。



(8) 自治会やPTAなどの地域活動の場

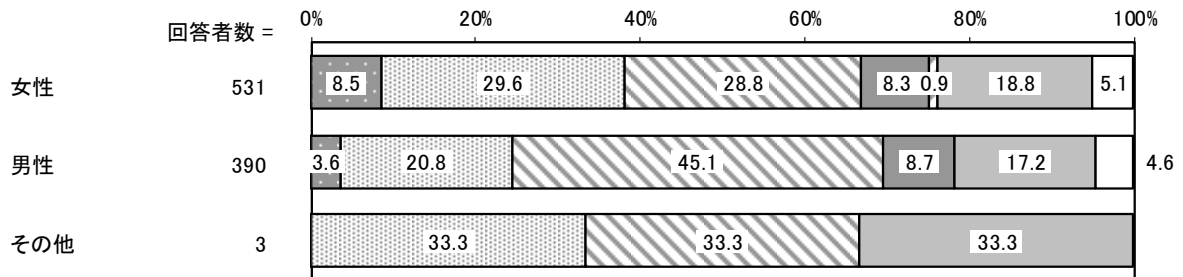
【奈良県調査、国調査との比較】

奈良県調査と比較すると、“男性が優遇されている”が5.5ポイント低くなっています。
 国調査と比較すると、「平等」が10.8ポイント低くなっています。



【性別】

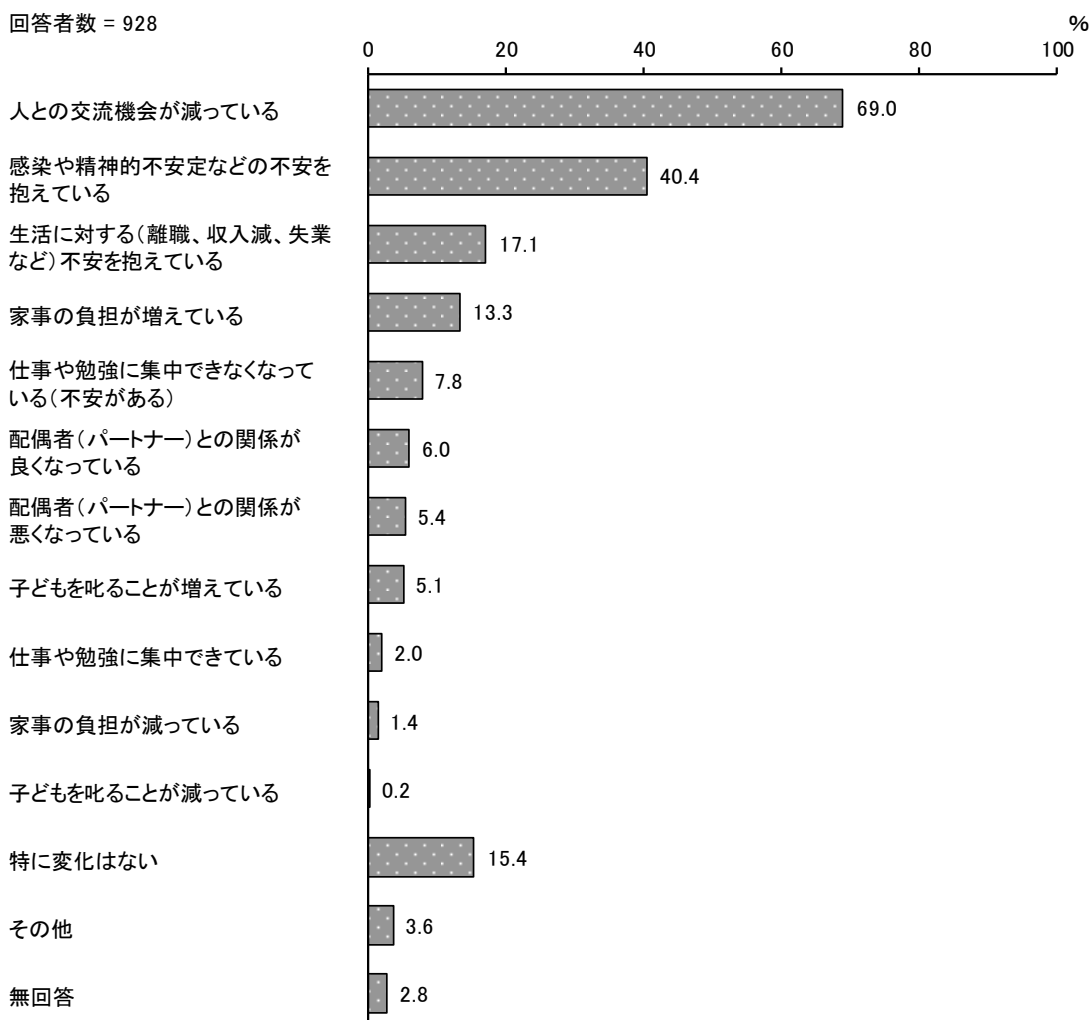
性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性が優遇されている”の割合が高く、約4割となっています。また、女性に比べ、男性で「平等」の割合が高く、4割半ばとなっています。



問 20 現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、コロナ禍前に比べ、あなたの生活や行動、役割分担、心身に変化はありますか。(〇はいくつでも)

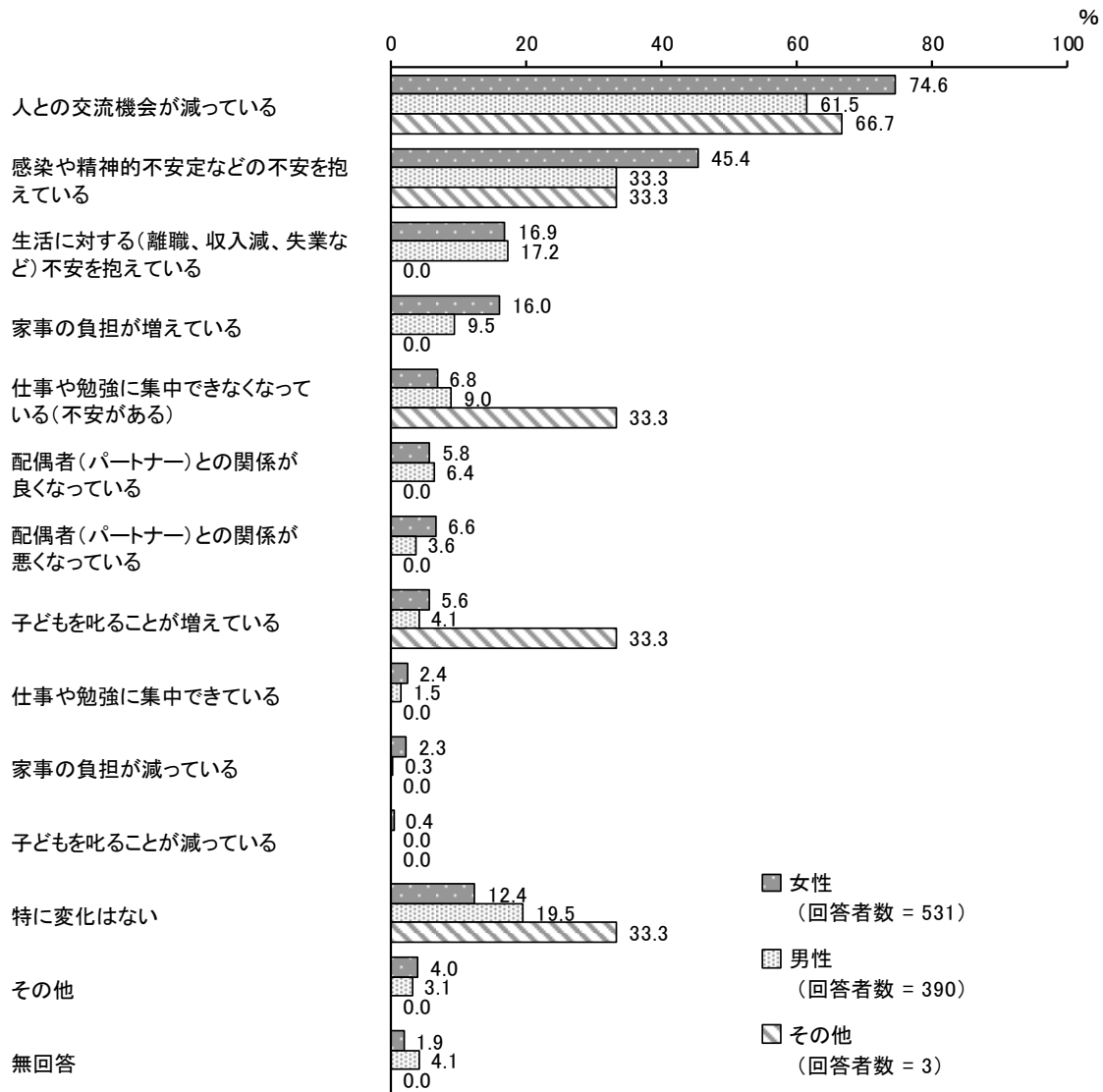
「人との交流機会が減っている」の割合が 69.0%と最も高く、次いで「感染や精神的不安定などの不安を抱えている」の割合が 40.4%、「生活に対する（離職、収入減、失業など）不安を抱えている」の割合が 17.1%となっています。

回答者数 = 928



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「家事の負担が増えている」「人との交流機会が減っている」「感染や精神的不安定などの不安を抱えている」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「特に変化はない」の割合が高く、約2割となっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、50～54歳、60～64歳で「感染や精神的不安定などの不安を抱えている」の割合が高く、約5割となっています。また、20～24歳で「仕事や勉強に集中できなくなっている（不安がある）」の割合が高く、約2割となっています。

単位：％

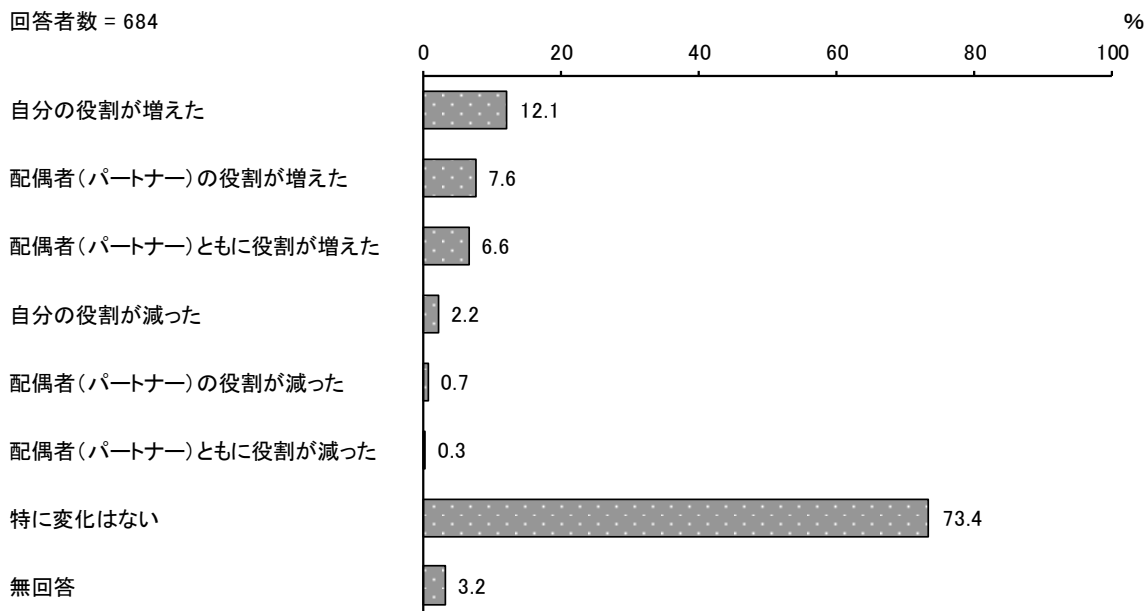
区分	回答者数（件）	家事的負担が増えている	家事的負担が減っている	仕事や勉強に集中できなくなっている（不安がある）	仕事や勉強に集中できている	子どもを叱ることが増えている	子どもを叱ることが減っている	配偶者（パートナー）との関係が悪くなっている	配偶者（パートナー）との関係が良くなっている	人との交流機会が減っている	生活に対する（離職、収入減、失業など）不安を抱えている	感染や精神的不安定などの不安を抱えている	特に変化はない	その他	無回答
20～24歳	50	12.0	—	22.0	10.0	—	—	2.0	—	54.0	14.0	40.0	16.0	—	6.0
25～29歳	52	7.7	—	7.7	3.8	—	—	1.9	3.8	51.9	17.3	26.9	28.8	—	1.9
30～34歳	54	16.7	3.7	5.6	3.7	5.6	—	3.7	5.6	57.4	13.0	37.0	24.1	3.7	3.7
35～39歳	81	18.5	2.5	8.6	1.2	16.0	1.2	9.9	6.2	75.3	17.3	38.3	6.2	8.6	1.2
40～44歳	91	16.5	2.2	11.0	3.3	17.6	—	5.5	6.6	73.6	20.9	39.6	14.3	4.4	1.1
45～49歳	96	20.8	1.0	12.5	—	8.3	—	7.3	7.3	72.9	20.8	37.5	14.6	4.2	1.0
50～54歳	86	7.0	1.2	5.8	1.2	2.3	—	4.7	3.5	60.5	22.1	47.7	18.6	3.5	1.2
55～59歳	93	15.1	1.1	6.5	4.3	1.1	—	8.6	5.4	71.0	17.2	35.5	17.2	3.2	1.1
60～64歳	81	6.2	—	7.4	—	1.2	—	4.9	8.6	75.3	19.8	48.1	8.6	—	—
65～69歳	114	13.2	0.9	2.6	—	—	0.9	2.6	6.1	73.7	14.9	39.5	17.5	2.6	3.5
70歳以上	128	10.9	2.3	3.9	0.8	2.3	—	5.5	8.6	72.7	11.7	46.9	12.5	5.5	7.8

配偶者（パートナー）がいる人にうかがいます。

問 21 新型コロナウイルス感染症の影響下で、家事・育児等に関するパートナー間の役割分担に変化がありましたか。（〇はいくつでも）

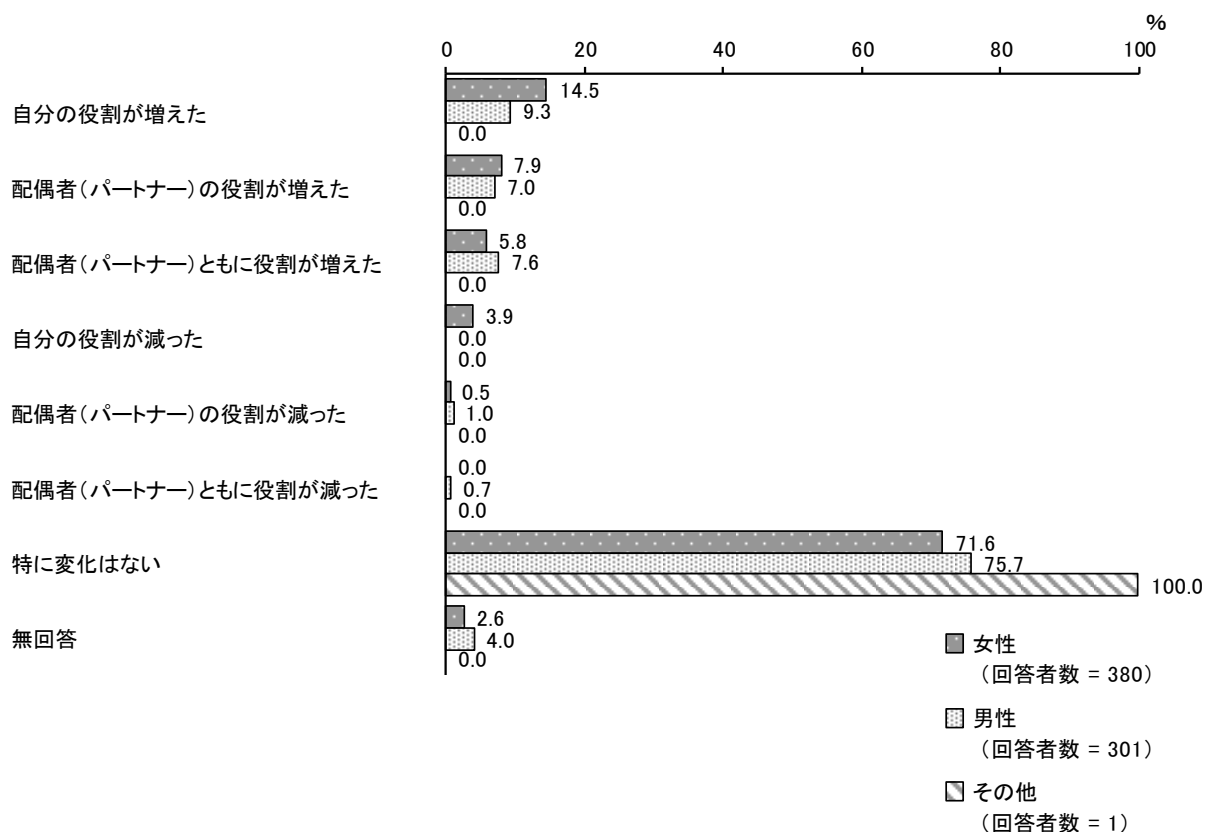
「特に変化はない」の割合が 73.4%と最も高く、次いで「自分の役割が増えた」の割合が 12.1%となっています。

回答者数 = 684



【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「自分の役割が増えた」の割合が高く、1割半ばとなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、40～44歳で「自分の役割が増えた」の割合が高く、約2割となっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	自分の役割が増えた	自分の役割が減った	配偶者(パートナー)ともに 役割が増えた	配偶者(パートナー)ともに 役割が減った	配偶者(パートナー)の役割が 増えた	配偶者(パートナー)の役割が 減った	特に変化はない	無回答
20～24歳	1	—	—	—	—	—	—	100.0	—
25～29歳	16	12.5	—	—	—	6.3	6.3	81.3	—
30～34歳	34	11.8	2.9	11.8	—	8.8	—	70.6	—
35～39歳	68	13.2	2.9	7.4	—	8.8	—	70.6	1.5
40～44歳	76	21.1	6.6	9.2	—	11.8	—	59.2	1.3
45～49歳	83	15.7	1.2	4.8	—	12.0	2.4	72.3	1.2
50～54歳	61	6.6	1.6	4.9	—	6.6	1.6	80.3	1.6
55～59歳	69	10.1	2.9	4.3	—	5.8	1.4	79.7	—
60～64歳	67	6.0	—	4.5	1.5	9.0	—	77.6	1.5
65～69歳	102	5.9	2.0	4.9	—	3.9	—	82.4	4.9
70歳以上	106	16.0	0.9	10.4	0.9	4.7	—	67.0	11.3

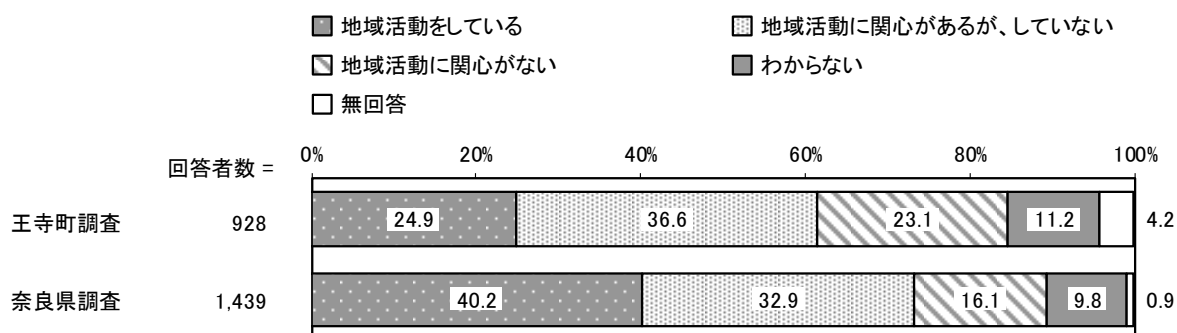
5 地域活動について

問 22 あなたは、あなたが住んだり、働いたりしている地域社会に対して、ボランティア等を通じた地域活動をしていますか。「地域活動」には、地域での近所づきあいやスポーツ・趣味の活動、社会貢献活動等を含めてお答えください。
(○は1つ)

「地域活動に関心があるが、していない」の割合が36.6%と最も高く、次いで「地域活動をしている」の割合が24.9%、「地域活動に関心がない」の割合が23.1%となっています。

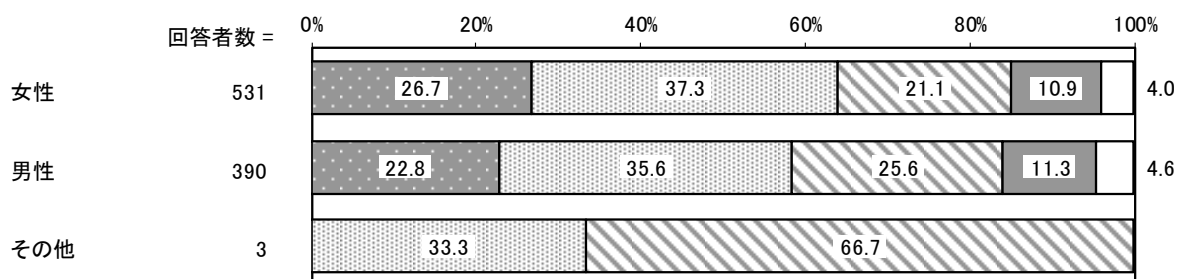
【奈良県調査（令和元年度）との比較】

奈良県調査と比較すると、「地域活動をしている」が15.3ポイント低く、「地域活動に関心がない」が7.0ポイント高くなっています。



【性別】

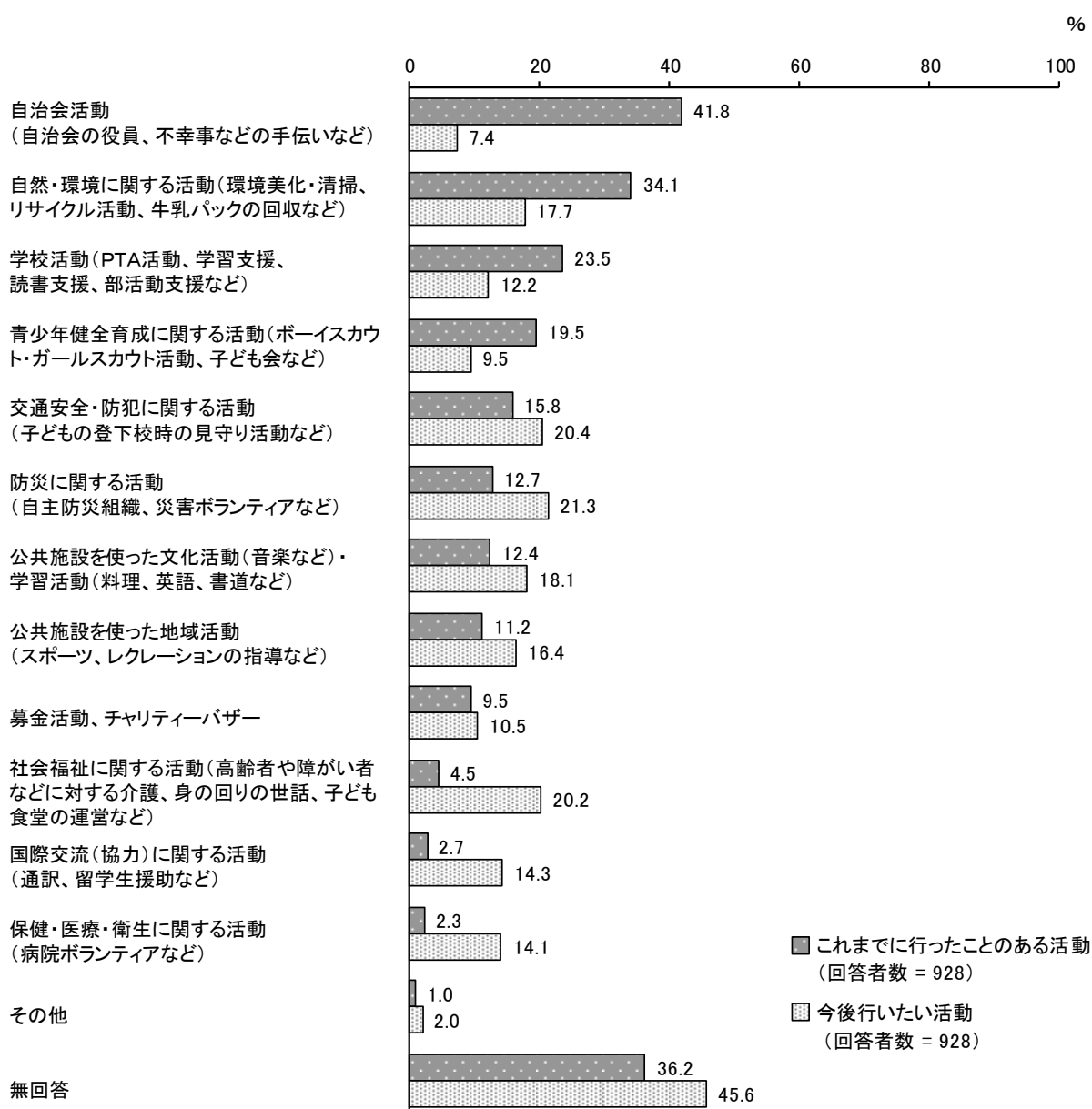
性別でみると、大きな差異はみられません。



問 23 あなたは、どのような活動を通じて地域に役立ちたいと思いますか。次の(1)～(13)の中から1. これまでに行ったことのある活動、また、2. 今後行いたい活動について、それぞれお答えください。(〇はそれぞれいくつでも)

これまでに行ったことのある活動では、「自治会活動（自治会の役員、不幸事などの手伝いなど）」の割合が41.8%と最も高く、次いで「自然・環境に関する活動（環境美化・清掃、リサイクル活動、牛乳パックの回収など）」の割合が34.1%、「学校活動（PTA活動、学習支援、読書支援、部活動支援など）」の割合が23.5%となっています。

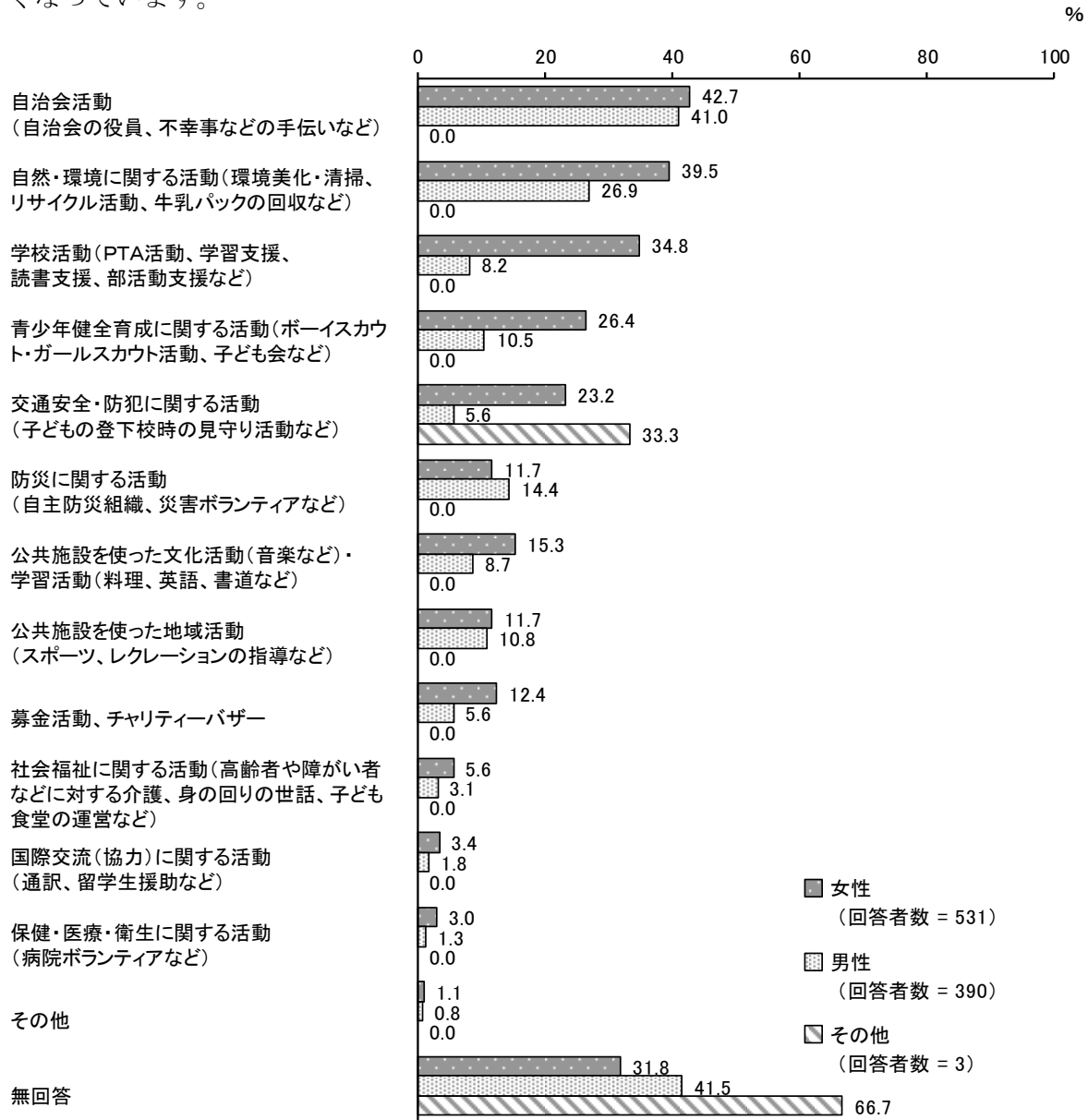
今後行いたい活動では、「防災に関する活動（自主防災組織、災害ボランティアなど）」の割合が21.3%と最も高く、次いで「交通安全・防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守り活動など）」の割合が20.4%、「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などに対する介護、身の回りの世話、子ども食堂の運営など）」の割合が20.2%となっています。



(1) これまでに行ったことのある活動

【性別】

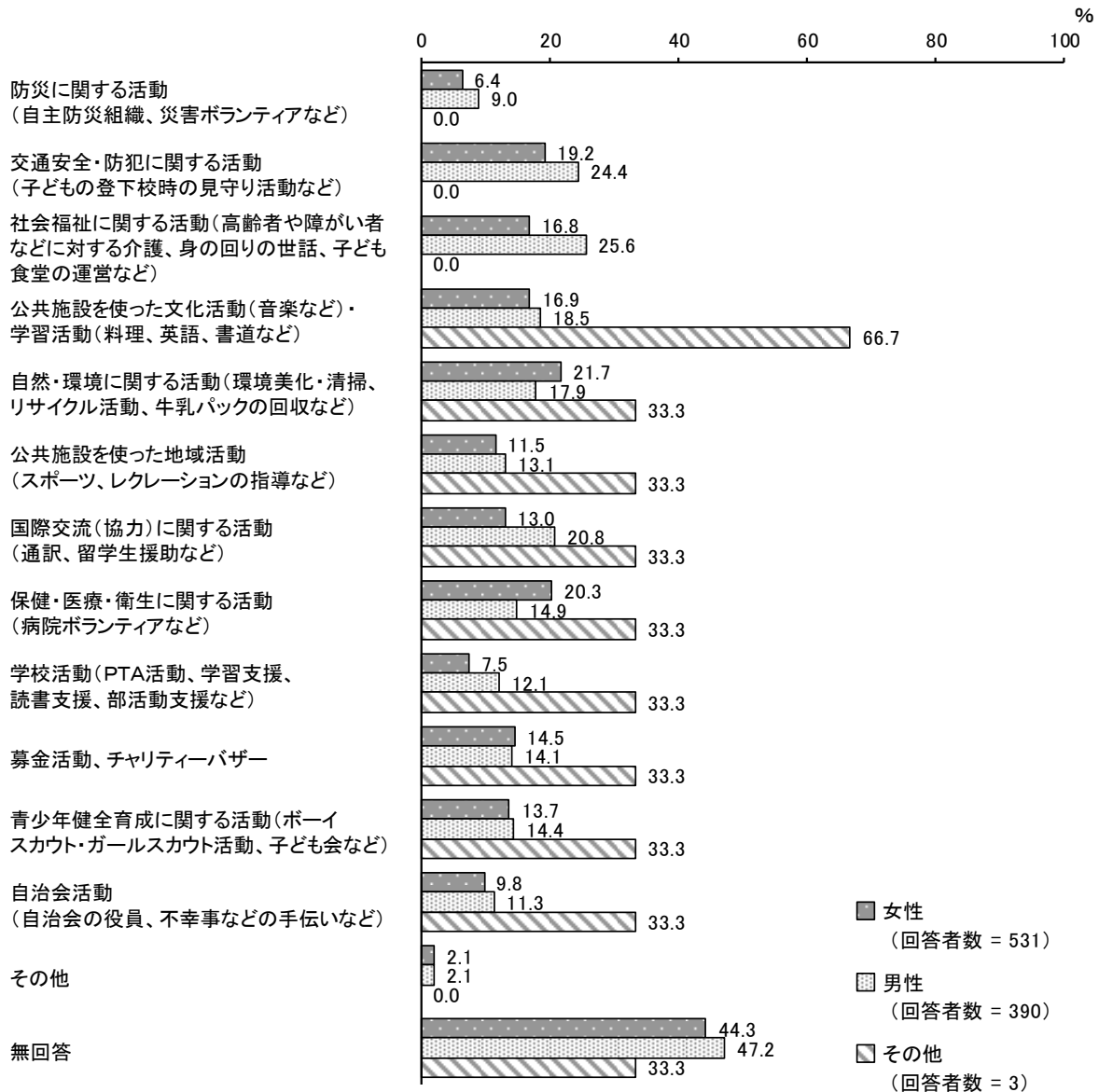
性別で見ると、男性に比べ、女性で「交通安全・防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守り活動など）」「自然・環境に関する活動（環境美化・清掃、リサイクル活動、牛乳パックの回収など）」「学校活動（PTA活動、学習支援、読書支援、部活動支援など）」「公共施設を使った文化活動（音楽など）・学習活動（料理、英語、書道など）」「青少年健全育成に関する活動（ボーイスカウト・ガールスカウト活動、子ども会など）」「募金活動、チャリティーバザー」の割合が高くなっています。



(2) 今後行いたい活動

【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「保健・医療・衛生に関する活動（病院ボランティアなど）」の割合が高く、約2割となっています。また、女性に比べ、男性で「交通安全・防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守り活動など）」「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などに対する介護、身の回りの世話、子ども食堂の運営など）」「国際交流（協力）に関する活動（通訳、留学生援助など）」の割合が高くなっています。

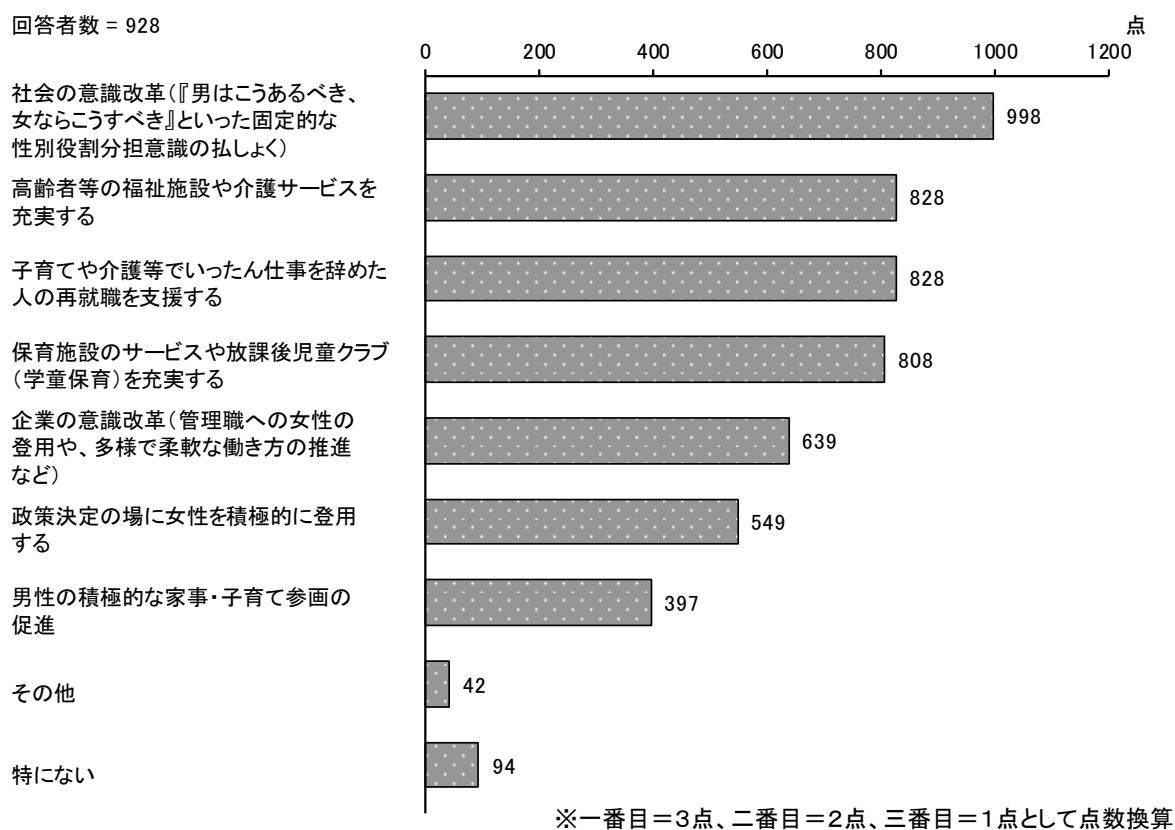


6 今後必要な施策等について

問 24 男女がともに活躍できる王寺町にするために、今後、行政はどのようなことにかを入れていくべきだと思いますか。次の中からあてはまるもの上位3つを選び、右の回答欄に番号を記入してください。

「社会の意識改革（『男はこうあるべき、女ならこうすべき』といった固定的な性別役割分担意識の払しょく）」の点数が最も高く、次いで「高齢者等の福祉施設や介護サービスを充実する」「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」となっています。

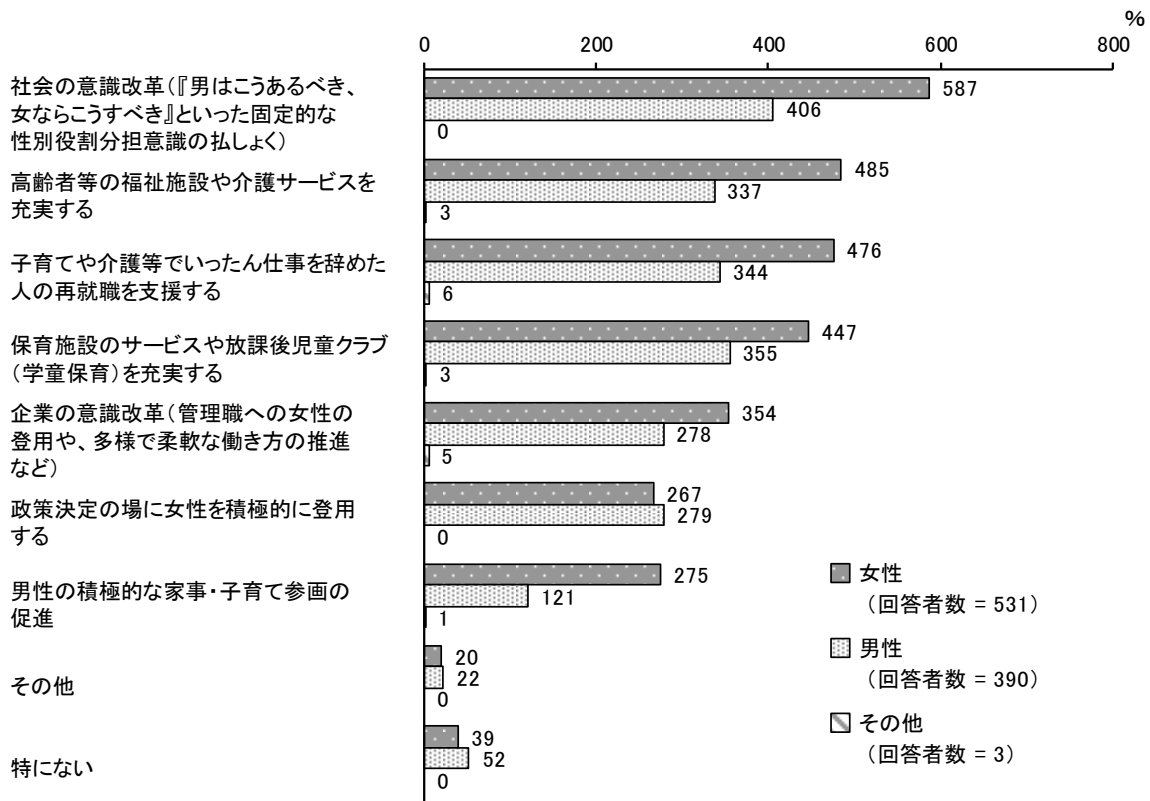
回答者数 = 928



【性別】

性別でみると、女性では「社会の意識改革（『男はこうあるべき、女ならこうすべき』といった固定的な性別役割分担意識の払しょく）」の点数が最も高く、次いで「高齢者等の福祉施設や介護サービスを充実する」「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」となっています。

男性では、「社会の意識改革（『男はこうあるべき、女ならこうすべき』といった固定的な性別役割分担意識の払しょく）」の点数が最も高く、ついで「保育施設のサービスや放課後児童クラブ（学童保育）を充実する」「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」となっています。

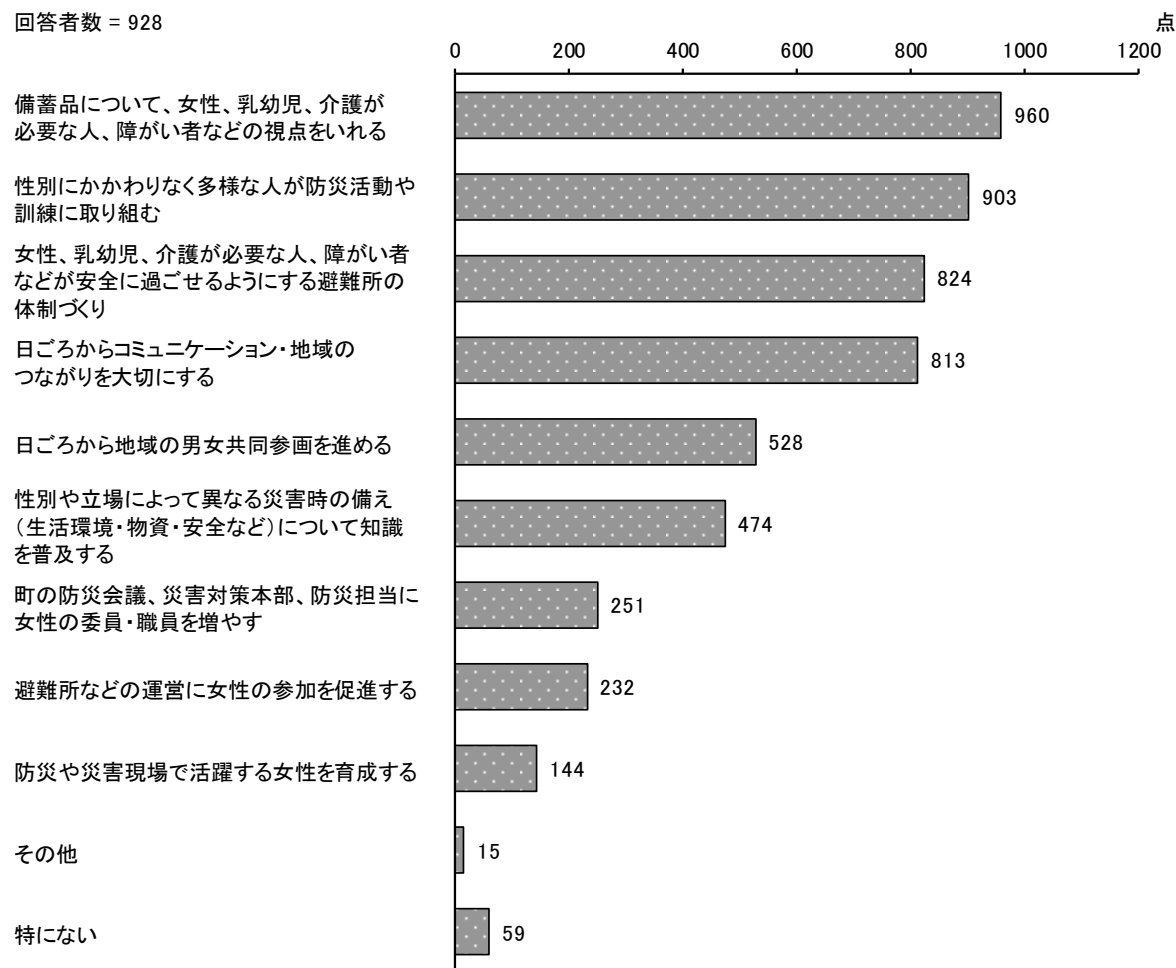


※一番目=3点、二番目=2点、三番目=1点として点数換算

問 25 東日本大震災をはじめとするこれまでの災害の教訓から、災害時に備えるために、これからどのような男女共同参画に関する施策が必要だと思いますか。次の中からあてはまるもの上位3つを選び、右の回答欄に番号を記入してください。

「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などの視点をいれる」の点数が最も高く、次いで「性別にかかわらず多様な人が防災活動や訓練に取り組む」「女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする避難所の体制づくり」となっています。

回答者数 = 928

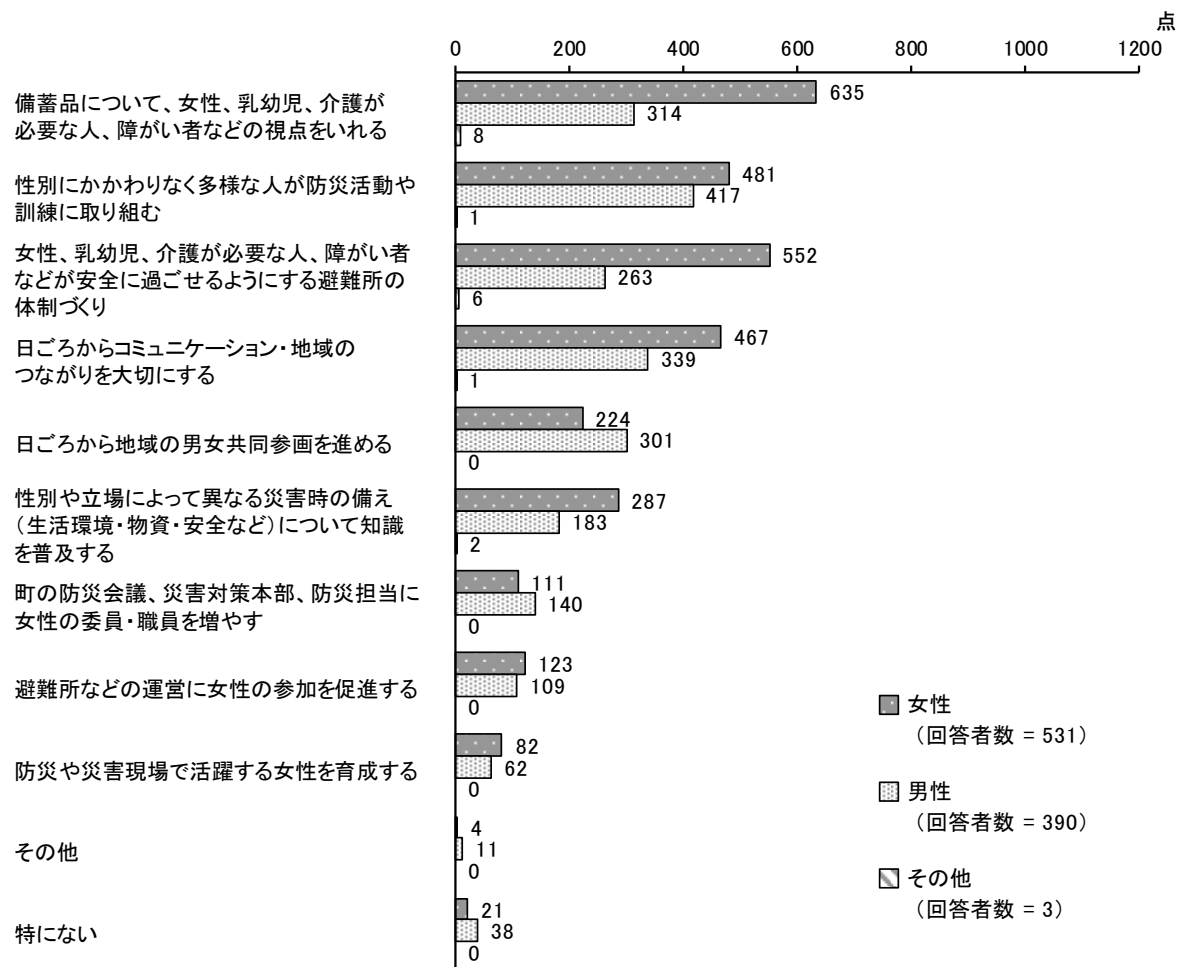


※一番目=3点、二番目=2点、三番目=1点として点数換算

【性別】

性別でみると、女性では、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などの視点をいれる」の点数が最も高く、次いで「性別にかかわらず多様な人が防災活動や訓練に取り組む」「女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする避難所の体制づくり」となっています。

男性では、「性別にかかわらず多様な人が防災活動や訓練に取り組む」の点数が最も高く、次いで「日ごろからコミュニケーション・地域のつながりを大切にする」「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などの視点をいれる」となっています。



※一番目=3点、二番目=2点、三番目=1点として点数換算

【年代別】

年代別でみると、44歳以下で「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などの視点をいれる」の点数が最も高くなっています。また、45～54歳、60～69歳で「性別にかかわらず多様な人が防災活動や訓練に取り組む」の点数が最も高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	性別にかかわらず多様な人が防災活動や訓練に取り組む	町の防災会議、災害対策本部、防災担当に女性の委員・職員を増やす	避難所などの運営に女性の参加を促進する	防災や災害現場で活躍する女性を育成する	日ごろから地域の男女共同参画を進める	備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などの視点をいれる	日ごろからコミュニケーション・地域のつながりを大切にする	性別や立場によって異なる災害時の備え(生活環境・物資・安全など)について知識を普及する	女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする避難所の体制づくり	その他	特にない	無回答
20～24歳	50	40	7	7	1	28	66	43	29	49	0	3	27
25～29歳	52	51	9	14	4	23	63	35	43	49	0	7	14
30～34歳	54	51	10	13	7	26	64	38	46	56	1	2	10
35～39歳	81	64	16	20	3	35	110	66	48	94	3	3	24
40～44歳	91	62	28	26	23	51	126	76	55	80	0	2	17
45～49歳	96	116	25	24	18	60	90	87	48	75	3	4	26
50～54歳	86	89	27	23	21	50	82	70	49	85	0	4	16
55～59歳	93	73	30	18	12	44	88	73	49	95	6	13	57
60～64歳	81	90	25	13	12	55	70	88	29	63	0	8	33
65～69歳	114	139	33	27	21	65	112	110	41	88	0	4	44
70歳以上	128	125	41	47	22	91	87	127	37	89	2	9	91

※一番目=3点、二番目=2点、三番目=1点として点数換算

女性活躍および男女共同参画について、ご意見等がありましたらお書きください

いただいたご意見をみると、「男女共同参画の考え方について」の件数が最も多くなっています。また、「職場や就労について」、「子育て、子どもの教育について」「社会問題、政治について」の意見が多くなっています。

また、「アンケート」についての意見も多くなっています。

分類回答	件数
男女共同参画の考え方について	28
職場や就労について	13
子育て、子どもの教育について	10
社会問題、政治について	10
地域での慣習や地域活動、社会活動について	6
男女の役割分担について	3
高齢化社会、介護について	3
結婚・家庭生活について	2
アンケート	20
その他	13
回答者数	108